障害者支援施設入所者・入所待機者および

精神科病院入院者意向調査

＜調査結果報告書＞

平成２７年２月

三重県健康福祉部障がい福祉課

＜目次＞

[１． 調査の概要 1](#_Toc411933428)

[(1) 目的 1](#_Toc411933429)

[(2) 調査対象 1](#_Toc411933430)

[(3) 調査基準日および調査期間 1](#_Toc411933431)

[(4) 調査内容 2](#_Toc411933432)

[(5) 調査方法 2](#_Toc411933433)

[(6) 調査票回収状況 3](#_Toc411933434)

[(7) 調査結果の集計方法 3](#_Toc411933435)

[２． 障害者支援施設入所者・精神科病院入院者意向調査の結果（調査票様式1、3） 4](#_Toc411933436)

[(1) 対象者の属性（職員への聴取項目） 4](#_Toc411933437)

[(2) 対象者本人の意向（本人への聴取項目） 14](#_Toc411933438)

[(3) 支援職員の判断等（職員への聴取項目） 35](#_Toc411933439)

[(4) 障害者支援施設入所者の状態区分 71](#_Toc411933440)

[(5) 精神科病院入院者の状態区分 78](#_Toc411933441)

[３． 障害者支援施設入所待機者意向調査の結果（調査票様式2） 82](#_Toc411933442)

[(1) 対象者の属性 82](#_Toc411933443)

[(2) 対象者本人の意向 85](#_Toc411933444)

[(3) 家族等の意向 97](#_Toc411933445)

[(4) 入所待機者の状態区分 117](#_Toc411933446)

[４． 障害者支援施設入所者家族意向調査の結果（調査票様式4） 129](#_Toc411933447)

[５． 施設・病院の自由意見 140](#_Toc411933448)

[６． 考察 144](#_Toc411933449)

# 調査の概要

## 目的

障がい者がどこで誰と生活するかについての選択の機会が確保され、地域社会において他の人々とともに生活することができるよう、障害福祉サービスの充実を図ることが課題となっています。本調査は、障がい者の地域生活に係る意向や必要な障害福祉サービス等を明らかにするとともに、次期「みえ障がい者共生社会づくりプラン」の策定における基礎資料とすることを目的として、障害者支援施設入所者（本人および家族）、障害者支援施設入所待機者（本人および家族）、精神科病院入院者（本人）を対象として実施したものです。

## 調査対象

|  |  |
| --- | --- |
| 調査区分 | 調査対象 |
| 障害者支援施設入所者調査 | 県内障害者支援施設の入所者（全数） |
| 障害者支援施設入所待機者調査 | 県内障害者支援施設の入所待機者・家族（全数） |
| 精神科病院入院者調査 | 県内精神科病院の入院者（入院1年以上で65歳未満の医療保護・任意入院者からの抽出調査） |
| 障害者支援施設入所者家族調査 | 県内障害者支援施設の入所者家族 |

## 調査基準日および調査期間

調査基準日：平成26年6月30日

調査期間：平成26年8月11日～9月24日

## 調査内容

| 調査区分 | 調査内容 |
| --- | --- |
| 障害者支援施設入所者調査 | （入所者本人）  ・将来の暮らしに関する考え方、その理由  ・地域で暮らす場合の不安　等  （入所者を支援している職員）  ・入所者の属性  ・地域移行の可能性  ・地域で暮らす場合に必要な支援環境  ・地域移行に向けた取組内容、課題　等 |
| 障害者支援施設入所待機者調査 | （入所待機者本人）  ・将来の暮らしに関する考え方、その理由  ・地域で暮らす場合の不安　等  （入所待機者の家族）  ・本人が地域で暮らすために必要と思われる支援  ・本人の将来の暮らしについて望むこと　等 |
| 精神科病院入院者調査 | （入院者本人）  ・将来の暮らしに関する考え方、その理由  ・地域で暮らす場合の不安　等  （入院者を支援している職員）  ・入院者の属性  ・地域で暮らす場合に必要な支援環境  ・地域移行に向けた取組内容、課題　等 |
| 障害者支援施設入所者家族調査 | （入所者の家族）  ・本人が地域で暮らすために必要と思われる支援  ・本人の将来の暮らしについて望むこと　等 |

## 調査方法

障害者支援施設入所者および家族への調査、精神科病院入院者への調査にあたっては、障害者支援施設・精神科病院への説明を行い、その理解と協力のもとで実施しました。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 調査区分 | 調査票 | 調査方法 |
| 障害者支援施設入所者調査 | 様式1 | ・県より障害者支援施設に調査人数分の調査票を配布し、障害者支援施設の職員が対象者に聴き取り調査を実施  ・回答調査票は施設で取りまとめ、県に返送 |
| 障害者支援施設入所待機者調査 | 様式2 | ・県より調査票を対象者に郵送配布し、郵送で回収 |
| 精神科病院入院者調査 | 様式3 | ・県より精神科病院に調査人数分の調査票を配布し、精神科病院の職員が対象者に聴き取り調査を実施  ・回答調査票は病院で取りまとめ、県に返送 |
| 障害者支援施設入所者家族調査 | 様式4 | ・県より障害者支援施設に調査人数分の調査票を配布し、障害者支援施設から入所者家族に調査票を配布・回収  ・回答調査票は施設で取りまとめ、県に返送 |

## 調査票回収状況

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 調査区分 | 調査対象等 | 調査票回収数 |
| 障害者支援施設入所者調査 | 定員数　1,728人 | 1,703件  （旧身体障害者施設　503件）  （旧知的障害者施設1,200件） |
| 障害者支援施設入所待機者調査 | 調査票送付数　353件 | 220件 |
| 精神科病院入院者調査 | 調査標本数　873件 | 883件 |
| 障害者支援施設入所者家族調査 | － | 1,250件 |

## 調査結果の集計方法

障がい特性別の傾向を見るため、障害者支援施設入所者および家族調査（様式１、様式４）においては、旧身体障害者施設（旧身体障害者療護施設等：1１施設）と旧知的障害者施設（旧知的障害者更生施設：２６施設）に分けて集計し、障害者支援施設入所待機者調査（様式２）においては、手帳所持状況別（身体障害者手帳のみ／療育手帳のみ／複数手帳所持）に分けて集計しました。

また、一定の問については、単純集計とあわせて、「入所・入院期間別」、「障がいの程度別（身体・知的は障害支援区分、精神は入院者状態群）」、「本人の望む生活場所別」などとのクロス集計を行い、その傾向を分析しました。

# 障害者支援施設入所者・精神科病院入院者意向調査の結果（調査票様式1、3）

## 対象者の属性（職員への聴取項目）

### 性別［問1］

入所・入院者の性別は、旧身体障害者施設、旧知的障害者施設、精神科病院（以下「身体」「知的」「精神」と表記）のいずれも、「男」が約6割、「女」が約4割という構成です。

図表 1 性別

### 年齢［問2］

年齢は、50歳以上が身体では約8割、精神では約7割を占めています。知的では50歳未満と50歳以上がほぼ半々です。なお、精神では調査対象を65歳未満としています。

図表 2 年齢

### 支給決定・出身の市町［問3］

支給決定または出身の市町について、障害保健福祉圏域で集約して見た場合、身体では四日市圏域、知的、精神では伊勢志摩圏域の割合が高くなっています。

図表 3 支給決定・出身の圏域

図表 4 支給決定・出身の市町

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 旧身体施設入所者[N=503] | | 旧知的施設入所者[N=1,200] | | 精神科病院入院者[N=883] | |
|  | % | 人数 | % | 人数 | % | 人数 |
| 津市 | 15.7 | 79 | 16.2 | 194 | 10.1 | 89 |
| 四日市市 | 13.3 | 67 | 12.6 | 151 | 14.2 | 125 |
| 伊勢市 | 5.8 | 29 | 7.5 | 90 | 8.7 | 77 |
| 松阪市 | 11.5 | 58 | 8.7 | 104 | 10.2 | 90 |
| 桑名市 | 6.2 | 31 | 6.5 | 78 | 8.2 | 72 |
| 鈴鹿市 | 12.7 | 64 | 7.7 | 92 | 7.2 | 64 |
| 名張市 | 2.8 | 14 | 3.5 | 42 | 2.8 | 25 |
| 尾鷲市 | 1.0 | 5 | 1.7 | 20 | 2.0 | 18 |
| 亀山市 | 1.4 | 7 | 1.5 | 18 | 1.5 | 13 |
| 鳥羽市 | 1.4 | 7 | 2.8 | 34 | 1.8 | 16 |
| 熊野市 | 1.8 | 9 | 1.6 | 19 | 1.4 | 12 |
| いなべ市 | 1.4 | 7 | 1.7 | 20 | 2.7 | 24 |
| 志摩市 | 2.6 | 13 | 3.8 | 45 | 4.2 | 37 |
| 伊賀市 | 4.2 | 21 | 4.4 | 53 | 3.9 | 34 |
| 木曽岬町 | 0.4 | 2 | 0.2 | 2 | 0.3 | 3 |
| 東員町 | 0.8 | 4 | 0.6 | 7 | 1.1 | 10 |
| 菰野町 | 3.2 | 16 | 0.9 | 11 | 0.7 | 6 |
| 朝日町 | 0.2 | 1 | 0.3 | 4 | 0.1 | 1 |
| 川越町 | 0.8 | 4 | 0.5 | 6 | 0.3 | 3 |
| 多気町 | 1.2 | 6 | 0.8 | 10 | 1.0 | 9 |
| 明和町 | 0.6 | 3 | 1.5 | 18 | 1.1 | 10 |
| 大台町 | 0.6 | 3 | 0.9 | 11 | 0.8 | 7 |
| 玉城町 | 0.4 | 2 | 0.9 | 11 | 0.8 | 7 |
| 度会町 | 0.4 | 2 | 0.8 | 9 | 0.3 | 3 |
| 大紀町 | 1.8 | 9 | 0.8 | 9 | 1.9 | 17 |
| 南伊勢町 | 1.4 | 7 | 1.8 | 22 | 1.8 | 16 |
| 紀北町 | 1.0 | 5 | 1.6 | 19 | 1.6 | 14 |
| 御浜町 | 0.6 | 3 | 0.7 | 8 | 0.6 | 5 |
| 紀宝町 | 0.6 | 3 | 0.9 | 11 | 0.9 | 8 |
| 県外 | 4.4 | 22 | 6.4 | 77 | 6.9 | 61 |
| 無回答 | 0.0 | 0 | 0.4 | 5 | 0.8 | 7 |

### 障害者手帳の等級［問4］

障害者手帳の等級は、身体では「身体1級」が多くなっています。知的では「知的A1」と「知的A2」がほぼ半々となっています。精神では「精神2級」と「不所持」がいずれも4割程度となっています。

図表 5 障害者手帳の等級（複数回答）

障害者手帳の所持状況で見ると、身体では、身体障害者手帳のみの人が約8割、身体障害者手帳と療育手帳を所持する人が1割程度となっています。知的でも、療育手帳のみの人が約8割、身体障害者手帳と療育手帳を所持する人が1割程度です。精神では、精神障害者保健福祉手帳を所持する人と、不所持の人が、ほぼ半々となっています。

図表 6 障害者手帳の所持状況

### 障害支援区分［問5］

障害支援区分は、身体、知的とも「区分6」が半数以上となっています。精神では「区分認定を受けていない」がほとんどを占めます。

図表 7 障害支援区分（身体、知的）

図表 8 障害支援区分（精神）[N=883]

身体、知的について、年齢別で見ると、いずれも、おおむね高齢になるほど「区分６」の割合が低くなり、「区分５以下」の割合が高くなる傾向です。

図表 9 障害支援区分；年齢別

### 入所・入院期間［問6］

入所期間は、10年以上が身体で約6割、知的で8割近くとなっています。また、知的では20年以上がほぼ半分を占めています。精神の入院期間は、1年以上5年未満が約4割である一方、10年以上も3割以上となっています。

図表 10 入所期間（身体、知的）

図表 11 入院期間（精神）[N=883]

年齢別で見ると、おおむね年齢が上がるにつれて入所・入院期間も長くなっていますが、知的では、30～64歳の年齢層で、高齢になるほど5年未満の割合が高くなっています。

図表 12 入所・入院期間；年齢別

### 精神科病院入院者の属性［様式3の問5-1～3、問6-1］

精神科病院入院者の能力障害評価ランクについて聞いたところ、「日常生活･社会生活に著しい制限を受けており､常時援助を必要とする」が約4割、「日常生活･社会生活に著しい制限を受けており､時に応じて援助を必要とする」が約3割となっています。

図表 13 能力障害評価ランク[N=883]

精神症状評価ランクについては、精神症状評価④以上が7割近くを占めます。

図表 14 精神症状評価ランク[N=883]

＜精神症状評価ランク＞

|  |  |
| --- | --- |
| ① | 症状がまったくないか、あるいはいくつかの軽い症状が認められるが日常の生活の中ではほとんど目立たない程度である。 |
| ② | 精神症状は認められるが、安定化している。意思の伝達や現実検討も可能であり、院内の保護的環境ではリハビリ活動に参加し、身辺も自立している。通常の対人関係は保っている。 |
| ③ | 精神症状、人格水準の低下、認知症などにより意思の伝達や現実検討にいくらかの欠陥がみられるが、概ね安定化しつつあるか、または固定化している。逸脱行動は認められない。または軽度から中等度の残遺症状がある。対人関係で困難を感じることがある。 |
| ④ | 精神症状、人格水準の低下、認知症などにより意思の伝達か判断に欠陥がある。行動は幻覚や妄想に相当影響されているが逸脱行動は認められない。あるいは中等度から重度の残遺症状（欠陥状態、無関心、無為、自閉など）、慢性の幻覚妄想などの精神症状が遷延している。または中等度のうつ状態、躁状態を含む。 |
| ⑤ | 精神症状、人格水準の低下、認知症などにより意思の伝達に粗大な欠陥（ひどい滅裂や無言症）がある。時に逸脱行動が見られることがある。または最低限の身辺の清潔維持が時に不可能であり、常に注意や見守りを必要とする。または中等度のうつ状態、躁状態を含む。 |
| ⑥ | 活発な精神症状、人格水準の著しい低下、重度の認知症などにより著しい逸脱行動（自殺企図、暴力行為など）が認められ、または最低限の身辺の清潔維持が持続的に不可能であり、常時厳重な注意や見守りを要する。または重大な自傷他害行為が予測され、厳重かつ持続的な注意を要する。しばしば隔離なども必要となる。 |

能力障害評価ランクと精神症状評価ランクにより、入院者の状態群を以下のとおり整理すると、「5群」が7割近くを占めています。年齢別で見ると、年齢が上がるほど「1群」の割合が高くなっています。

図表 15 精神科病院入院者の状態群

＜精神科病院入院者の状態群＞

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 精神症状評価① | 精神症状評価② | 精神症状評価③ | 精神症状評価④ | 精神症状評価⑤ | 精神症状評価⑥ |
| 能力障害１ | 日常生活･社会生活は普通にできる | 1群 | | 2群 | 5群 | | |
| 能力障害２ | 日常生活･社会生活に一定の制限を受ける |
| 能力障害３ | 日常生活･社会生活に著しい制限を受けており､時に応じて援助を必要とする | 2群 | | 3群 |
| 能力障害４ | 日常生活･社会生活に著しい制限を受けており､常時援助を必要とする | 4群 | | |
| 能力障害５ | 身の回りのことはほとんどできない |

|  |  |
| --- | --- |
| １群 | 見守り、必要時の相談があれば地域生活が可能 |
| ２群・３群 | いつでも直ちに支援できる24時間ケアがあれば地域生活が可能 |
| ４群 | ２群・３群に加え、介護支援必要度の高いサービスがあれば、地域移行が可能 |
| ５群 | 継続して入院治療を要する状態 |

精神科病院入院者の主たる疾患名については、「統合失調症､分裂病型障害及び妄想性障害」が約8割とほとんどを占めます。その他、「精神遅滞」が4.5%、「気分(感情)障害」が3.5%等となっています。

図表 16 主たる疾患名[N=883]

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| アルツハイマー病の認知症 | 0.7% | 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害 | 0.5% |
| 血管性認知症 | 0.7% | 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 | 0.1% |
| 上記以外の症状性を含む器質性精神障害 | 1.4% | 成人の人格及び行動の障害 | 0.2% |
| アルコール使用による精神及び行動の障害 | 1.4% | 精神遅滞 | 4.5% |
| 覚せい剤による精神及び行動の障害 | 0.3% | 心理的発達の障害 | 0.0% |
| アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害 | 0.1% | 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害 | 0.1% |
| 統合失調症、分裂病型障害及び妄想性障害 | 80.5% | てんかん | 0.7% |
| 気分（感情）障害 | 3.5% | その他 | 1.1% |
|  |  | 無回答 | 4.2% |

入院形態については、「任意入院」が約6割、「医療保護入院」が約4割となっています。入院期間別に見ると、1年以上5年未満の人では「任意入院」と「医療保護入院」がほぼ半々であり、入院期間が長くなるにつれ「任意入院」の割合が高くなります。

図表 17 入院形態[N=883]；入院期間別

## 対象者本人の意向（本人への聴取項目）

### 聴き取りが可能か［問7］

聴き取りが可能かどうかを確認したところ、「聴き取りが可能」が身体では約7割、精神では約8割となっています。知的では「聴き取りが可能」と「聴き取りが不可能」がほぼ半々となっています。

図表 18 聴き取りが可能か

性別で見ると、「聴き取りが可能」の割合は、身体では男性が高く、知的では女性が高くなっています。精神ではほぼ同じ割合です。

図表 19 聴き取りが可能か；性別

年齢別で見ると、身体、知的では、高齢になるほど「聴き取りが可能」の割合が高くなる傾向です。

図表 20 聴き取りが可能か；年齢別

入所・入院期間別に見ると、以下のとおりとなっています。

図表 21 聴き取りが可能か；入所・入院期間別

入所者の障害支援区分別、入院者の状態群別（12ページ参照）で見ると、いずれも、区分または状態群が上がると「聴き取りが不可能」の割合が高くなる傾向です。

図表 22 聴き取りが可能か；障害支援区分別

図表 23 聴き取りが可能か；状態群別

手帳所持状況別で見ると、身体では複数手帳所持等だと「聴き取りが不可能」の割合が高くなっています。

図表 24 聴き取りが可能か；手帳所持状況別

### 将来生活したい場所［問8］

「聴き取りが可能」の人に、将来生活したい場所を聞いたところ、身体では「今いる施設」が約6割、「違うところ」が約2割となっています。一方、知的では「今いる施設」と「違うところ」がほぼ半々です。精神では「病院以外」が6割以上です。

図表 25 将来生活したい場所

性別で見ると、身体では、女性の方が「今いる施設」の割合がやや高くなっています。

図表 26 将来生活したい場所；性別

年齢別で見ると、いずれも、高齢になるほど「今いる施設／病院」の割合が高くなる傾向です。また、身体では若齢層でも「今いる施設」の割合が高くなっています。

図表 27 将来生活したい場所；年齢別

入所・入院期間別で見ると、精神では入院期間が長いほど「病院での生活が良い」の割合が高くなっています。

図表 28 将来生活したい場所；入所・入院期間別

入所者の障害支援区分別、入院者の状態群別で見ると、身体では、人数の少ない区分３を除き、区分が重くなるほど「違うところ」の割合が高くなる傾向です。

知的、精神では、「違うところ/病院以外」の割合は、区分等による差はそれほど大きくありません（人数の少ない精神4群は除く）。

図表 29 将来生活したい場所；障害支援区分別

図表 30 将来生活したい場所；状態群別

手帳所持状況別で見ると、以下のとおりです。

図表 31 将来生活したい場所；手帳所持状況別

### ｢今いる施設/病院での生活が良い｣と回答した理由［問9］

｢今いる施設/病院での生活が良い｣と回答した人に、その理由を聞いたところ、いずれも、「今いるところ/病院での生活が楽しい､安心だから」が高い割合となっています。また、身体で「施設を出ると､食事･お風呂･トイレなどで困るから」、精神で「他に生活する場所がないから」などの割合も比較的高くなっています。なお、「その他」としては、「家族から虐待を受けていた」「お金が充分あれば専属ヘルパーと看護師を雇って自宅生活したいが、それができないから」などの回答もありました。

図表 32 ｢今いる施設/病院での生活が良い｣と回答した理由（複数回答）

### ｢違うところ/病院以外での生活が良い｣と回答した理由［問10-1］

｢違うところ/病院以外での生活が良い｣と回答した人に、その理由について自由に回答を求めたところ、身体で65件、知的で172件、精神で386件の回答がありました。意見内容としては、精神で、自宅に戻りたいという回答が比較的多く見られました。また、自由な生活がしたいという回答も多くなっています。身体、知的でも、自宅に戻りたいという回答が多くなっています。また、知的では、他の入所者との人間関係等で今の施設に不満があり、施設から出たいという回答も比較的多く見られます。

図表 33 自由回答の内容

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 理由分類 | 身体 | 知的 | 精神 |
| 自宅に戻りたい、家族と生活したい | 28 | 65 | 148 |
| 仕事をしたいので施設/病院から出たい | 2 | 13 | 26 |
| 自由な生活がしたいので施設/病院から出たい | 1 | 5 | 68 |
| ひとり暮らしやグループホーム等での生活をしたい、自立生活がしたい | 10 | 23 | 30 |
| 今の施設/病院に不満がある、とにかく退所/退院したい | 9 | 40 | 48 |
| その他 | 15 | 26 | 66 |
| 合計 | 65 | 172 | 386 |

■自由回答（抜粋）

|  |
| --- |
| （身）以前は施設で暮らしていきたいと思っていたが、今はリハビリで精一杯だけど、将来は結婚して別の生活もしてみたいという気持ちがでてきた。 |
| （身）自分のしたいことを自分で決めて生活できるようになりたい夢がある。絵を描くことが大好きなのでいっぱい絵を描いていろんな人にみてもらって、いろんなことを感じてほしい。 |
| （知）知人のいるグループホームで暮らしたい。 |
| （知）施設での集団生活が苦痛。騒がしい環境が苦手。 |
| （精）職員にいろいろ言われるのが嫌い。ゆっくり生活したい。 |
| （精）病院だと気を使ってゆっくりできない。お風呂にゆっくり入りたい。病院だとすることがない。することがないと、食べることに気が集中する。 |
| （精）入院していると、同じ事の繰り返しで進展がない。ただ生きているだけと思うから。 |
| （精）ステップで暮らしたいから。（ステップとは集合住宅（シェアハウス）のこと） |

### ｢違うところ/病院以外｣の具体的な場所［問10-2］

｢違うところ/病院以外での生活が良い｣と回答した人に、具体的な場所を聞いたところ、いずれも「自宅」が高い割合となっています。それ以外では、身体で「他の施設」、知的で「グループホーム」、精神で「アパート･公営住宅」を約2割の人があげています。

図表 34 ｢違うところ/病院以外｣の具体的な場所

### 「違うところ/病院以外」で生活するにあたり心配なこと［問10-3］

｢違うところ/病院以外での生活が良い｣と回答した人に、生活するにあたり心配なことを聞いたところ、以下のとおりです。

＜身体＞　①介護53%、②家事43%、③薬・体調管理等42%、④お金39%、

⑤その他18%

＜知的＞　①家事31%、②薬・体調管理等29%、③仕事・日中活動26%、④お金22%、⑤その他21%

＜精神＞　①お金38%、②薬・体調管理等24%、③家事24%、④つきあい21%、

　　　　　⑤その他19%

身体では「介護」、知的では「家事」、精神では「お金」が1位となっています。「家事」「薬・体調管理等」「お金」は、身体、知的、精神とも上位に位置しています。また、知的では「仕事・日中活動」が、精神では「つきあい」が上位にあがっています。

図表 35 「違うところ/病院以外」で生活するにあたり心配なこと（複数回答）

### ｢わからない｣と回答した理由［問11］

｢わからない｣と回答した人に、その理由を聞いたところ、いずれも「イメージがわかない、意味がわからない」という人が多く、特に知的で高い割合となっています。なお、「その他」では「家に帰りたいが家族が反対する」という回答もありました。

図表 36 ｢わからない｣と回答した理由

### 受けられる手助け（サービス）について知りたいか［問12］

「聴き取りが可能」な人に、受けられる手助け（サービス）について知りたいかどうかを聞いたところ、「知りたい」と回答した人はいずれもほぼ半数にとどまっています。

図表 37 受けられる手助け(サービス)について知りたいか

身体、知的について、入所者の障害支援区分別に見ると、身体では、区分6で「知りたい」が比較的高い割合となっています。知的では、区分が重くなると「知りたい」の割合が低くなる傾向です。

図表 38 受けられる手助け(サービス)について知りたいか；障害支援区分別

精神について、入院者の状態群別に見ると、人数の少ない4群を除き、いずれも「知りたい」の割合はほぼ半数となっています。

図表 39 受けられる手助け(サービス)について知りたいか；状態群別

また、将来生活したい場所の質問（19ページの問８）で、「違うところ／病院以外での生活が良い」と回答した人を「地域希望」、「今いる施設／病院での生活が良い」または「わからない」と回答した人を「施設／病院希望・不明」と区分し、本問の回答状況を見たところ、身体、知的、精神のいずれも「地域希望」だと「知りたい」の割合が高くなっています。

図表 40 受けられる手助け(サービス)について知りたいか；本人の望む生活場所別

### 一番言いたいこと［問13］

入所・入院者が一番言いたいことについて、自由に回答を求めたところ、身体で194件、知的で278件、精神で435件の回答がありました。意見内容としては、精神で、早く退院したい、自宅に戻りたいという意見が比較的多く見られました。一方、身体では、このまま施設で生活したいという意見が比較的多く見られます。また、知的では、端的に何かをしたい（外出したい、仕事をしたい、おいしいものを食べたい等）という意見が多くなっています。

図表 41 自由意見の内容

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 意見分類 | 身体 | 知的 | 精神 |
| 退所/退院したい、自宅に戻りたい、家族と暮らしたい等の意見 | 15 | 35 | 109 |
| 施設/病院への要望に関する意見 | 23 | 28 | 78 |
| 生活支援や制度の充実等に関する意見 | 39 | 27 | 34 |
| 施設/病院に居たい、このまま生活したい等の意見 | 44 | 30 | 20 |
| やりたいことについての意見 | 33 | 101 | 58 |
| お金の心配や手当の増額希望等に関する意見 | 2 | 5 | 21 |
| その他 | 38 | 52 | 115 |
| 合計 | 194 | 278 | 435 |

■自由回答（抜粋）

＜身体、知的＞

◇地域生活や社会資源などについて

|  |
| --- |
| （身）他の施設も見学してみたい。 |
| （身）施設にいると地域移行の情報がなく、地域での具体的な生活へのシフトがイメージできない。 |
| （身）詳しく情報を知りたい時等、施設へ来て地域移行に関して説明に来てほしい。 |
| （身）地元の老人ホームの様な施設でどんな事をしているか自分もできるのかどうかという事を知りたい。 |
| （身）重度障害者が地域で生活するグループホームや社会資源をもっと作ってほしい。 |
| （身）施設を増やしてほしい（車いすでも生活のできるグループホームなど）。 |
| （身）自宅でも希望した時に希望しただけの介護サービスが受けられたら生活ができるかも。 |
| （身）自立生活体験室を利用させてもらったとき、ヘルパー２名対応でしてもらった。もし自宅で訪問介護をお願いするとしたら、２名対応で夜間も一緒にいてもらえたら安心。 |
| （身）地域にいる人が地域で暮らせるようになってほしい。単身で暮らせる場所があってもヘルパー事業所がない。ヘルパー事業所があっても支給が下りない等。 |
| （身）毎日このままでいいのかと思ってしまう。仕事に行きたい。アパートに住みたい。結婚もしたい。ここを出てそうする。 |
| （身）自宅で生活をする前に、色々身の回りのことができるように練習ができるところを利用して、できることを増やしたい。 |
| （身）やってみないと何ともいえないがとりあえず前進したい。 |
| （身）何ができないかではなく、何ができるかをやっていかなければ一歩も前に進めない。 |
| （知）グループホームを見たい。見ないとわからない。 |
| （知）てんかん発作がなかったらグループホームで暮らしたい。 |
| （知）ひとり暮らしをしてみたい。洗濯も上手にしてみたい。行事やイベントにもいっぱい参加したい。ディズニーランドに行きたい。 |
| （知）いろいろと知りたい。 |
| （知）違う環境になった場合、食事風呂等ちゃんとしたサービスが受けられるか知りたい。 |
| （知）目からの情報しか知ることができないのでもっと視覚でわかるようにしてほしい。もっと自分の取り巻く環境が変化してほしい。施設内はいいが、地域が全く理解してくれない。 |
| （知）今の施設近くで生活する場があれば暮らしてみたい。 |
| （知）地域移行した場合、近所、周りの人とうまくやっていけるかが不安。 |
| （知）自立のことは別として、将来性のある人を鍛えてあげたらいいと思う。ここは全部なあなあ状態。 |
| （知）ここはあかん。みんな同じ部屋にいるから。 |

◇家族について

|  |
| --- |
| （知）お母さんに会いたい。 |
| （知）姉に会いたい。 |
| （知）面会に来てほしい。家に帰りたい。 |
| （知）母親、兄に会いたい。 |
| （知）母や妹に面会に来てほしい。 |
| （知）お母さんとお父さんが死んでほしくない。お父さんがしあわせでいてほしい。 |

◇施設・職員への要望、施設環境について

|  |
| --- |
| （身）職員のやってあげてる感が気になる。利用者によって態度が変わるのはよくない。 |
| （身）会話が少ない。もっと話がしたい（広い意味で）。担当市町の人とも話がしたい。 |
| （身）職員が忙しいのはわかるが、もっと優しく物や身体を扱ってほしい。 |
| （身）もっと自由に外出がしたい。1人で外出してみたい。 |
| （身）施設の外出支援だけでは足りない。ヘルパーを利用して外出できるようにしてほしい。 |
| （身）施設を入所しているときもドライブ、買い物など外出できるサービスをつかえるようにしてほしい。 |
| （身）介護職員の負担をもっと減らしてあげたい。入居者との心の会話ができるように人数、時間を作ってほしい。 |
| （身）トイレをもう少し広げてほしい。 |
| （身）相談する相手がなくさびしい。 |
| （身）施設の職員（介護職）を増やしてほしい。何か頼もうと思うと「ちょっと待って」と言われることが多い。食事が後まわしになる事がある。職員の言葉遣いが気になる。何だか怒られているような気になる。 |
| （身）いろいろ不安になることがある。ゆっくり話を聞いてほしい。 |
| （身）言葉とか解らない事が多いので解る様に教えてほしい。 |
| （知）話をしっかり聞いてほしい。 |
| （知）嫌なことを言ってくる人がいる。 |
| （知）周りの人が騒がしいのが嫌。 |
| （知）ケンカが多く困る。 |
| （知）自分の部屋に黙って入り、物を触ったり持っていったりする人がいて嫌。（入ってくるのは構わない、話をしにくるのであれば問題ない） |

◇施設がいい、わからないなど

|  |
| --- |
| （身）「家で生活できないからここにきたのに、なんでそんな質問をするのか？いろんなサービスや住む場所がある中で選択できるのならまだしも、ないのにどうしたいこうしたいと聞かれても意味が無い。」と言いつつ、「他でいいところはないかなあ」とも。 |
| （身）ここでいい。 |
| （身）急に聞かれても難しい。写真や資料を見せられてもわからない。 |
| （身）現在利用料が６万円ぐらいだが、老人施設などに行くと何倍にも跳ね上がると聞いた。こういうことを考えると慣れたところがいい。 |
| （身）施設での生活をもっとよくしていくことも大切だ。 |
| （身）自分が何でここにいるのか分からない。 |
| （知）姉の家で暮らしたいけど夏休みに帰った時に便の失敗をして迷惑をかけた。迷惑をかけたくない。お母さんが「人に迷惑をかけないで」と言っていた。姉の家の近くの施設でいいと思う。グループホームもいいと思うが姉の近くがいい。 |
| （知）とにかく今の施設にいたい。 |
| （知）ここの生活は楽しいです。何も心配はありません。 |

◇やりたいこと

|  |
| --- |
| （身）働きたい。 |
| （知）仕事はなんでもよいので仕事をしてお金をもらいたい。 |
| （知）買い物に行きたい。外食したい。 |
| （知）好きな物をもっと食べたい。 |
| （知）嵐が好き。コンサートに行きたい。 |
| （知）温泉旅行に行きたい。 |
| （知）パソコンとかで勉強ができたらいいな。 |

◇お金について、その他

|  |
| --- |
| （身）障害年金が少ない。高齢者施設には高くて入れない。 |
| （身）施設外へ出た時（買い物など）回りの人からの視線が嫌だ。車イスや障害者に対する理解が少ないように感じる。 |
| （身）役所の人がもっと施設を知ってほしい。こんなアンケートは施設の職員がすべきでない。県の職員がすればいい。 |
| （身）サービス支給窓口になっている市町に自分の思いを伝えてはいるが、あまり良い返事が聞けない事に不安がある。 |
| （身）自分の言葉が伝わりにくいのが心配。もっと言葉をうまく出せるようになりたい。 |
| （知）お金の管理をしたことがないのでどうしたらいいかわからない。 |
| （知）病気（てんかん）が治るか心配。薬が気になる。 |
| （知）じっきに（すぐに）壮年期から老年期になって年を取っていくだけ。 |

＜精神＞

◇退院したいなど

|  |
| --- |
| 早く退院して地域で生活したい。 |
| 退院して普通に暮らしたい。自立（家事全般）したい。 |
| 早く退院して働きたい。 |
| 早く直して退院したら結婚したい。 |
| 自由に生きて行きたい。 |
| 早く退院したい。薬が多すぎるので体がえらい。 |
| 家族には反対されているが、本当は早く退院したい。 |
| お兄さんが理解してくれたら退院したい。お金のことが上手くいけば、施設に行ってデイケアに行きたい。 |
| 退院したい。Drがいつでも退院OKと言ってくれた。姉が退院させてくれない。GHも興味ある。 |
| 入院中の患者同士の人間関係について悩んでいる。他患からのお願いを断ることができず、言うとおりにしてしまう。退院先について、家人（姉）は同居を考えているが、自分はグループホームで暮らして働きたい。それを分かってもらえない。 |
| もう少し年を取ったら、退院して老人ホームに行きたい。 |
| 退院出来るようになったら、施設の見学に行きたい。 |
| グループホームに入りたい。お金が心配。 |
| 患者は良くなったらどんどん退院させていくべきと思う。外の空気にふれなあかん。とにかく外に出ること。バスレクみたいに、外の社会にふれないとあかん。ずっと病院におったら気が滅入ってくる。頭ぼけてくる。運動不足になる。バスレクや外出をじゃんじゃんやっていくべきと思う。 |
| 退院したいが不安。誰かがみてくれるところで生活がしたい。 |
| 退院のイメージわかない。家人に入院していた方がいいと言われたことも気になっている。 |
| GHや施設で生活した体験がないのでわからない。年金だけで入れるGHがあると安心できる。GHと就労Bの組み合わせ以外に、GH入居時に日中の過ごし方が選べるよう種類が増えて欲しい。 |
| 近所付き合いなどの援助、工夫に協力してもらえたら楽になる。仕事はムリ。家事も出来ていたことが、出来なくなって不安。 |
| アパートがどこにあるかわからない。アパートを作って欲しい。 |
| 相談する人がいない。相談する人がいれば退院出来るかも知れない。 |
| 退院して、またはアパートに住むにあたって困ったことがあったら薬の管理とか相談事ができますか？通院して、入退院を繰り返すと病院もかわってしまう。 |
| 病院から住む場所、働くところを退院に備えて提供してほしい。 |
| 自宅がないので、退院できません。アパートやGHは嫌です。 |

◇家族について

|  |
| --- |
| お姉さんに外出の度に、お金を要求される。外出中もすごく怒られる。身の回りのことができない。自宅に帰ったら、お姉さんに怒られるし実際に退院する家もないから。 |
| （両親が生きている間に）両親に会いたい。 |
| 妻や子供に会いたい。 |
| 家からの連絡がない事がさびしい。 |

◇働きたい、外出したいなど

|  |
| --- |
| とにかく仕事がしたい。調理師の免許も持っているので、それでもいい。時給がいいので、パチ屋でもいい。そのために早くグループホームに行きたい。 |
| 年齢的（５０才代）に就労が可能か。仕事が見つかるのか心配。親の亡き後、一人で生活（家事、経済面）ができるかどうか心配。 |
| 外に出かけたい。 |
| 自宅への外泊を続けていきたい。 |

◇病気、治療などについて

|  |
| --- |
| 病気を早く治したい。 |
| まだまだな自分だけど、がんばりたい。父と主治医が退院していいよというまで治療を頑張る。 |
| 受け持ち看護師がずっと死ぬまで変わらないで欲しい。 |
| 看護師さんにもう少し声をかけてほしいなと思う時がある。 |
| 便が出ない。 |
| パニックが治ってほしい。 |
| 薬を減らしてほしい。 |
| 爆音機が怖い、5分おきに鳴る。 |
| 水中毒を治したい、OTをがんばりたいけどうまくいっていない。 |
| 他の病院に転院したい。 |
| 入院は集団生活のため時間に制限されることが嫌です。 |

◇病院がいい、わからない

|  |
| --- |
| 将来のことはわからない。今すぐ退院したいわけではない。 |
| 住むところがあれば、一人で生活していける。ただ、嫁さんもいないし、ご飯の心配がある。できれば、このまま病院に居たい。 |
| 社会資源についても知っているが、自分の中で考えがまとまらない。 |
| 病院に居ることに不満はない。外に出ると前みたいに幻覚がひどくなるので、それがこわい。ここに居ると安心するので、ここにいたい。それ以外は考えられない。 |
| 病院での生活はいろいろきめ細やかな配慮をしてもらえるので良いと思っているが、できればリハビリを充実させて欲しい。 |
| グループホームでは生活できないと思っている。家族と生活してもダメだった。病院で職員に叱ってもらいながらここで生活したい。男女関係でややこしくなるような事は嫌。 |
| 社会に出るのが不安。 |
| 退院しても、自宅や施設に行って他の人とは上手くやっていけない。退院の事についてはなるべく聞かないで欲しい。 |
| どうせ退院出来ないのでどんなサービスが受けられるか知りたくない。 |
| なぐさめの言葉さえいらない。 |
| 今は何も言いたくないです。 |
| 一生病院生活かなあ。 |
| わからない希望もない。女の人とつき合ったこともない。今考えてももっと先の話。 |
| 結婚できたらいいなあ。 |
| 自分では何も出来ないので悲しい。もう中身を取って消して欲しい。こんな気持ちは、分からない。 |

◇お金について、その他

|  |
| --- |
| 自分がいくら年金をもらっているか知らない。弟が管理しているので、金額を教えて欲しい。 |
| 小遣いを上げて欲しい。 |
| 伝票で買い物するから現金を持ちたい。 |
| お金のことが心配。 |
| 補助金制度などがあって、経済面での心配がなくなって欲しい。病気でも働きたいが、働き口がなく、障害年金も少なくて、生活に不安がある。主治医の考えで退院しづらくなるので、主治医を変えて欲しい。 |
| 県の職員さんに、僕もついてほしい。 |
| 福祉の人、市役所の人に来て欲しいです。 |
| 家の人からの話をそのまま伝えてほしい。自身がショックを受ける内容でも話してほしい。 |
| 生活保護について知りたい。 |
| 福祉の情報発信を強化してほしい。 |
| 精神病に対する理解・啓発。 |

## 支援職員の判断等（職員への聴取項目）

### 職員の職種［問14］

入所・入院者の状況について判断を行った職員の職種は、身体、知的では、いずれも「サービス管理責任者」が約7割、「生活支援員」が約3割となっています。精神では「ソーシャルワーカー」がほぼ100％です。

図表 42 職員の職種（身体、知的）

図表 43 職員の職種（精神）[N=883]

### ｢サービス等利用計画｣の作成有無［様式3の問15］

精神科病院入院者について、障害者総合支援法に基づく｢サービス等利用計画｣の作成有無を聞いたところ、「作成されていない」がほとんどを占めます。なお、「作成されている」の回答数は全体で11件であり、内訳は状態群別で２群：3件、３群：2件、５群：6件となっています。

図表 44 ｢サービス等利用計画｣の作成有無（精神）[N=883]

### 本人に対する地域移行に向けた取組［様式1の問15、様式3の問16］

本人に対する地域移行に向けた取組は、「特に何もしていない」が身体では6割近く、知的では8割近くとなっています。「本人への意思確認」は身体では約4割、知的では約2割です。精神では、「本人への意思確認」が約5割、「特に何もしていない」が約3割となっています。

図表 45 本人に対する地域移行に向けた取組（複数回答）

入所・入院期間別に見ると、身体では、入所期間が長くなるにつれ「特に何もしていない」の割合が低くなり、「本人への意思確認」の割合が高くなる傾向が見られます。知的では、入所期間に関わらず「特に何もしていない」の割合は7割前後となっています。精神では、入院期間が長くなるにつれ「本人への意思確認」の割合が低くなり、「特に何もしていない」の割合が高くなる傾向です。

図表 46 本人に対する地域移行に向けた取組（複数回答）；入所・入院期間別

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  | |  | |  | |  | |  | | (%) |
|  | 全体[N=503] | | 1年未満[N=28] | | 1年以上5年未満[N=78] | | 5年以上10年未満[N=98] | | 10年以上20年未満[N=133] | | 20年以上[N=163] |
| 地域生活に関するＤＶＤを見るなどの情報提供 | 0.2 | | 0.0 | | 1.3 | | 0.0 | | 0.0 | | 0.0 |
| 施設を退所し、地域で生活している人の話を聞く（ピアカウンセラー・ピアサポーターを含む） | 0.8 | | 0.0 | | 0.0 | | 1.0 | | 0.0 | | 1.8 |
| 地域での生活に向けた体験（日中活動サービスの体験、社会資源の見学等） | 1.0 | | 0.0 | | 1.3 | | 2.0 | | 0.0 | | 1.2 |
| グループホームや「自立生活体験室」の見学･宿泊体験 | 1.8 | | 0.0 | | 1.3 | | 3.1 | | 0.0 | | 3.1 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 0.2 | | 0.0 | | 0.0 | | 1.0 | | 0.0 | | 0.0 |
| 「地域移行支援」サービスの支給決定 | 0.0 | | 0.0 | | 0.0 | | 0.0 | | 0.0 | | 0.0 |
| 相談支援事業者との連携 | 13.7 | | 10.7 | | 14.1 | | 15.3 | | 9.8 | | 16.0 |
| 本人への意思確認 | 36.6 | | 32.1 | | 23.1 | | 31.6 | | 41.4 | | 42.9 |
| 本人へのエンパワメント支援 | 5.2 | | 3.6 | | 2.6 | | 4.1 | | 3.0 | | 8.6 |
| 特に何もしていない | 55.7 | | 53.6 | | 67.9 | | 58.2 | | 54.9 | | 49.1 |
| その他 | 7.0 | | 7.1 | | 5.1 | | 4.1 | | 3.0 | | 12.9 |
| 無回答 | 1.4 | | 3.6 | | 2.6 | | 2.0 | | 1.5 | | 0.0 |
| 知的 |  | |  | |  | |  | |  | | (%) |
|  | 全体[N=1,200] | | 1年未満[N=18] | | 1年以上5年未満[N=82] | | 5年以上10年未満[N=183] | | 10年以上20年未満[N=310] | | 20年以上[N=589] |
| 地域生活に関するＤＶＤを見るなどの情報提供 | 0.3 | | 0.0 | | 0.0 | | 0.0 | | 0.3 | | 0.5 |
| 施設を退所し、地域で生活している人の話を聞く（ピアカウンセラー・ピアサポーターを含む） | 0.3 | | 0.0 | | 0.0 | | 0.5 | | 0.3 | | 0.3 |
| 地域での生活に向けた体験（日中活動サービスの体験、社会資源の見学等） | 3.4 | | 0.0 | | 3.7 | | 4.9 | | 6.5 | | 1.4 |
| グループホームや「自立生活体験室」の見学･宿泊体験 | 4.9 | | 0.0 | | 8.5 | | 4.9 | | 5.8 | | 4.1 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 0.3 | | 0.0 | | 0.0 | | 0.0 | | 1.3 | | 0.0 |
| 「地域移行支援」サービスの支給決定 | 0.0 | | 0.0 | | 0.0 | | 0.0 | | 0.0 | | 0.0 |
| 相談支援事業者との連携 | 2.2 | | 0.0 | | 2.4 | | 2.2 | | 2.9 | | 1.9 |
| 本人への意思確認 | 17.4 | | 16.7 | | 24.4 | | 15.8 | | 17.4 | | 16.6 |
| 本人へのエンパワメント支援 | 10.1 | | 5.6 | | 11.0 | | 11.5 | | 15.8 | | 6.5 |
| 特に何もしていない | 75.4 | | 77.8 | | 63.4 | | 78.1 | | 71.9 | | 78.4 |
| その他 | 4.7 | | 11.1 | | 8.5 | | 3.3 | | 2.9 | | 5.3 |
| 無回答 | 1.7 | | 0.0 | | 1.2 | | 0.0 | | 1.0 | | 2.2 |
| 精神 | |  | |  | |  | |  | | (%) | |
|  | | 全体[N=883] | | 1年以上5年未満[N=361] | | 5年以上10年未満[N=208] | | 10年以上20年未満[N=187] | | 20年以上[N=118] | |
| 地域生活に関するＤＶＤを見るなどの情報提供 | | 5.4 | | 4.7 | | 7.7 | | 4.8 | | 5.1 | |
| 病院を退院し、地域で生活している人の話を聞く（ピアカウンセラー・ピアサポーターを含む） | | 6.5 | | 6.1 | | 5.8 | | 4.8 | | 10.2 | |
| 地域での生活に向けた体験（外泊、院内外での体験訓練、社会資源の見学等） | | 8.8 | | 10.8 | | 8.7 | | 6.4 | | 7.6 | |
| グループホームや「自立生活体験室」の見学･宿泊体験 | | 5.5 | | 6.9 | | 5.8 | | 3.7 | | 4.2 | |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | | 4.4 | | 5.0 | | 4.3 | | 3.7 | | 4.2 | |
| 「地域移行支援」サービスの支給決定 | | 1.4 | | 2.2 | | 1.0 | | 1.1 | | 0.0 | |
| 相談支援事業者との連携 | | 3.6 | | 6.1 | | 2.4 | | 1.6 | | 1.7 | |
| 本人への意思確認 | | 53.9 | | 60.1 | | 56.3 | | 49.7 | | 35.6 | |
| 本人へのエンパワメント支援 | | 21.9 | | 18.8 | | 18.8 | | 26.2 | | 29.7 | |
| 特に何もしていない | | 32.7 | | 26.9 | | 32.7 | | 36.9 | | 44.1 | |
| その他 | | 8.4 | | 9.4 | | 8.2 | | 9.1 | | 4.2 | |
| 無回答 | | 0.1 | | 0.0 | | 0.5 | | 0.0 | | 0.0 | |

身体、知的について、入所者の障害支援区分別で見ると、いずれも区分が重くなるほど、「特に何もしていない」の割合が高くなり、「本人への意思確認」の割合が低くなります。区分6では「特に何もしていない」が、身体で6割、知的で9割近くを占めています。

また、「グループホームや「自立生活体験室」の見学･宿泊体験」について、知的の区分4で比較的高い割合となっています。

図表 47 本人に対する地域移行に向けた取組（複数回答）；障害支援区分別

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=503] | 区分3 [N=14] | 区分4 [N=57] | 区分5 [N=103] | 区分6 [N=323] |
| 地域生活に関するＤＶＤを見るなどの情報提供 | 0.2 | 0.0 | 0.0 | 1.0 | 0.0 |
| 施設を退所し、地域で生活している人の話を聞く（ピアカウンセラー・ピアサポーターを含む） | 0.8 | 7.1 | 0.0 | 1.0 | 0.6 |
| 地域での生活に向けた体験（日中活動サービスの体験、社会資源の見学等） | 1.0 | 7.1 | 0.0 | 1.9 | 0.6 |
| グループホームや「自立生活体験室」の見学･宿泊体験 | 1.8 | 7.1 | 1.8 | 2.9 | 1.2 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 0.2 | 0.0 | 0.0 | 1.0 | 0.0 |
| 「地域移行支援」サービスの支給決定 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 相談支援事業者との連携 | 13.7 | 14.3 | 5.3 | 12.6 | 15.2 |
| 本人への意思確認 | 36.6 | 64.3 | 59.6 | 36.9 | 30.3 |
| 本人へのエンパワメント支援 | 5.2 | 0.0 | 3.5 | 3.9 | 5.3 |
| 特に何もしていない | 55.7 | 35.7 | 36.8 | 51.5 | 61.9 |
| その他 | 7.0 | 0.0 | 3.5 | 6.8 | 8.0 |
| 無回答 | 1.4 | 0.0 | 0.0 | 1.9 | 1.5 |
| 知的 |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=1,200] | 区分3 [N=19] | 区分4 [N=195] | 区分5 [N=320] | 区分6 [N=630] |
| 地域生活に関するＤＶＤを見るなどの情報提供 | 0.3 | 0.0 | 1.0 | 0.6 | 0.0 |
| 施設を退所し、地域で生活している人の話を聞く（ピアカウンセラー・ピアサポーターを含む） | 0.3 | 0.0 | 1.0 | 0.6 | 0.0 |
| 地域での生活に向けた体験（日中活動サービスの体験、社会資源の見学等） | 3.4 | 10.5 | 9.2 | 4.1 | 1.3 |
| グループホームや「自立生活体験室」の見学･宿泊体験 | 4.9 | 5.3 | 15.4 | 5.6 | 1.4 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 0.3 | 0.0 | 1.0 | 0.0 | 0.3 |
| 「地域移行支援」サービスの支給決定 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 相談支援事業者との連携 | 2.2 | 5.3 | 3.1 | 0.9 | 2.5 |
| 本人への意思確認 | 17.4 | 47.4 | 42.6 | 20.0 | 7.8 |
| 本人へのエンパワメント支援 | 10.1 | 10.5 | 22.6 | 11.3 | 6.2 |
| 特に何もしていない | 75.4 | 42.1 | 50.8 | 70.9 | 85.9 |
| その他 | 4.7 | 21.1 | 6.7 | 4.4 | 3.8 |
| 無回答 | 1.7 | 0.0 | 0.0 | 2.5 | 1.6 |

精神について、入院者の状態群別で見ると、「本人への意思確認」は1群～3群で6割以上ですが、4群、5群では5割未満です。「特に何もしていない」は、状態群が上がるほど、割合が高くなる傾向となっています（人数の少ない4群を除く）。

図表 48 本人に対する地域移行に向けた取組（複数回答）；状態群別

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 精神 |  |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=883] | 1群[N=62] | 2群[N=73] | 3群[N=124] | 4群[N=12] | 5群[N=582] |
| 地域生活に関するＤＶＤを見るなどの情報提供 | 5.4 | 17.7 | 6.8 | 8.9 | 0.0 | 3.4 |
| 病院を退院し、地域で生活している人の話を聞く（ピアカウンセラー・ピアサポーターを含む） | 6.5 | 14.5 | 13.7 | 10.5 | 0.0 | 4.1 |
| 地域での生活に向けた体験（外泊、院内外での体験訓練、社会資源の見学等） | 8.8 | 11.3 | 21.9 | 11.3 | 0.0 | 6.7 |
| グループホームや「自立生活体験室」の見学･宿泊体験 | 5.5 | 8.1 | 12.3 | 8.9 | 0.0 | 3.6 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 4.4 | 3.2 | 4.1 | 4.8 | 0.0 | 4.6 |
| 「地域移行支援」サービスの支給決定 | 1.4 | 1.6 | 1.4 | 0.8 | 0.0 | 1.4 |
| 相談支援事業者との連携 | 3.6 | 3.2 | 5.5 | 3.2 | 0.0 | 3.6 |
| 本人への意思確認 | 53.9 | 61.3 | 71.2 | 62.9 | 41.7 | 47.6 |
| 本人へのエンパワメント支援 | 21.9 | 38.7 | 32.9 | 27.4 | 0.0 | 18.9 |
| 特に何もしていない | 32.7 | 16.1 | 19.2 | 25.0 | 58.3 | 38.1 |
| その他 | 8.4 | 3.2 | 5.5 | 6.5 | 0.0 | 10.0 |
| 無回答 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.2 |

本人の望む生活場所別で見ると、身体、知的、精神とも、「聴取不可」「施設／病院希望・不明」では「特に何もしていない」の割合が高くなっています。「聴取不可」だと、身体、知的で約9割、精神では5割超が「特に何もしていない」となっています。

図表 49 本人に対する地域移行に向けた取組（複数回答）；本人の望む生活場所別

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=503] | 地域希望[N=72] | 施設希望・不明[N=258] | 聴取不可[N=166] |
| 地域生活に関するＤＶＤを見るなどの情報提供 | 0.2 | 1.4 | 0.0 | 0.0 |
| 施設を退所し、地域で生活している人の話を聞く（ピアカウンセラー・ピアサポーターを含む） | 0.8 | 4.2 | 0.4 | 0.0 |
| 地域での生活に向けた体験（日中活動サービスの体験、社会資源の見学等） | 1.0 | 5.6 | 0.0 | 0.6 |
| グループホームや「自立生活体験室」の見学･宿泊体験 | 1.8 | 9.7 | 0.8 | 0.0 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 0.2 | 1.4 | 0.0 | 0.0 |
| 「地域移行支援」サービスの支給決定 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 相談支援事業者との連携 | 13.7 | 20.8 | 15.5 | 6.6 |
| 本人への意思確認 | 36.6 | 48.6 | 54.3 | 3.6 |
| 本人へのエンパワメント支援 | 5.2 | 5.6 | 8.1 | 0.6 |
| 特に何もしていない | 55.7 | 34.7 | 41.1 | 89.2 |
| その他 | 7.0 | 5.6 | 5.8 | 9.6 |
| 無回答 | 1.4 | 1.4 | 0.4 | 1.2 |
| 知的 |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=1,200] | 地域希望[N=229] | 施設希望・不明[N=313] | 聴取不可[N=638] |
| 地域生活に関するＤＶＤを見るなどの情報提供 | 0.3 | 1.3 | 0.3 | 0.0 |
| 施設を退所し、地域で生活している人の話を聞く（ピアカウンセラー・ピアサポーターを含む） | 0.3 | 0.9 | 0.6 | 0.0 |
| 地域での生活に向けた体験（日中活動サービスの体験、社会資源の見学等） | 3.4 | 8.3 | 5.8 | 0.6 |
| グループホームや「自立生活体験室」の見学･宿泊体験 | 4.9 | 10.5 | 9.9 | 0.5 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 0.3 | 1.3 | 0.3 | 0.0 |
| 「地域移行支援」サービスの支給決定 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 相談支援事業者との連携 | 2.2 | 3.1 | 1.3 | 2.4 |
| 本人への意思確認 | 17.4 | 35.8 | 30.0 | 4.7 |
| 本人へのエンパワメント支援 | 10.1 | 20.1 | 17.6 | 2.7 |
| 特に何もしていない | 75.4 | 56.8 | 62.3 | 89.3 |
| その他 | 4.7 | 3.1 | 2.9 | 6.1 |
| 無回答 | 1.7 | 1.3 | 0.6 | 1.6 |
| 精神 |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=883] | 地域希望[N=439] | 病院希望・不明[N=267] | 聴取不可[N=175] |
| 地域生活に関するＤＶＤを見るなどの情報提供 | 5.4 | 7.3 | 4.5 | 2.3 |
| 病院を退院し、地域で生活している人の話を聞く（ピアカウンセラー・ピアサポーターを含む） | 6.5 | 8.4 | 6.0 | 2.3 |
| 地域での生活に向けた体験（外泊、院内外での体験訓練、社会資源の見学等） | 8.8 | 13.4 | 6.0 | 1.7 |
| グループホームや「自立生活体験室」の見学･宿泊体験 | 5.5 | 8.0 | 4.1 | 1.7 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 4.4 | 6.4 | 3.4 | 1.1 |
| 「地域移行支援」サービスの支給決定 | 1.4 | 1.8 | 0.0 | 2.3 |
| 相談支援事業者との連携 | 3.6 | 5.5 | 1.1 | 2.9 |
| 本人への意思確認 | 53.9 | 66.5 | 50.2 | 28.0 |
| 本人へのエンパワメント支援 | 21.9 | 25.1 | 22.8 | 12.0 |
| 特に何もしていない | 32.7 | 22.8 | 36.0 | 53.1 |
| その他 | 8.4 | 7.3 | 4.9 | 16.6 |
| 無回答 | 0.1 | 0.0 | 0.4 | 0.0 |

地域移行についての職員の可否判断の別（45ページの問17）で見ると、「特に何もしていない」の割合は、身体では可否に関わらずほぼ同じですが、知的では「不可能」の方がやや高くなっています。

図表 50 本人に対する地域移行に向けた取組（複数回答）；職員の可否判断別

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  | (%) |
|  | 全体[N=503] | 可能[N=266] | 不可能[N=232] |
| 地域生活に関するＤＶＤを見るなどの情報提供 | 0.2 | 0.4 | 0.0 |
| 施設を退所し、地域で生活している人の話を聞く（ピアカウンセラー・ピアサポーターを含む） | 0.8 | 1.5 | 0.0 |
| 地域での生活に向けた体験（日中活動サービスの体験、社会資源の見学等） | 1.0 | 1.9 | 0.0 |
| グループホームや「自立生活体験室」の見学･宿泊体験 | 1.8 | 3.4 | 0.0 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 0.2 | 0.4 | 0.0 |
| 「地域移行支援」サービスの支給決定 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 相談支援事業者との連携 | 13.7 | 22.2 | 4.3 |
| 本人への意思確認 | 36.6 | 34.2 | 39.7 |
| 本人へのエンパワメント支援 | 5.2 | 9.4 | 0.4 |
| 特に何もしていない | 55.7 | 56.0 | 56.5 |
| その他 | 7.0 | 1.9 | 12.9 |
| 無回答 | 1.4 | 0.4 | 0.9 |
| 知的 |  |  | (%) |
|  | 全体[N=1,200] | 可能[N=739] | 不可能[N=455] |
| 地域生活に関するＤＶＤを見るなどの情報提供 | 0.3 | 0.5 | 0.0 |
| 施設を退所し、地域で生活している人の話を聞く（ピアカウンセラー・ピアサポーターを含む） | 0.3 | 0.5 | 0.0 |
| 地域での生活に向けた体験（日中活動サービスの体験、社会資源の見学等） | 3.4 | 4.7 | 1.3 |
| グループホームや「自立生活体験室」の見学･宿泊体験 | 4.9 | 6.1 | 3.1 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 0.3 | 0.5 | 0.0 |
| 「地域移行支援」サービスの支給決定 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 相談支援事業者との連携 | 2.2 | 2.4 | 1.8 |
| 本人への意思確認 | 17.4 | 21.8 | 10.5 |
| 本人へのエンパワメント支援 | 10.1 | 11.5 | 7.9 |
| 特に何もしていない | 75.4 | 72.5 | 80.9 |
| その他 | 4.7 | 4.1 | 5.7 |
| 無回答 | 1.7 | 0.4 | 2.6 |

### 家族に対する地域移行に向けた取組［様式1の問16、様式3の問17］

家族に対する地域移行に向けた取組については、いずれも「特に何もしていない」の割合が高くなっています。行っていることとしては、精神で「家族を交えた話し合い」を約3割があげています。なお、「その他」では、「家族がいない」という回答も見られました。

図表 51 家族に対する地域移行に向けた取組（複数回答）

入所・入院期間別に見ると、身体では、入所期間が長くなるにつれ「特に何もしていない」の割合が低くなり、「地域移行についての情報提供」の割合が高くなっています。知的では、入所期間に関わらず「特に何もしていない」は8割前後です。精神では、入院期間が長くなるにつれ「特に何もしていない」の割合が高くなり、「地域移行についての情報提供」の割合が低くなります。

図表 52 家族に対する地域移行に向けた取組（複数回答）；入所・入院期間別

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=503] | 1年未満[N=28] | 1年以上5年未満[N=78] | 5年以上10年未満[N=98] | 10年以上20年未満[N=133] | 20年以上[N=163] |
| 地域移行についての情報提供 | 11.3 | 0.0 | 6.4 | 11.2 | 12.0 | 15.3 |
| グループホームや「自立生活体験室」、社会資源などの見学 | 0.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 家族を交えてのケア会議 | 8.2 | 17.9 | 1.3 | 10.2 | 9.0 | 8.0 |
| 特に何もしていない | 72.4 | 75.0 | 84.6 | 74.5 | 69.9 | 66.3 |
| その他 | 11.3 | 10.7 | 5.1 | 4.1 | 7.5 | 22.1 |
| 無回答 | 3.8 | 3.6 | 6.4 | 3.1 | 5.3 | 1.8 |
| 知的 |  |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=1,200] | 1年未満[N=18] | 1年以上5年未満[N=82] | 5年以上10年未満[N=183] | 10年以上20年未満[N=310] | 20年以上[N=589] |
| 地域移行についての情報提供 | 4.8 | 0.0 | 3.7 | 9.3 | 5.5 | 3.6 |
| グループホームや「自立生活体験室」、社会資源などの見学 | 3.5 | 0.0 | 7.3 | 3.8 | 7.1 | 1.2 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.3 | 0.3 |
| 家族を交えてのケア会議 | 4.7 | 11.1 | 6.1 | 6.0 | 4.5 | 4.1 |
| 特に何もしていない | 81.3 | 77.8 | 75.6 | 80.9 | 79.4 | 83.4 |
| その他 | 5.4 | 5.6 | 7.3 | 3.8 | 5.8 | 5.4 |
| 無回答 | 3.7 | 5.6 | 6.1 | 1.1 | 1.9 | 4.6 |
| 精神 |  |  |  |  | (%) |  |
|  | 全体[N=883] | 1年以上5年未満[N=361] | 5年以上10年未満[N=208] | 10年以上20年未満[N=187] | 20年以上[N=118] |  |
| 地域移行についての情報提供 | 17.3 | 23.0 | 16.8 | 11.8 | 11.0 |  |
| グループホームや「自立生活体験室」、社会資源などの見学 | 2.8 | 4.4 | 1.4 | 2.1 | 1.7 |  |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 3.2 | 3.6 | 2.4 | 2.7 | 4.2 |  |
| 家族を交えた話し合い | 28.3 | 33.5 | 25.0 | 26.7 | 22.9 |  |
| 特に何もしていない | 52.3 | 41.8 | 52.9 | 62.0 | 66.1 |  |
| その他 | 7.8 | 10.0 | 8.7 | 4.8 | 3.4 |  |
| 無回答 | 0.7 | 0.6 | 1.0 | 0.5 | 0.8 |  |

身体、知的について、入所者の障害支援区分別で見ると、身体では、区分に関わらず「特に何もしていない」は7割前後です。知的では、区分が重くなるほど「特に何もしていない」の割合が高くなる傾向です。また、知的の区分4で「地域移行についての情報提供」などの割合が他区分と比べて高くなっています。

図表 53 家族に対する地域移行に向けた取組（複数回答）；障害支援区分別

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体  [N=503] | 区分3 [N=14] | 区分4 [N=57] | 区分5 [N=103] | 区分6 [N=323] |
| 地域移行についての情報提供 | 11.3 | 14.3 | 14.0 | 15.5 | 9.6 |
| グループホームや「自立生活体験室」、社会資源などの見学 | 0.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.3 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 家族を交えてのケア会議 | 8.2 | 14.3 | 5.3 | 3.9 | 9.9 |
| 特に何もしていない | 72.4 | 71.4 | 75.4 | 69.9 | 72.4 |
| その他 | 11.3 | 7.1 | 12.3 | 12.6 | 10.8 |
| 無回答 | 3.8 | 0.0 | 0.0 | 6.8 | 3.7 |
|  |  |  |  |  |  |
| 知的 |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=1,200] | 区分3 [N=19] | 区分4 [N=195] | 区分5 [N=320] | 区分6 [N=630] |
| 地域移行についての情報提供 | 4.8 | 5.3 | 11.3 | 6.3 | 2.4 |
| グループホームや「自立生活体験室」、社会資源などの見学 | 3.5 | 0.0 | 9.7 | 3.8 | 1.7 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 0.5 | 0.0 | 1.5 | 0.3 | 0.3 |
| 家族を交えてのケア会議 | 4.7 | 5.3 | 9.7 | 5.3 | 3.0 |
| 特に何もしていない | 81.3 | 73.7 | 70.3 | 80.0 | 85.4 |
| その他 | 5.4 | 21.1 | 6.7 | 4.1 | 5.2 |
| 無回答 | 3.7 | 0.0 | 1.0 | 5.0 | 3.5 |

精神について、入院者の状態群別で見ると、1群、2群で「地域移行についての情報提供」の割合が比較的高くなっています。また、5群で「家族を交えた話し合い」が他と比べて高い割合です。「特に何もしていない」は4群を除き、5割程度です。

図表 54 家族に対する地域移行に向けた取組（複数回答）；状態群別

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 精神 |  |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=883] | 1群  [N=62] | 2群  [N=73] | 3群[N=124] | 4群  [N=12] | 5群[N=582] |
| 地域移行についての情報提供 | 17.3 | 30.6 | 27.4 | 19.4 | 0.0 | 12.4 |
| グループホームや「自立生活体験室」、社会資源などの見学 | 2.8 | 1.6 | 5.5 | 3.2 | 0.0 | 2.7 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 3.2 | 0.0 | 1.4 | 3.2 | 0.0 | 4.0 |
| 家族を交えた話し合い | 28.3 | 22.6 | 27.4 | 22.6 | 16.7 | 31.4 |
| 特に何もしていない | 52.3 | 51.6 | 49.3 | 55.6 | 83.3 | 52.7 |
| その他 | 7.8 | 6.5 | 6.8 | 8.1 | 8.3 | 8.1 |
| 無回答 | 0.7 | 1.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.9 |

本人の望む生活場所別で見ると、身体、知的、精神とも、「聴取不可」「施設／病院希望・不明」だと「特に何もしていない」が高くなっています。

図表 55 家族に対する地域移行に向けた取組（複数回答）；本人の望む生活場所別

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  |  | (%) |
|  | 全体  [N=503] | 地域希望[N=72] | 施設希望・不明[N=258] | 聴取不可[N=166] |
| 地域移行についての情報提供 | 11.3 | 5.6 | 14.3 | 9.0 |
| グループホームや「自立生活体験室」、社会資源などの見学 | 0.2 | 0.0 | 0.4 | 0.0 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 家族を交えてのケア会議 | 8.2 | 19.4 | 6.6 | 5.4 |
| 特に何もしていない | 72.4 | 63.9 | 71.7 | 79.5 |
| その他 | 11.3 | 13.9 | 10.5 | 12.0 |
| 無回答 | 3.8 | 2.8 | 3.1 | 3.0 |
| 知的 |  |  |  | (%) |
|  | 全体  [N=1,200] | 地域希望[N=229] | 施設希望・不明[N=313] | 聴取不可[N=638] |
| 地域移行についての情報提供 | 4.8 | 8.3 | 7.0 | 2.7 |
| グループホームや「自立生活体験室」、社会資源などの見学 | 3.5 | 7.9 | 5.4 | 1.1 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 0.5 | 1.3 | 0.6 | 0.2 |
| 家族を交えてのケア会議 | 4.7 | 9.6 | 6.1 | 2.2 |
| 特に何もしていない | 81.3 | 74.7 | 77.0 | 86.1 |
| その他 | 5.4 | 6.1 | 6.4 | 4.9 |
| 無回答 | 3.7 | 1.7 | 2.9 | 4.1 |
| 精神 |  |  |  | (%) |
|  | 全体  [N=883] | 地域希望[N=439] | 病院希望・不明[N=267] | 聴取不可[N=175] |
| 地域移行についての情報提供 | 17.3 | 21.9 | 15.4 | 9.1 |
| グループホームや「自立生活体験室」、社会資源などの見学 | 2.8 | 3.9 | 1.9 | 1.7 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 3.2 | 3.6 | 3.0 | 2.3 |
| 家族を交えた話し合い | 28.3 | 33.0 | 20.6 | 27.4 |
| 特に何もしていない | 52.3 | 44.4 | 59.2 | 62.3 |
| その他 | 7.8 | 8.7 | 8.2 | 5.1 |
| 無回答 | 0.7 | 0.9 | 0.7 | 0.0 |

地域移行についての職員の可否判断の別で見ると、身体では、「可能」の方が「特に何もしていない」の割合が高くなっています。知的では、「可能」と「不可能」でほとんど差はありません。

図表 56 家族に対する地域移行に向けた取組（複数回答）；職員の可否判断別

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  | (%) |
|  | 全体[N=503] | 可能[N=266] | 不可能[N=232] |
| 地域移行についての情報提供 | 11.3 | 7.1 | 16.4 |
| グループホームや「自立生活体験室」、社会資源などの見学 | 0.2 | 0.4 | 0.0 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 家族を交えてのケア会議 | 8.2 | 8.6 | 7.3 |
| 特に何もしていない | 72.4 | 78.2 | 67.2 |
| その他 | 11.3 | 6.0 | 17.7 |
| 無回答 | 3.8 | 3.4 | 2.6 |
| 知的 |  |  | (%) |
|  | 全体[N=1,200] | 可能[N=739] | 不可能[N=455] |
| 地域移行についての情報提供 | 4.8 | 5.4 | 4.0 |
| グループホームや「自立生活体験室」、社会資源などの見学 | 3.5 | 2.8 | 4.6 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 0.5 | 0.5 | 0.4 |
| 家族を交えてのケア会議 | 4.7 | 6.4 | 2.0 |
| 特に何もしていない | 81.3 | 81.2 | 82.2 |
| その他 | 5.4 | 6.1 | 4.4 |
| 無回答 | 3.7 | 1.9 | 5.5 |

### 地域移行が可能か［様式1の問17］

障害者支援施設入所者の地域移行可能性について、職員の判断を聞いたところ、身体では約5割、知的では約6割が「可能」と判断されています。

図表 57 地域移行が可能か

性別で見ると、身体では男性、知的では女性の方が「可能」の割合が高くなっています。

図表 58 地域移行が可能か；性別

年齢別で見ると、身体では年齢に関わらず「可能」はおおむね５割程度です。知的では、高齢になるほど「可能」の割合は低くなっていますが、65歳以上では高くなります。

図表 59 地域移行が可能か；年齢別

入所期間別に見ると、身体、知的とも、ばらつきはありますが、約５～６割が「可能」と判断されています。

図表 60 地域移行が可能か；入所期間別

障害支援区分別に見ると、身体、知的とも、区分が重くなるほど「可能」の割合が低くなる傾向です。

図表 61 地域移行が可能か；障害支援区分別

手帳所持状況別で見ると、知的では、複数手帳所持等だと「可能」の割合が低くなっています。

図表 62 地域移行が可能か；手帳所持状況別

### 地域移行に必要なサービス･支援環境（住まいの場）［問18-1］

地域移行が「可能」と判断される人（精神では全員）に関して、地域移行に必要なサービス･支援環境（住まいの場）を聞いたところ、身体、知的では、「グループホーム（身体介護あり、夜間支援あり）」をあげる割合が高くなっています。精神では、特に条件の付いていない「グループホーム」と、「グループホーム（身体介護あり、夜間支援あり）」をあげる割合がそれぞれ3割程度です。いずれもグループホームが主要な住まいの場と考えられています。

図表 63 地域移行に必要なサービス･支援環境（住まいの場）

身体、知的について、入所者の障害支援区分別で見ると、身体、知的とも、区分が重くなるほど「グループホーム（身体介護あり、夜間支援あり）」をあげる割合が高くなります。

図表 64 地域移行に必要なサービス･支援環境（住まいの場）；障害支援区分別

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=266] | 区分3 [N=7] | 区分4 [N=38] | 区分5 [N=59] | 区分6 [N=157] |
| アパート･公営住宅 | 1.1 | 14.3 | 0.0 | 0.0 | 1.3 |
| グループホーム | 4.5 | 42.9 | 15.8 | 1.7 | 1.3 |
| グループホーム（身体介護あり） | 13.9 | 14.3 | 31.6 | 27.1 | 4.5 |
| グループホーム（身体介護あり、夜間支援あり） | 59.0 | 14.3 | 42.1 | 50.8 | 68.2 |
| 介護保険による居住サービス | 4.1 | 0.0 | 2.6 | 6.8 | 3.8 |
| 自宅 | 15.4 | 14.3 | 5.3 | 10.2 | 19.7 |
| その他 | 0.8 | 0.0 | 0.0 | 1.7 | 0.6 |
| 無回答 | 1.1 | 0.0 | 2.6 | 1.7 | 0.6 |
|  |  |  |  |  |  |
| 知的 |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=739] | 区分3 [N=16] | 区分4 [N=153] | 区分5 [N=216] | 区分6 [N=332] |
| アパート･公営住宅 | 0.4 | 12.5 | 0.7 | 0.0 | 0.0 |
| グループホーム | 9.5 | 31.3 | 23.5 | 7.4 | 3.6 |
| グループホーム（身体介護あり） | 7.8 | 18.8 | 16.3 | 10.2 | 1.8 |
| グループホーム（身体介護あり、夜間支援あり） | 68.9 | 25.0 | 47.1 | 68.5 | 80.4 |
| 介護保険による居住サービス | 6.4 | 12.5 | 7.8 | 6.9 | 5.1 |
| 自宅 | 5.4 | 0.0 | 2.0 | 5.6 | 7.5 |
| その他 | 1.2 | 0.0 | 2.0 | 0.9 | 1.2 |
| 無回答 | 0.4 | 0.0 | 0.7 | 0.5 | 0.3 |

精神について、入院者の状態群別で見ると、3群、5群で「グループホーム（身体介護あり、夜間支援あり）」の割合が高くなります。一方、1群、2群では、特に条件の付いていない「グループホーム」の割合が高くなっています。

図表 65 地域移行に必要なサービス･支援環境（住まいの場）；状態群別

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 精神 |  |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=883] | 1群[N=62] | 2群[N=73] | 3群[N=124] | 4群[N=12] | 5群[N=582] |
| アパート･公営住宅 | 1.7 | 0.0 | 2.7 | 2.4 | 8.3 | 1.4 |
| グループホーム | 31.9 | 45.2 | 52.1 | 28.2 | 16.7 | 28.0 |
| グループホーム（身体介護あり） | 6.5 | 11.3 | 5.5 | 14.5 | 0.0 | 4.8 |
| グループホーム（身体介護あり、夜間支援あり） | 27.0 | 14.5 | 15.1 | 29.8 | 25.0 | 30.1 |
| 介護保険による居住サービス | 8.3 | 8.1 | 2.7 | 5.6 | 33.3 | 8.9 |
| 自宅 | 10.5 | 16.1 | 19.2 | 16.1 | 8.3 | 7.6 |
| その他 | 13.0 | 1.6 | 2.7 | 2.4 | 8.3 | 18.2 |
| 無回答 | 1.1 | 3.2 | 0.0 | 0.8 | 0.0 | 1.0 |

本人の望む生活場所別で見ると、本人が「施設／病院希望・不明」「聴取不可」だと「グループホーム（身体介護あり、夜間支援あり）」の割合が高くなります。

図表 66 地域移行に必要なサービス･支援環境（住まいの場）；本人の望む生活場所別

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  |  | (%) |
|  | 全体  [N=266] | 地域希望  [N=50] | 施設希望・不明[N=144] | 聴取不可  [N=69] |
| アパート･公営住宅 | 1.1 | 6.0 | 0.0 | 0.0 |
| グループホーム | 4.5 | 6.0 | 5.6 | 1.4 |
| グループホーム（身体介護あり） | 13.9 | 14.0 | 17.4 | 7.2 |
| グループホーム（身体介護あり、夜間支援あり） | 59.0 | 34.0 | 64.6 | 63.8 |
| 介護保険による居住サービス | 4.1 | 6.0 | 4.2 | 2.9 |
| 自宅 | 15.4 | 30.0 | 6.9 | 23.2 |
| その他 | 0.8 | 2.0 | 0.0 | 1.4 |
| 無回答 | 1.1 | 2.0 | 1.4 | 0.0 |
| 知的 |  |  |  | (%) |
|  | 全体  [N=739] | 地域希望[N=180] | 施設希望・不明[N=212] | 聴取不可[N=336] |
| アパート･公営住宅 | 0.4 | 1.1 | 0.5 | 0.0 |
| グループホーム | 9.5 | 17.8 | 15.1 | 1.5 |
| グループホーム（身体介護あり） | 7.8 | 11.7 | 10.4 | 4.2 |
| グループホーム（身体介護あり、夜間支援あり） | 68.9 | 52.2 | 59.4 | 83.3 |
| 介護保険による居住サービス | 6.4 | 8.3 | 10.4 | 3.0 |
| 自宅 | 5.4 | 7.8 | 1.9 | 6.5 |
| その他 | 1.2 | 0.6 | 1.4 | 1.5 |
| 無回答 | 0.4 | 0.6 | 0.9 | 0.0 |
| 精神 |  |  |  | (%) |
|  | 全体  [N=883] | 地域希望[N=439] | 病院希望・不明[N=267] | 聴取不可[N=175] |
| アパート･公営住宅 | 1.7 | 2.7 | 0.7 | 0.6 |
| グループホーム | 31.9 | 33.7 | 41.2 | 13.7 |
| グループホーム（身体介護あり） | 6.5 | 7.1 | 6.4 | 5.1 |
| グループホーム（身体介護あり、夜間支援あり） | 27.0 | 22.6 | 35.2 | 25.1 |
| 介護保険による居住サービス | 8.3 | 6.8 | 6.7 | 14.3 |
| 自宅 | 10.5 | 17.1 | 2.6 | 6.3 |
| その他 | 13.0 | 9.6 | 6.0 | 32.0 |
| 無回答 | 1.1 | 0.5 | 1.1 | 2.9 |

### 地域移行に必要なサービス･支援環境（就労･日中活動の場）［問18-2］

地域移行に必要なサービス･支援環境（就労･日中活動の場）については、身体、知的では「生活介護」を多くの職員があげています。精神では「デイケア（病院）」が高い割合です。

図表 67 地域移行に必要なサービス･支援環境（就労･日中活動の場）

身体、知的について、入所者の障害支援区分別で見ると、区分が重くなるほど「生活介護」の割合が高くなり、「就労継続支援Ｂ型」の割合が低くなっています。

図表 68 地域移行に必要なサービス･支援環境（就労･日中活動の場）；障害支援区分別

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=266] | 区分3 [N=7] | 区分4 [N=38] | 区分5 [N=59] | 区分6[N=157] |
| 一般就労（アルバイト等を含む） | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 一般就労に向けた準備訓練 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 就労移行支援 | 0.8 | 14.3 | 0.0 | 0.0 | 0.6 |
| 就労継続支援A型 | 0.8 | 0.0 | 2.6 | 0.0 | 0.0 |
| 就労継続支援B型 | 9.4 | 71.4 | 21.1 | 8.5 | 3.8 |
| 自立訓練（機能訓練） | 4.5 | 0.0 | 5.3 | 3.4 | 5.1 |
| 自立訓練（生活訓練） | 1.9 | 0.0 | 0.0 | 3.4 | 1.9 |
| 生活介護 | 74.8 | 14.3 | 65.8 | 76.3 | 79.6 |
| 療養介護 | 1.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.2 |
| 地域活動支援センター | 0.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 |
| デイケア（病院） | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 介護保険による日中活動サービス | 4.5 | 0.0 | 5.3 | 6.8 | 3.8 |
| その他 | 1.1 | 0.0 | 0.0 | 1.7 | 1.3 |
| 無回答 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 知的 |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=739] | 区分3 [N=16] | 区分4[N=153] | 区分5[N=216] | 区分6[N=332] |
| 一般就労（アルバイト等を含む） | 0.1 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 |
| 一般就労に向けた準備訓練 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 就労移行支援 | 0.4 | 6.3 | 1.3 | 0.0 | 0.0 |
| 就労継続支援A型 | 0.5 | 0.0 | 2.0 | 0.0 | 0.0 |
| 就労継続支援B型 | 13.1 | 18.8 | 29.4 | 14.8 | 3.9 |
| 自立訓練（機能訓練） | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 0.5 | 0.6 |
| 自立訓練（生活訓練） | 2.8 | 12.5 | 3.3 | 3.2 | 1.8 |
| 生活介護 | 70.1 | 50.0 | 51.0 | 69.4 | 80.7 |
| 療養介護 | 0.4 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.6 |
| 地域活動支援センター | 3.9 | 0.0 | 0.7 | 4.2 | 5.7 |
| デイケア（病院） | 1.1 | 0.0 | 1.3 | 0.5 | 1.5 |
| 介護保険による日中活動サービス | 6.4 | 12.5 | 8.5 | 7.4 | 4.5 |
| その他 | 0.1 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 |
| 無回答 | 0.4 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.6 |

精神について、入院者の状態群別で見ると、いずれも「デイケア（病院）」が高い割合となっています。

図表 69 地域移行に必要なサービス･支援環境（就労･日中活動の場）；状態群別

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 精神 |  |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=883] | 1群[N=62] | 2群[N=73] | 3群[N=124] | 4群[N=12] | 5群[N=582] |
| 一般就労（アルバイト等を含む） | 0.2 | 1.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.2 |
| 一般就労に向けた準備訓練 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 就労移行支援 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.8 | 0.0 | 0.0 |
| 就労継続支援A型 | 0.8 | 0.0 | 1.4 | 3.2 | 0.0 | 0.0 |
| 就労継続支援B型 | 4.8 | 6.5 | 8.2 | 11.3 | 0.0 | 2.9 |
| 自立訓練（機能訓練） | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.2 |
| 自立訓練（生活訓練） | 7.7 | 9.7 | 8.2 | 10.5 | 8.3 | 7.0 |
| 生活介護 | 17.3 | 11.3 | 13.7 | 13.7 | 25.0 | 19.8 |
| 療養介護 | 3.1 | 1.6 | 2.7 | 2.4 | 8.3 | 3.4 |
| 地域活動支援センター | 5.3 | 14.5 | 9.6 | 7.3 | 0.0 | 3.8 |
| デイケア（病院） | 42.6 | 48.4 | 50.7 | 45.2 | 25.0 | 39.5 |
| 介護保険による日中活動サービス | 6.7 | 6.5 | 1.4 | 4.0 | 25.0 | 7.6 |
| その他 | 9.6 | 0.0 | 2.7 | 1.6 | 8.3 | 13.4 |
| 無回答 | 1.7 | 0.0 | 1.4 | 0.0 | 0.0 | 2.2 |

本人の望む生活場所別で見ると、身体、知的とも、本人が「地域希望」だと「生活介護」の割合が低く、「就労継続支援Ｂ型」の割合が高くなっています。精神では、「聴取不可」で「デイケア（病院）」の割合が低くなっています。

図表 70 地域移行に必要なサービス･支援環境（就労･日中活動の場）；本人の望む生活場所別

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  |  | (%) |
|  | 全体  [N=266] | 地域希望  [N=50] | 施設希望・不明[N=144] | 聴取不可  [N=69] |
| 一般就労（アルバイト等を含む） | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 一般就労に向けた準備訓練 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 就労移行支援 | 0.8 | 2.0 | 0.0 | 1.4 |
| 就労継続支援A型 | 0.8 | 0.0 | 1.4 | 0.0 |
| 就労継続支援B型 | 9.4 | 22.0 | 9.0 | 1.4 |
| 自立訓練（機能訓練） | 4.5 | 8.0 | 4.2 | 2.9 |
| 自立訓練（生活訓練） | 1.9 | 0.0 | 1.4 | 4.3 |
| 生活介護 | 74.8 | 60.0 | 77.8 | 78.3 |
| 療養介護 | 1.9 | 0.0 | 0.7 | 5.8 |
| 地域活動支援センター | 0.4 | 0.0 | 0.7 | 0.0 |
| デイケア（病院） | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 介護保険による日中活動サービス | 4.5 | 6.0 | 4.9 | 2.9 |
| その他 | 1.1 | 2.0 | 0.0 | 2.9 |
| 無回答 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 知的 |  |  |  | (%) |
|  | 全体  [N=739] | 地域希望  [N=180] | 施設希望・不明[N=212] | 聴取不可  [N=336] |
| 一般就労（アルバイト等を含む） | 0.1 | 0.6 | 0.0 | 0.0 |
| 一般就労に向けた準備訓練 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 就労移行支援 | 0.4 | 0.0 | 0.9 | 0.3 |
| 就労継続支援A型 | 0.5 | 2.2 | 0.0 | 0.0 |
| 就労継続支援B型 | 13.1 | 30.6 | 15.1 | 2.7 |
| 自立訓練（機能訓練） | 0.5 | 0.0 | 1.4 | 0.3 |
| 自立訓練（生活訓練） | 2.8 | 2.8 | 5.2 | 1.2 |
| 生活介護 | 70.1 | 51.1 | 62.7 | 84.5 |
| 療養介護 | 0.4 | 0.0 | 0.0 | 0.9 |
| 地域活動支援センター | 3.9 | 2.2 | 2.4 | 6.0 |
| デイケア（病院） | 1.1 | 1.7 | 0.9 | 0.9 |
| 介護保険による日中活動サービス | 6.4 | 8.3 | 10.8 | 2.7 |
| その他 | 0.1 | 0.6 | 0.0 | 0.0 |
| 無回答 | 0.4 | 0.0 | 0.5 | 0.6 |
| 精神 |  |  |  | (%) |
|  | 全体  [N=883] | 地域希望  [N=439] | 病院希望・不明[N=267] | 聴取不可  [N=175] |
| 一般就労（アルバイト等を含む） | 0.2 | 0.5 | 0.0 | 0.0 |
| 一般就労に向けた準備訓練 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 就労移行支援 | 0.1 | 0.2 | 0.0 | 0.0 |
| 就労継続支援A型 | 0.8 | 1.6 | 0.0 | 0.0 |
| 就労継続支援B型 | 4.8 | 6.6 | 3.7 | 1.7 |
| 自立訓練（機能訓練） | 0.1 | 0.0 | 0.4 | 0.0 |
| 自立訓練（生活訓練） | 7.7 | 7.7 | 9.7 | 4.6 |
| 生活介護 | 17.3 | 13.9 | 22.5 | 18.3 |
| 療養介護 | 3.1 | 0.7 | 2.6 | 9.7 |
| 地域活動支援センター | 5.3 | 6.4 | 6.4 | 1.1 |
| デイケア（病院） | 42.6 | 49.7 | 41.9 | 25.7 |
| 介護保険による日中活動サービス | 6.7 | 5.2 | 6.4 | 10.9 |
| その他 | 9.6 | 6.8 | 5.2 | 22.9 |
| 無回答 | 1.7 | 0.7 | 1.1 | 5.1 |

### 地域移行に必要なサービス･支援環境（その他の生活支援）［問18-3］

地域移行に必要なサービス･支援環境（その他の生活支援）については、身体では「居宅介護」「移動支援」「短期入所」などの割合が高くなっています。知的では「移動支援」「送迎サービス」「居宅介護」「成年後見制度」などが高い割合です。精神では「訪問診療･訪問看護」「居宅介護」などが多くあげられています。

図表 71 地域移行に必要なサービス･支援環境（その他の生活支援）（複数回答）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| (%) | 障害者支援　施設入所者  [N=1,005] | （旧身体施設）[N=266] | （旧知的施設）[N=739] | 精神科病院  入院者  [N=883] |
| 居宅介護（ホームヘルプ） | ②　49.2 | ①　65.8 | ③　43.2 | ②　48.1 |
| 重度訪問介護 | 22.6 | ⑤　32.7 | 18.9 | 5.1 |
| 同行援護 | 2.5 | 2.3 | 2.6 | 0.1 |
| 行動援護 | 22.6 | 6.4 | 28.4 | 10.6 |
| 重度障害者等包括支援 | 11.5 | 8.3 | 12.7 | 3.2 |
| 短期入所（ショートステイ） | ⑤　32.0 | ③　44.0 | 27.7 | 4.0 |
| 移動支援 | ①　52.2 | ②　45.5 | ①　54.7 | 12.3 |
| 日中一時支援 | 26.5 | 20.7 | ⑤　28.6 | 17.2 |
| 居住サポート | 0.7 | 1.9 | 0.3 | 2.6 |
| 送迎サービス | ③　42.3 | ④　36.1 | ②　44.5 | 10.8 |
| 訪問診療･訪問看護 | 12.7 | 22.9 | 9.1 | ①　56.1 |
| 相談窓口 | 19.1 | 17.7 | 19.6 | ③　36.9 |
| 地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援） | 18.8 | 18.8 | 18.8 | ④　35.7 |
| 障害者就業･生活支援センター | 2.2 | 4.1 | 1.5 | 1.5 |
| ジョブコーチ | 1.2 | 0.4 | 1.5 | 0.5 |
| 職場実習･トライアル雇用 | 0.9 | 0.0 | 1.2 | 0.5 |
| 知的障害者職親委託 | 2.3 | 0.4 | 3.0 | 0.5 |
| 日常生活自立支援事業 | 17.4 | 3.8 | 22.3 | ⑤　26.3 |
| 成年後見制度 | ④　35.2 | 20.7 | ④　40.5 | 19.8 |
| 公的保証人制度 | 0.3 | 0.8 | 0.1 | 8.4 |
| 介護保険による訪問サービス | 6.7 | 6.4 | 6.8 | 6.1 |
| その他 | 0.4 | 0.4 | 0.4 | 7.5 |
| 無回答 | 1.3 | 0.8 | 1.5 | 2.3 |

（※丸数字は上位５位）

身体、知的について、入所者の障害支援区分別で見ると、いずれも区分が重くなるほど、「重度訪問介護」「行動援護」「重度障害者等包括支援」「短期入所」「日中一時支援」などの割合が高く、「移動支援」「相談窓口」「地域相談支援」「日常生活自立支援事業」「成年後見制度」などの割合が低くなる傾向です。「送迎サービス」は身体では区分６で低くなっていますが、知的では区分が重くなるほど高くなります。「居宅介護」は区分に関わらず、一定の割合で選ばれる傾向となっています。

図表 72 地域移行に必要なサービス･支援環境（その他の生活支援）（複数回答）；障害支援区分別

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=266] | 区分3 [N=7] | 区分4 [N=38] | 区分5 [N=59] | 区分6 [N=157] |
| 居宅介護（ホームヘルプ） | ①　65.8 | ①　85.7 | ①　63.2 | ①　62.7 | ①　66.2 |
| 重度訪問介護 | ⑤　32.7 | 0.0 | 2.6 | 16.9 | ③　46.5 |
| 同行援護 | 2.3 | 0.0 | 2.6 | 5.1 | 1.3 |
| 行動援護 | 6.4 | 0.0 | 2.6 | 5.1 | 8.3 |
| 重度障害者等包括支援 | 8.3 | 0.0 | 0.0 | 1.7 | 13.4 |
| 短期入所（ショートステイ） | ③　44.0 | 14.3 | ⑤　23.7 | ④　39.0 | ②　51.6 |
| 移動支援 | ②　45.5 | ⑤　42.9 | ②　55.3 | ②　55.9 | ④　38.9 |
| 日中一時支援 | 20.7 | 0.0 | 15.8 | ⑤　27.1 | 21.0 |
| 居住サポート | 1.9 | 14.3 | 0.0 | 0.0 | 2.5 |
| 送迎サービス | ④　36.1 | ②　57.1 | ③　44.7 | ③　49.2 | ⑤　29.3 |
| 訪問診療･訪問看護 | 22.9 | 0.0 | 21.1 | 16.9 | 26.8 |
| 相談窓口 | 17.7 | ②　57.1 | ⑤　23.7 | 25.4 | 10.8 |
| 地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援） | 18.8 | ②　57.1 | ⑤　23.7 | 16.9 | 15.3 |
| 障害者就業･生活支援センター | 4.1 | 0.0 | 0.0 | 3.4 | 4.5 |
| ジョブコーチ | 0.4 | 0.0 | 0.0 | 1.7 | 0.0 |
| 職場実習･トライアル雇用 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 知的障害者職親委託 | 0.4 | 14.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 日常生活自立支援事業 | 3.8 | 14.3 | 7.9 | 6.8 | 1.3 |
| 成年後見制度 | 20.7 | ⑤　42.9 | ④　31.6 | 20.3 | 17.2 |
| 公的保証人制度 | 0.8 | 14.3 | 0.0 | 1.7 | 0.0 |
| 介護保険による訪問サービス | 6.4 | 0.0 | 7.9 | 10.2 | 4.5 |
| その他 | 0.4 | 0.0 | 2.6 | 0.0 | 0.0 |
| 無回答 | 0.8 | 0.0 | 2.6 | 0.0 | 0.6 |
| 知的 |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=739] | 区分3 [N=16] | 区分4 [N=153] | 区分5 [N=216] | 区分6 [N=332] |
| 居宅介護（ホームヘルプ） | ③　43.2 | ④　37.5 | ③　39.2 | ②　46.3 | ③　42.2 |
| 重度訪問介護 | 18.9 | 0.0 | 2.0 | 17.6 | 28.6 |
| 同行援護 | 2.6 | 0.0 | 3.3 | 1.4 | 3.0 |
| 行動援護 | 28.4 | 0.0 | 16.3 | 27.3 | 34.3 |
| 重度障害者等包括支援 | 12.7 | 0.0 | 1.3 | 6.0 | 23.2 |
| 短期入所（ショートステイ） | 27.7 | 18.8 | 13.1 | 24.5 | ④　37.7 |
| 移動支援 | ①　54.7 | ③　68.8 | ①　67.3 | ①　60.6 | ②　46.4 |
| 日中一時支援 | ⑤　28.6 | 0.0 | 16.3 | ⑤　27.8 | ⑤　36.7 |
| 居住サポート | 0.3 | 0.0 | 0.7 | 0.5 | 0.0 |
| 送迎サービス | ②　44.5 | 25.0 | ⑤　34.6 | ③　44.9 | ①　50.6 |
| 訪問診療･訪問看護 | 9.1 | 0.0 | 3.9 | 6.5 | 13.9 |
| 相談窓口 | 19.6 | ⑤　31.3 | 28.8 | 21.3 | 13.6 |
| 地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援） | 18.8 | ⑤　31.3 | 22.9 | 18.5 | 14.8 |
| 障害者就業･生活支援センター | 1.5 | 6.3 | 5.2 | 0.9 | 0.0 |
| ジョブコーチ | 1.5 | 0.0 | 4.6 | 1.4 | 0.3 |
| 職場実習･トライアル雇用 | 1.2 | 12.5 | 2.6 | 1.4 | 0.0 |
| 知的障害者職親委託 | 3.0 | 12.5 | 5.9 | 2.3 | 1.5 |
| 日常生活自立支援事業 | 22.3 | ①　75.0 | ④　37.3 | 25.9 | 10.8 |
| 成年後見制度 | ④　40.5 | ①　75.0 | ②　50.3 | ④　42.6 | 33.1 |
| 公的保証人制度 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.5 | 0.0 |
| 介護保険による訪問サービス | 6.8 | 12.5 | 7.8 | 7.4 | 5.7 |
| その他 | 0.4 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.6 |
| 無回答 | 1.5 | 0.0 | 3.3 | 1.4 | 0.6 |

精神について、入院者の状態群別で見ると、「居宅介護」「訪問診療・訪問看護」は群に関わらず、高い割合です。「相談窓口」は5群で比較的割合が低くなっています。

図表 73 地域移行に必要なサービス･支援環境（その他の生活支援）（複数回答）；状態群別

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 精神 |  |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=883] | 1群[N=62] | 2群[N=73] | 3群[N=124] | 4群[N=12] | 5群[N=582] |
| 居宅介護（ホームヘルプ） | ②　48.1 | ②　54.8 | ③　54.8 | ①　58.9 | ①　33.3 | ②　45.7 |
| 重度訪問介護 | 5.1 | 0.0 | 0.0 | 1.6 | 0.0 | 7.4 |
| 同行援護 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.2 |
| 行動援護 | 10.6 | 4.8 | 1.4 | 3.2 | 8.3 | 14.4 |
| 重度障害者等包括支援 | 3.2 | 0.0 | 0.0 | 0.8 | 8.3 | 4.5 |
| 短期入所（ショートステイ） | 4.0 | 0.0 | 1.4 | 7.3 | 8.3 | 4.0 |
| 移動支援 | 12.3 | 12.9 | 6.8 | 18.5 | 16.7 | 12.0 |
| 日中一時支援 | 17.2 | 9.7 | 13.7 | 21.0 | 8.3 | 17.9 |
| 居住サポート | 2.6 | 4.8 | 4.1 | 2.4 | 8.3 | 2.1 |
| 送迎サービス | 10.8 | 12.9 | 16.4 | 16.1 | 8.3 | 9.1 |
| 訪問診療･訪問看護 | ①　56.1 | ②　54.8 | ①　61.6 | ②　55.6 | ③　25.0 | ①　55.3 |
| 相談窓口 | ③　36.9 | ①　58.1 | ②　58.9 | ③　49.2 | ③　25.0 | ④　30.4 |
| 地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援） | ④　35.7 | ④　35.5 | ④　52.1 | ④　34.7 | 16.7 | ③　33.2 |
| 障害者就業･生活支援センター | 1.5 | 1.6 | 6.8 | 4.8 | 0.0 | 0.2 |
| ジョブコーチ | 0.5 | 0.0 | 1.4 | 2.4 | 0.0 | 0.0 |
| 職場実習･トライアル雇用 | 0.5 | 0.0 | 2.7 | 1.6 | 0.0 | 0.0 |
| 知的障害者職親委託 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 0.8 | 0.0 | 0.5 |
| 日常生活自立支援事業 | ⑤　26.3 | ⑤　30.6 | ⑤　32.9 | ⑤　32.3 | ①　33.3 | ⑤　24.4 |
| 成年後見制度 | 19.8 | 12.9 | 6.8 | 18.5 | ③　25.0 | 23.0 |
| 公的保証人制度 | 8.4 | 4.8 | 5.5 | 7.3 | 8.3 | 9.8 |
| 介護保険による訪問サービス | 6.1 | 6.5 | 1.4 | 4.0 | 16.7 | 6.7 |
| その他 | 7.5 | 0.0 | 2.7 | 0.8 | 8.3 | 10.3 |
| 無回答 | 2.3 | 3.2 | 1.4 | 0.8 | 0.0 | 2.6 |

本人の望む生活場所別で見ると、身体、知的とも本人が「聴取不可」だと「重度訪問介護」「行動援護」「重度障害者等包括支援」「短期入所」「日中一時支援」などの割合が高くなり、「相談窓口」「地域相談支援」「日常生活自立支援事業」などの割合が低くなります。

また、「聴取不可」だと、身体では「移動支援」、知的では「成年後見制度」の割合が低くなります。「送迎サービス」は、「聴取不可」だと身体では割合が低くなり、知的では割合が高くなります。「居宅介護」は身体、知的とも、一定の割合で選ばれる傾向にあります。

図表 74 地域移行に必要なサービス･支援環境(その他の生活支援)(複数回答)；本人の望む生活場所別

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  |  | (%) |
|  | 全体  [N=266] | 地域希望  [N=50] | 施設希望・不明[N=144] | 聴取不可  [N=69] |
| 居宅介護（ホームヘルプ） | ①　65.8 | ①　60.0 | ①　70.8 | ①　58.0 |
| 重度訪問介護 | ⑤　32.7 | 26.0 | ⑤　29.2 | ③　42.0 |
| 同行援護 | 2.3 | 4.0 | 2.1 | 1.4 |
| 行動援護 | 6.4 | 0.0 | 4.9 | 14.5 |
| 重度障害者等包括支援 | 8.3 | 4.0 | 3.5 | ⑤　21.7 |
| 短期入所（ショートステイ） | ③　44.0 | ④　38.0 | ④　40.3 | ②　55.1 |
| 移動支援 | ②　45.5 | ③　42.0 | ②　61.1 | 14.5 |
| 日中一時支援 | 20.7 | 10.0 | 16.7 | ④　37.7 |
| 居住サポート | 1.9 | 4.0 | 1.4 | 1.4 |
| 送迎サービス | ④　36.1 | ②　44.0 | ③　45.1 | 13.0 |
| 訪問診療･訪問看護 | 22.9 | 20.0 | 26.4 | 17.4 |
| 相談窓口 | 17.7 | ⑤　28.0 | 20.1 | 5.8 |
| 地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援） | 18.8 | ⑤　28.0 | 21.5 | 4.3 |
| 障害者就業･生活支援センター | 4.1 | 4.0 | 5.6 | 1.4 |
| ジョブコーチ | 0.4 | 2.0 | 0.0 | 0.0 |
| 職場実習･トライアル雇用 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 知的障害者職親委託 | 0.4 | 0.0 | 0.7 | 0.0 |
| 日常生活自立支援事業 | 3.8 | 10.0 | 2.8 | 1.4 |
| 成年後見制度 | 20.7 | 20.0 | 22.2 | 18.8 |
| 公的保証人制度 | 0.8 | 2.0 | 0.7 | 0.0 |
| 介護保険による訪問サービス | 6.4 | 6.0 | 7.6 | 4.3 |
| その他 | 0.4 | 2.0 | 0.0 | 0.0 |
| 無回答 | 0.8 | 0.0 | 1.4 | 0.0 |
| 知的 |  |  |  | (%) |
|  | 全体  [N=739] | 地域希望[N=180] | 施設希望・不明[N=212] | 聴取不可[N=336] |
| 居宅介護（ホームヘルプ） | ③　43.2 | ③　48.3 | ②　45.8 | ④　39.3 |
| 重度訪問介護 | 18.9 | 6.1 | 11.3 | 29.8 |
| 同行援護 | 2.6 | 1.7 | 1.9 | 3.6 |
| 行動援護 | 28.4 | 20.6 | 18.4 | ④　39.3 |
| 重度障害者等包括支援 | 12.7 | 1.1 | 5.2 | 23.8 |
| 短期入所（ショートステイ） | 27.7 | 24.4 | 18.4 | 35.4 |
| 移動支援 | ①　54.7 | ①　63.3 | ①　51.9 | ①　52.4 |
| 日中一時支援 | ⑤　28.6 | 20.6 | 17.0 | ③　40.8 |
| 居住サポート | 0.3 | 0.0 | 0.5 | 0.3 |
| 送迎サービス | ②　44.5 | ④　38.3 | ③　44.8 | ②　47.6 |
| 訪問診療･訪問看護 | 9.1 | 6.7 | 7.5 | 11.3 |
| 相談窓口 | 19.6 | 27.8 | 28.3 | 10.1 |
| 地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援） | 18.8 | ⑤　28.3 | ⑤　34.0 | 4.5 |
| 障害者就業･生活支援センター | 1.5 | 2.8 | 2.8 | 0.0 |
| ジョブコーチ | 1.5 | 3.9 | 1.4 | 0.3 |
| 職場実習･トライアル雇用 | 1.2 | 1.7 | 2.8 | 0.0 |
| 知的障害者職親委託 | 3.0 | 4.4 | 5.2 | 0.9 |
| 日常生活自立支援事業 | 22.3 | ⑤　28.3 | 26.9 | 15.8 |
| 成年後見制度 | ④　40.5 | ②　52.8 | ④　40.1 | 34.2 |
| 公的保証人制度 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.3 |
| 介護保険による訪問サービス | 6.8 | 6.7 | 11.8 | 3.9 |
| その他 | 0.4 | 0.6 | 0.0 | 0.6 |
| 無回答 | 1.5 | 2.8 | 1.9 | 0.6 |

精神では、本人が「聴取不可」だと「居宅介護」「訪問診療・訪問看護」「相談窓口」「地域相談支援」「日常生活自立支援事業」などの割合が低くなり、「成年後見制度」などの割合が高くなっています。

図表 75 地域移行に必要なサービス･支援環境(その他の生活支援)(複数回答)；本人の望む生活場所別

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 精神 |  |  |  | (%) |
|  | 全体  [N=883] | 地域希望[N=439] | 病院希望・不明[N=267] | 聴取不可[N=175] |
| 居宅介護（ホームヘルプ） | ②　48.1 | ②　53.3 | ②　54.7 | ③　25.1 |
| 重度訪問介護 | 5.1 | 3.9 | 4.9 | 8.6 |
| 同行援護 | 0.1 | 0.2 | 0.0 | 0.0 |
| 行動援護 | 10.6 | 10.3 | 13.1 | 7.4 |
| 重度障害者等包括支援 | 3.2 | 1.4 | 2.6 | 8.6 |
| 短期入所（ショートステイ） | 4.0 | 4.6 | 3.0 | 4.0 |
| 移動支援 | 12.3 | 11.8 | 18.7 | 4.0 |
| 日中一時支援 | 17.2 | 18.7 | 21.3 | 7.4 |
| 居住サポート | 2.6 | 2.3 | 2.6 | 3.4 |
| 送迎サービス | 10.8 | 10.0 | 14.6 | 6.9 |
| 訪問診療･訪問看護 | ①　56.1 | ①　60.6 | ①　61.4 | ①　36.6 |
| 相談窓口 | ③　36.9 | ③　43.5 | ④　37.5 | ④　20.0 |
| 地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援） | ④　35.7 | ④　41.9 | ③　37.8 | ⑤　16.6 |
| 障害者就業･生活支援センター | 1.5 | 2.7 | 0.4 | 0.0 |
| ジョブコーチ | 0.5 | 0.9 | 0.0 | 0.0 |
| 職場実習･トライアル雇用 | 0.5 | 0.9 | 0.0 | 0.0 |
| 知的障害者職親委託 | 0.5 | 0.5 | 0.4 | 0.6 |
| 日常生活自立支援事業 | ⑤　26.3 | ⑤　32.3 | ⑤　27.3 | 9.7 |
| 成年後見制度 | 19.8 | 16.4 | 16.1 | ②　33.7 |
| 公的保証人制度 | 8.4 | 9.1 | 10.1 | 4.0 |
| 介護保険による訪問サービス | 6.1 | 5.7 | 5.2 | 8.6 |
| その他 | 7.5 | 7.1 | 4.1 | 13.1 |
| 無回答 | 2.3 | 1.1 | 1.9 | 5.7 |

### 地域移行支援にあたり有効な働きかけ［問19］

地域移行が「可能」と判断される人（精神では全員）に関して、地域移行支援にあたり有効な働きかけについて聞いたところ、いずれも、「地域での生活を実際に体験する（見学・宿泊体験等）」「買い物や外出等､施設外に出る機会を増やす」を多くがあげており、特に知的では「地域での生活を実際に体験する」が7割以上と高い割合になっています。

また、「その他」では、以下のような回答がありました。

・まずは家族の気持ちをほぐす必要あり

　・家族への支援

　・家族の協力は得ることが不可能なため、市が協力してくれないと本人に合ったサービスなどを見つけることは不可能

　・ご本人を常時サポートする支援者が必要

　・クライシスプラン

図表 76 地域移行支援にあたり有効な働きかけ（複数回答）

入所者の障害支援区分別、入院者の状態群別で見ると、いずれも、区分または状態群が上がると、全般的に回答割合が低くなり、「特に思いつかない」の割合が高くなる傾向です。

図表 77 地域移行支援にあたり有効な働きかけ（複数回答）；障害支援区分別

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=266] | 区分3 [N=7] | 区分4 [N=38] | 区分5 [N=59] | 区分6 [N=157] |
| 地域生活に関する情報提供（ＤＶＤを見る、体験談を聞く等） | 22.9 | 42.9 | 31.6 | 27.1 | 19.1 |
| 地域生活に関する理解を促進する支援（コミュニケーションツールの活用等による理解促進） | 10.5 | 0.0 | 21.1 | 11.9 | 7.0 |
| 地域での生活を実際に体験する（見学・宿泊体験等） | 56.0 | 57.1 | 60.5 | 59.3 | 53.5 |
| 買い物や外出等、施設外に出る機会を増やす | 53.8 | 28.6 | 50.0 | 42.4 | 59.2 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 25.6 | 28.6 | 23.7 | 27.1 | 24.2 |
| 「地域移行支援」サービスの支給決定 | 3.8 | 0.0 | 0.0 | 6.8 | 3.8 |
| 特に思いつかない | 10.5 | 0.0 | 5.3 | 11.9 | 12.1 |
| その他 | 4.9 | 0.0 | 2.6 | 3.4 | 6.4 |
| 無回答 | 2.6 | 28.6 | 5.3 | 3.4 | 0.6 |
|  |  |  |  |  |  |
| 知的 |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=739] | 区分3 [N=16] | 区分4 [N=153] | 区分5 [N=216] | 区分6 [N=332] |
| 地域生活に関する情報提供（ＤＶＤを見る、体験談を聞く等） | 15.3 | 50.0 | 26.8 | 16.2 | 7.8 |
| 地域生活に関する理解を促進する支援（コミュニケーションツールの活用等による理解促進） | 21.5 | 31.3 | 22.9 | 26.4 | 16.3 |
| 地域での生活を実際に体験する（見学・宿泊体験等） | 71.7 | 87.5 | 86.3 | 76.9 | 59.3 |
| 買い物や外出等、施設外に出る機会を増やす | 45.7 | 43.8 | 53.6 | 50.5 | 39.5 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 13.0 | 6.3 | 18.3 | 13.0 | 9.6 |
| 「地域移行支援」サービスの支給決定 | 8.0 | 6.3 | 7.2 | 6.0 | 7.8 |
| 特に思いつかない | 17.9 | 6.3 | 2.6 | 13.0 | 29.5 |
| その他 | 3.5 | 6.3 | 5.9 | 1.4 | 3.9 |
| 無回答 | 3.2 | 0.0 | 2.6 | 3.7 | 3.6 |

図表 78 地域移行支援にあたり有効な働きかけ（複数回答）；状態群別

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 精神 |  |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=883] | 1群[N=62] | 2群[N=73] | 3群[N=124] | 4群[N=12] | 5群[N=582] |
| 地域生活に関する情報提供（ＤＶＤを見る、体験談を聞く等） | 23.4 | 32.3 | 34.2 | 29.8 | 25.0 | 17.9 |
| 地域生活に関する理解を促進する支援（コミュニケーションツールの活用等による理解促進） | 15.4 | 22.6 | 15.1 | 21.0 | 8.3 | 12.4 |
| 地域での生活を実際に体験する（見学・宿泊体験等） | 42.8 | 67.7 | 67.1 | 54.8 | 41.7 | 33.7 |
| 買い物や外出等、施設外に出る機会を増やす | 41.8 | 33.9 | 39.7 | 49.2 | 25.0 | 42.3 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 17.9 | 9.7 | 19.2 | 25.0 | 16.7 | 16.7 |
| 「地域移行支援」サービスの支給決定 | 2.6 | 1.6 | 1.4 | 0.8 | 0.0 | 3.3 |
| 特に思いつかない | 11.0 | 1.6 | 5.5 | 4.8 | 25.0 | 13.6 |
| その他 | 16.1 | 6.5 | 2.7 | 9.7 | 16.7 | 20.6 |
| 無回答 | 1.0 | 0.0 | 0.0 | 0.8 | 0.0 | 1.4 |

本人の望む生活場所別で見ると、身体、知的、精神のいずれも、本人が「聴取不可」だと全般的に回答割合が低くなり、「特に思いつかない」の割合が高くなります。また、知的では、本人が聴取可（「地域希望」「施設希望・不明」）だと、「地域での生活を実際に体験する（見学・宿泊体験等）」の割合が８割以上となっています。

図表 79 地域移行支援にあたり有効な働きかけ（複数回答）；本人の望む生活場所別

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  |  | (%) |
|  | 全体  [N=266] | 地域希望[N=50] | 施設希望・不明[N=144] | 聴取不可[N=69] |
| 地域生活に関する情報提供（ＤＶＤを見る、体験談を聞く等） | 22.9 | 24.0 | 25.7 | 17.4 |
| 地域生活に関する理解を促進する支援（コミュニケーションツールの活用等による理解促進） | 10.5 | 12.0 | 13.2 | 4.3 |
| 地域での生活を実際に体験する（見学・宿泊体験等） | 56.0 | 58.0 | 61.8 | 40.6 |
| 買い物や外出等、施設外に出る機会を増やす | 53.8 | 40.0 | 62.5 | 43.5 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 25.6 | 40.0 | 23.6 | 18.8 |
| 「地域移行支援」サービスの支給決定 | 3.8 | 4.0 | 0.7 | 10.1 |
| 特に思いつかない | 10.5 | 2.0 | 5.6 | 27.5 |
| その他 | 4.9 | 8.0 | 2.8 | 7.2 |
| 無回答 | 2.6 | 4.0 | 3.5 | 0.0 |
| 知的 |  |  |  | (%) |
|  | 全体  [N=739] | 地域希望[N=180] | 施設希望・不明[N=212] | 聴取不可[N=336] |
| 地域生活に関する情報提供（ＤＶＤを見る、体験談を聞く等） | 15.3 | 24.4 | 23.6 | 5.4 |
| 地域生活に関する理解を促進する支援（コミュニケーションツールの活用等による理解促進） | 21.5 | 32.2 | 30.2 | 10.4 |
| 地域での生活を実際に体験する（見学・宿泊体験等） | 71.7 | 81.7 | 84.9 | 58.3 |
| 買い物や外出等、施設外に出る機会を増やす | 45.7 | 50.0 | 37.3 | 48.5 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 13.0 | 22.2 | 20.8 | 3.6 |
| 「地域移行支援」サービスの支給決定 | 8.0 | 15.6 | 7.1 | 4.8 |
| 特に思いつかない | 17.9 | 5.6 | 6.1 | 31.3 |
| その他 | 3.5 | 3.9 | 2.8 | 3.9 |
| 無回答 | 3.2 | 1.1 | 1.9 | 4.8 |
| 精神 |  |  |  | (%) |
|  | 全体  [N=883] | 地域希望[N=439] | 病院希望・不明[N=267] | 聴取不可[N=175] |
| 地域生活に関する情報提供（ＤＶＤを見る、体験談を聞く等） | 23.4 | 24.4 | 29.2 | 12.6 |
| 地域生活に関する理解を促進する支援（コミュニケーションツールの活用等による理解促進） | 15.4 | 16.2 | 18.0 | 9.7 |
| 地域での生活を実際に体験する（見学・宿泊体験等） | 42.8 | 49.4 | 49.4 | 16.0 |
| 買い物や外出等、施設外に出る機会を増やす | 41.8 | 48.5 | 45.7 | 18.9 |
| 「地域移行支援」サービスの紹介 | 17.9 | 20.5 | 18.7 | 10.3 |
| 「地域移行支援」サービスの支給決定 | 2.6 | 2.3 | 2.6 | 2.9 |
| 特に思いつかない | 11.0 | 6.6 | 9.0 | 25.1 |
| その他 | 16.1 | 14.1 | 6.7 | 34.9 |
| 無回答 | 1.0 | 1.1 | 1.1 | 0.6 |

### 地域移行が不可能な理由［様式1の問20］

障害者支援施設入所者で、地域移行が「不可能」と判断される人に関して、その理由を聞いたところ、身体では「家族の同意が得られない」、知的では「本人が地域生活に適応できないため」の割合が高くなっています。

また、「その他」としては、以下のような回答がありました。

　・表情、発語なし、生活全般において完全全介助。寝たきり状態、高齢、家族も高齢。ゆえに、「不可能」と判断。

　・子どものころから施設にいて外で生活をしたことがないから。

　・65才を過ぎているので在宅では障害福祉サービスを利用できない。かといって介護保険は要介護度が低くて使えないと思われる。

　・自己中心的で他者と交わることができない。

　・意思決定のできない重度障害者が地域で生活する事は定時のケアのみの機械的な訪問となり人間らしさを失ってしまうと思う。

　・てんかん発作があり事故につながる恐れがある。

　・自ら判断することができない。

図表 80 地域移行が不可能な理由

入所者の障害支援区分別に見ると、区分が重くなるほど「本人が地域生活に適応できないため」の割合が高くなり、「本人の意思」の割合が低くなる傾向です。「家族の同意が得られない」は、区分4以上では、身体で6割前後、知的で2割前後となっています。

図表 81 地域移行が不可能な理由；障害支援区分別

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=232] | 区分3 [N=7] | 区分4 [N=19] | 区分5 [N=43] | 区分6 [N=162] |
| 本人が地域生活に適応できないため | 32.3 | 14.3 | 15.8 | 23.3 | 37.7 |
| 本人の意思 | 30.6 | 71.4 | 68.4 | 39.5 | 22.2 |
| 家族の同意が得られない | 62.5 | 42.9 | 68.4 | 53.5 | 64.8 |
| その他 | 20.7 | 14.3 | 10.5 | 25.6 | 21.0 |
| 無回答 | 0.9 | 0.0 | 0.0 | 2.3 | 0.6 |
|  |  |  |  |  |  |
| 知的 |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=455] | 区分3 [N=3] | 区分4 [N=42] | 区分5 [N=104] | 区分6 [N=295] |
| 本人が地域生活に適応できないため | 82.0 | 100.0 | 50.0 | 78.8 | 87.1 |
| 本人の意思 | 10.8 | 0.0 | 38.1 | 9.6 | 7.5 |
| 家族の同意が得られない | 17.4 | 0.0 | 21.4 | 18.3 | 16.9 |
| その他 | 4.6 | 0.0 | 19.0 | 5.8 | 2.0 |
| 無回答 | 1.5 | 0.0 | 0.0 | 1.9 | 1.7 |

本人の望む生活場所別で見ると、「地域希望」の場合、「家族の同意が得られない」の割合が高くなり、「聴取不可」の場合、「本人が地域生活に適応できないため」の割合が高くなります。

図表 82 地域移行が不可能な理由（複数回答）；本人の望む生活場所別

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=232] | 地域希望  [N=21] | 施設希望・不明[N=113] | 聴取不可  [N=97] |
| 本人が地域生活に適応できないため | 32.3 | 14.3 | 21.2 | 49.5 |
| 本人の意思 | 30.6 | 4.8 | 60.2 | 2.1 |
| 家族の同意が得られない | 62.5 | 76.2 | 57.5 | 64.9 |
| その他 | 20.7 | 14.3 | 19.5 | 23.7 |
| 無回答 | 0.9 | 0.0 | 0.9 | 1.0 |
| 知的 |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=455] | 地域希望  [N=47] | 施設希望・不明[N=100] | 聴取不可  [N=302] |
| 本人が地域生活に適応できないため | 82.0 | 74.5 | 65.0 | 88.7 |
| 本人の意思 | 10.8 | 6.4 | 33.0 | 4.3 |
| 家族の同意が得られない | 17.4 | 23.4 | 20.0 | 15.6 |
| その他 | 4.6 | 8.5 | 9.0 | 2.3 |
| 無回答 | 1.5 | 2.1 | 1.0 | 1.7 |

### 本人への地域移行支援にかかる課題［様式1の問21、様式3の問20］

本人への地域移行支援の課題について聞いたところ、以下のとおりです。

＜身体＞　①家族同意68%、②事業所数55%、③地域の障害福祉サービス体制53%、

④支給量39%、⑤本人同意・エンパワメント28%

＜知的＞　①地域の障害福祉サービス体制67%、②事業所数67%、③家族同意42%、

④地域の体制づくり31%、⑤支給量30%

＜精神＞　①家族同意47%、②地域の障害福祉サービス体制45%、

③地域の医療体制等33%、④本人同意・エンパワメント31%、⑤事業所数17％

「家族同意」は、身体、精神で1位、知的で3位にあげられています。「事業所数」「地域の障害福祉サービス体制」なども上位となっています。

なお、「その他」では、「介護保険制度利用へのスムーズな移行」「介護保険優先適応がある限り難しい」「地域で生活するには収入が足りない」「持続性・協調性に欠ける面があるので本人の状況を充分理解した支援が必要」「主治医の了解が得られない」などの回答がありました。

図表 83 本人への地域移行支援にかかる課題（複数回答）

身体、知的について、入所者の障害支援区分別で見ると、区分が重くなるほど「支給量」「地域の障害福祉サービス体制」「地域の医療体制等」などの割合が高くなる傾向です。

また、区分が重いと「施設内の支援体制」「職員の意識醸成」「情報の周知・共有」などの割合は低くなる傾向です。「家族同意」は区分に関わらず、身体では6～７割、知的では約４割（区分３を除く）です。

図表 84 本人への地域移行支援にかかる課題（複数回答）；障害支援区分別

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=503] | 区分3 [N=14] | 区分4 [N=57] | 区分5 [N=103] | 区分6 [N=323] |
| 地域生活のための障害福祉サービス（事業所数）が不足している | ②　54.7 | ②　42.9 | ②　45.6 | ②　58.3 | ③　55.1 |
| 地域生活のための障害福祉サービス（支給量）を増やす必要がある | ④　38.8 | ⑤　21.4 | 19.3 | ⑤　35.0 | ④　44.0 |
| 現在の地域の障害福祉サービス支援体制では、本人の行動に対応しきれない | ③　52.5 | ⑤　21.4 | ⑤　22.8 | ③　52.4 | ②　59.1 |
| 現在の地域の医療体制や障害福祉サービス（医療的ケア）では、本人への対応が不十分 | 24.1 | 7.1 | 5.3 | 23.3 | ⑤　28.2 |
| 地域の体制づくり（関係機関ネットワーク、地域生活支援拠点、コーディネーターの配置等）が不十分 | 18.5 | 7.1 | 17.5 | 15.5 | 19.8 |
| 説明しても本人が同意されない（本人へのエンパワメント支援の促進を含む） | ⑤　27.6 | ③　35.7 | ③　35.1 | ④　35.9 | 23.2 |
| 家族の同意を得るのが難しい | ①　67.8 | ①　64.3 | ①　73.7 | ①　65.0 | ①　68.1 |
| 地域住民の理解 | 2.0 | 0.0 | 0.0 | 1.0 | 2.8 |
| 地域移行に向けた、施設内の支援体制の充実 | 7.2 | ⑤　21.4 | 8.8 | 6.8 | 6.2 |
| 地域移行に向けた、施設職員の意識の醸成 | 5.4 | ⑤　21.4 | 8.8 | 2.9 | 5.0 |
| 地域移行に向けた、市町との連携 | 10.9 | 14.3 | 8.8 | 11.7 | 10.5 |
| 地域移行に関するサービス等情報の周知･共有（本人・家族・職員等） | 26.8 | ④　28.6 | ④　33.3 | 24.3 | 26.3 |
| その他 | 12.9 | 7.1 | 5.3 | 11.7 | 15.2 |
| 無回答 | 1.2 | 0.0 | 0.0 | 1.0 | 1.5 |
| 知的 |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=1,200] | 区分3 [N=19] | 区分4 [N=195] | 区分5 [N=320] | 区分6 [N=630] |
| 地域生活のための障害福祉サービス（事業所数）が不足している | ②　66.5 | ①　73.7 | ①　72.8 | ①　70.9 | ②　62.4 |
| 地域生活のための障害福祉サービス（支給量）を増やす必要がある | ⑤　30.1 | 21.1 | 24.1 | 28.4 | ⑤　32.1 |
| 現在の地域の障害福祉サービス支援体制では、本人の行動に対応しきれない | ①　66.6 | ③　42.1 | ③　41.5 | ②　59.4 | ①　79.0 |
| 現在の地域の医療体制や障害福祉サービス（医療的ケア）では、本人への対応が不十分 | 26.5 | 15.8 | 11.8 | 24.7 | ④　32.9 |
| 地域の体制づくり（関係機関ネットワーク、地域生活支援拠点、コーディネーターの配置等）が不十分 | ④　31.4 | ④　31.6 | 31.8 | ④　33.4 | 29.2 |
| 説明しても本人が同意されない（本人へのエンパワメント支援の促進を含む） | 16.7 | 15.8 | 25.1 | 19.4 | 13.2 |
| 家族の同意を得るのが難しい | ③　41.8 | 10.5 | ②　45.6 | ③　40.9 | ③　42.4 |
| 地域住民の理解 | 20.8 | 0.0 | 21.0 | 20.6 | 21.4 |
| 地域移行に向けた、施設内の支援体制の充実 | 22.0 | 21.1 | ④　38.5 | 26.9 | 15.1 |
| 地域移行に向けた、施設職員の意識の醸成 | 13.5 | ⑤　26.3 | 28.2 | 15.0 | 8.1 |
| 地域移行に向けた、市町との連携 | 20.7 | 21.1 | 19.0 | 21.3 | 21.4 |
| 地域移行に関するサービス等情報の周知･共有（本人・家族・職員等） | 25.8 | ②　68.4 | ⑤　34.4 | ⑤　30.3 | 20.0 |
| その他 | 2.6 | 10.5 | 4.1 | 1.6 | 2.2 |
| 無回答 | 1.2 | 0.0 | 0.5 | 0.9 | 1.1 |

（※丸数字は上位５位）

精神について、入院者の状態群別で見ると、群が上がるほど「地域の障害福祉サービス体制」「地域の医療体制等」などの割合が高くなり、「本人同意・エンパワメント」「情報の周知・共有」などの割合は低くなる傾向です。「家族同意」は群に関わらず、５割前後です。

図表 85 本人への地域移行支援にかかる課題（複数回答）；状態群別

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 精神 |  |  |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=883] | 1群[N=62] | 2群[N=73] | 3群[N=124] | 4群[N=12] | 5群[N=582] |
| 地域生活のための障害福祉サービス（事業所数）が不足している | ⑤　17.3 | 8.1 | 12.3 | ④　18.5 | ⑤　8.3 | ⑤　19.2 |
| 地域生活のための障害福祉サービス（支給量）を増やす必要がある | 10.5 | 4.8 | 8.2 | 6.5 | ⑤　8.3 | 12.5 |
| 現在の地域の障害福祉サービス支援体制では、本人の行動に対応しきれない | ②　45.1 | ③　22.6 | ④　16.4 | ③　32.3 | ③　25.0 | ①　55.3 |
| 現在の地域の医療体制や障害福祉サービス（医療的ケア）では、本人への対応が不十分 | ③　33.0 | 9.7 | 9.6 | ④　18.5 | ②　41.7 | ③　41.8 |
| 地域の体制づくり（関係機関ネットワーク、地域生活支援拠点、コーディネーターの配置等）が不十分 | 15.3 | 11.3 | 11.0 | 15.3 | ⑤　8.3 | 16.8 |
| 説明しても本人が同意されない（本人へのエンパワメント支援の促進を含む） | ④　30.7 | ①　58.1 | ①　52.1 | ②　34.7 | ④　16.7 | ④　23.9 |
| 家族の同意を得るのが難しい | ①　47.1 | ②　50.0 | ②　50.7 | ①　51.6 | ①　50.0 | ②　45.5 |
| 地域住民の理解 | 3.7 | 0.0 | 5.5 | 4.0 | 0.0 | 3.8 |
| 地域移行に向けた、病院内の支援体制の充実 | 12.9 | 11.3 | 11.0 | 9.7 | 0.0 | 14.8 |
| 地域移行に向けた、病院スタッフの意識の醸成 | 12.9 | ⑤　16.1 | ③　21.9 | 14.5 | 0.0 | 11.9 |
| 地域移行に向けた、市町との連携 | 7.2 | 3.2 | 4.1 | 10.5 | ⑤　8.3 | 7.6 |
| 地域移行に関するサービス等情報の周知･共有（本人・家族・職員等） | 10.5 | ③　22.6 | ⑤　15.1 | 14.5 | 0.0 | 7.9 |
| その他 | 12.7 | 8.1 | 13.7 | 9.7 | ⑤　8.3 | 14.3 |
| 無回答 | 1.7 | 0.0 | 0.0 | 2.4 | 0.0 | 2.1 |

（※丸数字は上位５位）

本人の望む生活場所別で見ると、身体、知的では、本人が「地域希望」だと「施設内の支援体制」「情報の周知・共有」などの割合が高くなり、「聴取不可」だと「地域の障害福祉サービス体制」「地域の医療体制等」などの割合が高くなります。「支給量」は、身体では、「地域希望」で割合が高くなり、知的では、逆に「聴取不可」で割合が高くなっています。「家族同意」は、身体、知的とも、本人意向による差はあまり見られません。

　精神では、「聴取不可」だと「地域の医療体制等」などの割合が高くなり、「病院内の支援体制」などの割合が低くなります。「家族同意」は、「地域希望」だと割合が高く、「聴取不可」では割合が低くなっています。

図表 86 本人への地域移行支援の課題（複数回答）；本人の望む生活場所別

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  |  | (%) |
|  | 全体  [N=503] | 地域希望[N=72] | 施設希望・不明[N=258] | 聴取不可[N=166] |
| 地域生活のための障害福祉サービス（事業所数）が不足している | ②　54.7 | ③　45.8 | ②　60.5 | ③　50.0 |
| 地域生活のための障害福祉サービス（支給量）を増やす必要がある | ④　38.8 | ②　48.6 | ⑤　37.6 | ⑤　36.1 |
| 現在の地域の障害福祉サービス支援体制では、本人の行動に対応しきれない | ③　52.5 | ④　38.9 | ③　50.4 | ②　61.4 |
| 現在の地域の医療体制や障害福祉サービス（医療的ケア）では、本人への対応が不十分 | 24.1 | 22.2 | 16.7 | ④　36.7 |
| 地域の体制づくり（関係機関ネットワーク、地域生活支援拠点、コーディネーターの配置等）が不十分 | 18.5 | 18.1 | 18.6 | 18.7 |
| 説明しても本人が同意されない（本人へのエンパワメント支援の促進を含む） | ⑤　27.6 | 2.8 | ④　38.0 | 23.5 |
| 家族の同意を得るのが難しい | ①　67.8 | ①　69.4 | ①　67.8 | ①　68.1 |
| 地域住民の理解 | 2.0 | 1.4 | 1.9 | 2.4 |
| 地域移行に向けた、施設内の支援体制の充実 | 7.2 | 20.8 | 5.0 | 4.8 |
| 地域移行に向けた、施設職員の意識の醸成 | 5.4 | 6.9 | 3.9 | 7.2 |
| 地域移行に向けた、市町との連携 | 10.9 | 15.3 | 9.3 | 12.0 |
| 地域移行に関するサービス等情報の周知･共有（本人・家族・職員等） | 26.8 | ⑤　36.1 | 27.1 | 22.3 |
| その他 | 12.9 | 15.3 | 11.6 | 13.9 |
| 無回答 | 1.2 | 1.4 | 0.8 | 0.0 |
| 知的 |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=1,200] | 地域希望[N=229] | 施設希望・不明[N=313] | 聴取不可[N=638] |
| 地域生活のための障害福祉サービス（事業所数）が不足している | ②　66.5 | ①　68.1 | ①　62.6 | ②　67.7 |
| 地域生活のための障害福祉サービス（支給量）を増やす必要がある | ⑤　30.1 | 23.6 | 20.8 | ④　37.1 |
| 現在の地域の障害福祉サービス支援体制では、本人の行動に対応しきれない | ①　66.6 | ②　53.7 | ②　55.6 | ①　76.6 |
| 現在の地域の医療体制や障害福祉サービス（医療的ケア）では、本人への対応が不十分 | 26.5 | 17.0 | 22.4 | ⑤　32.0 |
| 地域の体制づくり（関係機関ネットワーク、地域生活支援拠点、コーディネーターの配置等）が不十分 | ④　31.4 | ④　39.3 | 26.8 | 31.2 |
| 説明しても本人が同意されない（本人へのエンパワメント支援の促進を含む） | 16.7 | 7.0 | ④　33.9 | 11.8 |
| 家族の同意を得るのが難しい | ③　41.8 | ③　42.4 | ③　43.8 | ③　41.1 |
| 地域住民の理解 | 20.8 | 19.7 | 20.8 | 21.5 |
| 地域移行に向けた、施設内の支援体制の充実 | 22.0 | 27.1 | 24.6 | 19.0 |
| 地域移行に向けた、施設職員の意識の醸成 | 13.5 | 22.7 | 18.8 | 8.0 |
| 地域移行に向けた、市町との連携 | 20.7 | 27.5 | 23.0 | 17.1 |
| 地域移行に関するサービス等情報の周知･共有（本人・家族・職員等） | 25.8 | ⑤　37.6 | ⑤　30.0 | 19.6 |
| その他 | 2.6 | 2.6 | 3.8 | 2.0 |
| 無回答 | 1.2 | 1.7 | 1.0 | 0.5 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 精神 |  |  |  | (%) |
|  | 全体  [N=883] | 地域希望[N=439] | 病院希望・不明[N=267] | 聴取不可[N=175] |
| 地域生活のための障害福祉サービス（事業所数）が不足している | ⑤　17.3 | ⑤　17.8 | ⑤　19.9 | 12.0 |
| 地域生活のための障害福祉サービス（支給量）を増やす必要がある | 10.5 | 10.3 | 12.4 | 8.0 |
| 現在の地域の障害福祉サービス支援体制では、本人の行動に対応しきれない | ②　45.1 | ②　44.0 | ②　44.9 | ①　47.4 |
| 現在の地域の医療体制や障害福祉サービス（医療的ケア）では、本人への対応が不十分 | ③　33.0 | ③　31.2 | ④　31.5 | ②　38.9 |
| 地域の体制づくり（関係機関ネットワーク、地域生活支援拠点、コーディネーターの配置等）が不十分 | 15.3 | 16.2 | 14.2 | 14.3 |
| 説明しても本人が同意されない（本人へのエンパワメント支援の促進を含む） | ④　30.7 | ④　23.9 | ①　46.4 | ④　24.0 |
| 家族の同意を得るのが難しい | ①　47.1 | ①　54.7 | ③　42.7 | ③　34.9 |
| 地域住民の理解 | 3.7 | 3.6 | 4.1 | 3.4 |
| 地域移行に向けた、病院内の支援体制の充実 | 12.9 | 17.1 | 12.4 | 3.4 |
| 地域移行に向けた、病院スタッフの意識の醸成 | 12.9 | 13.9 | 14.2 | 8.6 |
| 地域移行に向けた、市町との連携 | 7.2 | 8.4 | 6.0 | 6.3 |
| 地域移行に関するサービス等情報の周知･共有（本人・家族・職員等） | 10.5 | 9.3 | 12.7 | 10.3 |
| その他 | 12.7 | 12.3 | 7.5 | ⑤　21.7 |
| 無回答 | 1.7 | 0.9 | 1.9 | 3.4 |

地域移行についての職員の可否判断の別で見ると、身体、知的とも、職員が移行不可能と判断している場合、「地域の障害福祉サービス体制」「地域の医療体制等」「本人同意・エンパワメント」「家族同意」などの割合が高くなり、「事業所数」「地域の体制づくり」「施設内の支援体制」「職員の意識醸成」「市町との連携」「情報の周知・共有」などの割合が低くなります。

また、身体では、移行不可能だと「支給量」の割合が高くなる一方、知的では、移行不可能だと「支給量」の割合が低くなり、「地域住民の理解」の割合が高くなります。

図表 87 本人への地域移行支援の課題（複数回答）；職員の可否判断別

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 身体 |  |  | (%) |
|  | 全体[N=503] | 可能[N=266] | 不可能[N=232] |
| 地域生活のための障害福祉サービス（事業所数）が不足している | ②　54.7 | ①　57.9 | ③　52.2 |
| 地域生活のための障害福祉サービス（支給量）を増やす必要がある | ④　38.8 | ④　35.3 | ④　43.5 |
| 現在の地域の障害福祉サービス支援体制では、本人の行動に対応しきれない | ③　52.5 | ⑤　32.7 | ②　76.3 |
| 現在の地域の医療体制や障害福祉サービス（医療的ケア）では、本人への対応が不十分 | 24.1 | 12.0 | ⑤　38.4 |
| 地域の体制づくり（関係機関ネットワーク、地域生活支援拠点、コーディネーターの配置等）が不十分 | 18.5 | 24.1 | 12.5 |
| 説明しても本人が同意されない（本人へのエンパワメント支援の促進を含む） | ⑤　27.6 | 25.2 | 31.0 |
| 家族の同意を得るのが難しい | ①　67.8 | ①　57.9 | ①　80.6 |
| 地域住民の理解 | 2.0 | 2.3 | 1.7 |
| 地域移行に向けた、施設内の支援体制の充実 | 7.2 | 12.0 | 1.7 |
| 地域移行に向けた、施設職員の意識の醸成 | 5.4 | 9.0 | 1.3 |
| 地域移行に向けた、市町との連携 | 10.9 | 16.9 | 4.3 |
| 地域移行に関するサービス等情報の周知･共有（本人・家族・職員等） | 26.8 | ③　44.7 | 6.9 |
| その他 | 12.9 | 6.4 | 20.7 |
| 無回答 | 1.2 | 0.4 | 0.0 |
| 知的 |  |  | (%) |
|  | 全体[N=1,200] | 可能[N=739] | 不可能[N=455] |
| 地域生活のための障害福祉サービス（事業所数）が不足している | ②　66.5 | ①　79.0 | ③　47.0 |
| 地域生活のための障害福祉サービス（支給量）を増やす必要がある | ⑤　30.1 | ③　38.2 | 17.4 |
| 現在の地域の障害福祉サービス支援体制では、本人の行動に対応しきれない | ①　66.6 | ②　56.8 | ①　83.3 |
| 現在の地域の医療体制や障害福祉サービス（医療的ケア）では、本人への対応が不十分 | 26.5 | 19.2 | ④　38.7 |
| 地域の体制づくり（関係機関ネットワーク、地域生活支援拠点、コーディネーターの配置等）が不十分 | ④　31.4 | ⑤　36.3 | 24.0 |
| 説明しても本人が同意されない（本人へのエンパワメント支援の促進を含む） | 16.7 | 14.7 | 20.0 |
| 家族の同意を得るのが難しい | ③　41.8 | ④　37.6 | ②　49.0 |
| 地域住民の理解 | 20.8 | 18.3 | ⑤　25.1 |
| 地域移行に向けた、施設内の支援体制の充実 | 22.0 | 28.7 | 11.4 |
| 地域移行に向けた、施設職員の意識の醸成 | 13.5 | 18.0 | 6.4 |
| 地域移行に向けた、市町との連携 | 20.7 | 27.2 | 10.3 |
| 地域移行に関するサービス等情報の周知･共有（本人・家族・職員等） | 25.8 | 31.1 | 17.4 |
| その他 | 2.6 | 1.5 | 4.4 |
| 無回答 | 1.2 | 0.5 | 0.9 |

精神科病院入院者について、サービス等利用計画の作成別で見ると、作成されている場合、「事業所数」「支給量」「地域の体制づくり」「病院内の支援体制」「スタッフの意識醸成」「市町との連携」「情報の周知・共有」の割合が高くなり、作成されていない場合、「地域の障害福祉サービス体制」「地域の医療体制等」「本人同意・エンパワメント」「家族同意」などの割合が高くなっています。

図表 88 本人への地域移行支援の課題（複数回答）；サービス等利用計画作成別

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 精神 |  |  |  | (%) |
|  | 全体[N=883] | 作成されている  [N=11] | 作成されていない[N=841] | わからない[N=18] |
| 地域生活のための障害福祉サービス（事業所数）が不足している | ⑤　17.3 | ①　45.5 | ⑤　17.0 | ④　22.2 |
| 地域生活のための障害福祉サービス（支給量）を増やす必要がある | 10.5 | ④　18.2 | 10.5 | 16.7 |
| 現在の地域の障害福祉サービス支援体制では、本人の行動に対応しきれない | ②　45.1 | 9.1 | ②　45.1 | ①　66.7 |
| 現在の地域の医療体制や障害福祉サービス（医療的ケア）では、本人への対応が不十分 | ③　33.0 | ④　18.2 | ③　32.7 | ③　55.6 |
| 地域の体制づくり（関係機関ネットワーク、地域生活支援拠点、コーディネーターの配置等）が不十分 | 15.3 | ②　36.4 | 15.3 | 11.1 |
| 説明しても本人が同意されない（本人へのエンパワメント支援の促進を含む） | ④　30.7 | 9.1 | ④　31.2 | ④　22.2 |
| 家族の同意を得るのが難しい | ①　47.1 | 0.0 | ①　47.3 | ①　66.7 |
| 地域住民の理解 | 3.7 | 0.0 | 3.9 | 0.0 |
| 地域移行に向けた、病院内の支援体制の充実 | 12.9 | ③　27.3 | 12.8 | 16.7 |
| 地域移行に向けた、病院スタッフの意識の醸成 | 12.9 | ④　18.2 | 13.0 | 16.7 |
| 地域移行に向けた、市町との連携 | 7.2 | ④　18.2 | 7.3 | 0.0 |
| 地域移行に関するサービス等情報の周知･共有（本人・家族・職員等） | 10.5 | ④　18.2 | 10.7 | 0.0 |
| その他 | 12.7 | 9.1 | 13.1 | 5.6 |
| 無回答 | 1.7 | 9.1 | 1.4 | 0.0 |

## 障害者支援施設入所者の状態区分

本人の「将来生活したい場所」の意向と、支援職員の「地域移行の可能性の判断」により、入所者の状態を以下のように区分しました。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 問7　本人からの聴取状況 | 聴取可 | | | 聴取  不可 |
| 問8　将来生活したい場所（本人の意向）  問17　地域移行の可能性について（支援職員の判断） | 違うところでの生活が良い | 今いる施設での生活が良い | わからない |
| 可能 | Ａ | Ｃ | | Ｅ |
| 不可能 | Ｂ | Ｄ | | |

Ａ：本人が地域移行の意思を表明、支援職員も可能と判断

Ｂ：本人が地域移行の意思を表明、支援職員は不可能と判断

Ｃ：本人は地域移行の意思を表明せず、支援職員は可能と判断

Ｄ：本人は地域移行の意思を表明せず、支援職員は不可能と判断

Ｅ：聴取不可能だが、支援職員は地域生活が可能と判断

この区分によると、以下のようになります（区分不能分を除いた集計）。

入所者全体では、Ａ区分が14%（230人）、Ｄ区分が37%（612人）となっています。また、Ｅ区分の割合も高く、24%（405人）です。身体、知的別で見ると、知的の方がＡ区分の割合が高く、Ｄ区分の割合が低くなっています。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 全体(旧身体＋旧知的) | 旧身体施設入所者 | 旧知的施設入所者 |
| Ａ：　13.8%（N=230）  Ｂ： 　4.1%（N=68）  Ｃ：　21.3%（N=356）  Ｄ：　36.6%（N=612）  Ｅ：　24.2%（N=405）  計： 100.0%（N=1,671） | Ａ：　10.1%（N=50）  Ｂ：　 4.3%（N=21）  Ｃ：　29.1%（N=144）  Ｄ：　42.5%（N=210）  Ｅ：　14.0%（N=69）  計： 100.0%（N=494） | Ａ：　15.3%（N=180）  B： 　4.0%（N=47）  Ｃ：　18.0%（N=212）  Ｄ：　34.2%（N=402）  Ｅ：　28.5%（N=336）  計： 100.0%（N=1,177） |

図表 89 入所者の状態区分

図表 90 市町別人数

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 市町名 | 施設入所者全体 | | | | | |
| Ａ | Ｂ | Ｃ | Ｄ | Ｅ | 計 |
| 津市 | 38 | 6 | 69 | 78 | 76 | 267 |
| 四日市市 | 19 | 11 | 44 | 74 | 68 | 216 |
| 伊勢市 | 17 | 2 | 21 | 54 | 23 | 117 |
| 松阪市 | 20 | 10 | 32 | 54 | 40 | 156 |
| 桑名市 | 20 | 1 | 20 | 43 | 25 | 109 |
| 鈴鹿市 | 25 | 3 | 28 | 57 | 41 | 154 |
| 名張市 | 7 | 4 | 8 | 21 | 15 | 55 |
| 尾鷲市 | 1 | 0 | 7 | 9 | 8 | 25 |
| 亀山市 | 3 | 0 | 6 | 8 | 7 | 24 |
| 鳥羽市 | 7 | 0 | 7 | 17 | 10 | 41 |
| 熊野市 | 0 | 1 | 8 | 19 | 0 | 28 |
| いなべ市 | 3 | 0 | 5 | 14 | 5 | 27 |
| 志摩市 | 8 | 7 | 8 | 18 | 16 | 57 |
| 伊賀市 | 14 | 3 | 18 | 19 | 18 | 72 |
| 木曽岬町 | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 | 4 |
| 東員町 | 2 | 0 | 2 | 3 | 3 | 10 |
| 菰野町 | 2 | 2 | 6 | 12 | 5 | 27 |
| 朝日町 | 3 | 0 | 0 | 2 | 0 | 5 |
| 川越町 | 3 | 1 | 3 | 1 | 2 | 10 |
| 多気町 | 2 | 1 | 1 | 6 | 5 | 15 |
| 明和町 | 0 | 0 | 3 | 12 | 5 | 20 |
| 大台町 | 1 | 1 | 2 | 6 | 4 | 14 |
| 玉城町 | 4 | 1 | 3 | 4 | 1 | 13 |
| 度会町 | 1 | 2 | 4 | 1 | 3 | 11 |
| 大紀町 | 3 | 2 | 5 | 7 | 1 | 18 |
| 南伊勢町 | 5 | 0 | 7 | 13 | 3 | 28 |
| 紀北町 | 2 | 2 | 9 | 11 | 0 | 24 |
| 御浜町 | 3 | 0 | 3 | 5 | 0 | 11 |
| 紀宝町 | 3 | 0 | 4 | 6 | 1 | 14 |
| 県外 | 13 | 8 | 21 | 35 | 19 | 96 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 市町名 | 旧身体施設 | | | | | | 旧知的施設 | | | | | |
| Ａ | Ｂ | Ｃ | Ｄ | Ｅ | 計 | Ａ | Ｂ | Ｃ | Ｄ | Ｅ | 計 |
| 津市 | 4 | 1 | 33 | 32 | 8 | 78 | 34 | 5 | 36 | 46 | 68 | 189 |
| 四日市市 | 4 | 1 | 23 | 21 | 17 | 66 | 15 | 10 | 21 | 53 | 51 | 150 |
| 伊勢市 | 2 | 1 | 6 | 16 | 3 | 28 | 15 | 1 | 15 | 38 | 20 | 89 |
| 松阪市 | 11 | 4 | 11 | 23 | 5 | 54 | 9 | 6 | 21 | 31 | 35 | 102 |
| 桑名市 | 4 | 0 | 12 | 13 | 2 | 31 | 16 | 1 | 8 | 30 | 23 | 78 |
| 鈴鹿市 | 8 | 2 | 16 | 20 | 16 | 62 | 17 | 1 | 12 | 37 | 25 | 92 |
| 名張市 | 0 | 2 | 2 | 9 | 1 | 14 | 7 | 2 | 6 | 12 | 14 | 41 |
| 尾鷲市 | 0 | 0 | 3 | 2 | 0 | 5 | 1 | 0 | 4 | 7 | 8 | 20 |
| 亀山市 | 1 | 0 | 2 | 1 | 3 | 7 | 2 | 0 | 4 | 7 | 4 | 17 |
| 鳥羽市 | 1 | 0 | 1 | 4 | 1 | 7 | 6 | 0 | 6 | 13 | 9 | 34 |
| 熊野市 | 0 | 0 | 4 | 5 | 0 | 9 | 0 | 1 | 4 | 14 | 0 | 19 |
| いなべ市 | 0 | 0 | 1 | 4 | 2 | 7 | 3 | 0 | 4 | 10 | 3 | 20 |
| 志摩市 | 0 | 4 | 2 | 7 | 0 | 13 | 8 | 3 | 6 | 11 | 16 | 44 |
| 伊賀市 | 4 | 1 | 6 | 8 | 2 | 21 | 10 | 2 | 12 | 11 | 16 | 51 |
| 木曽岬町 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 東員町 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 4 | 1 | 0 | 0 | 2 | 3 | 6 |
| 菰野町 | 1 | 1 | 3 | 7 | 4 | 16 | 1 | 1 | 3 | 5 | 1 | 11 |
| 朝日町 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 3 | 0 | 0 | 1 | 0 | 4 |
| 川越町 | 2 | 0 | 1 | 0 | 1 | 4 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 6 |
| 多気町 | 1 | 1 | 0 | 3 | 1 | 6 | 1 | 0 | 1 | 3 | 4 | 9 |
| 明和町 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 3 | 9 | 5 | 17 |
| 大台町 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 3 | 1 | 1 | 1 | 4 | 4 | 11 |
| 玉城町 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 3 | 1 | 3 | 3 | 1 | 11 |
| 度会町 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 1 | 4 | 0 | 3 | 9 |
| 大紀町 | 1 | 0 | 3 | 5 | 0 | 9 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 9 |
| 南伊勢町 | 0 | 0 | 1 | 6 | 0 | 7 | 5 | 0 | 6 | 7 | 3 | 21 |
| 紀北町 | 0 | 0 | 1 | 4 | 0 | 5 | 2 | 2 | 8 | 7 | 0 | 19 |
| 御浜町 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 3 | 2 | 0 | 2 | 4 | 0 | 8 |
| 紀宝町 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 3 | 2 | 0 | 3 | 5 | 1 | 11 |
| 県外 | 2 | 2 | 7 | 8 | 3 | 22 | 11 | 6 | 14 | 27 | 16 | 74 |

性別で見ると、Ａ区分の割合は、身体では男性が高く、知的では女性が高くなります。また、Ｄ区分の割合は、身体では女性が高く、知的では男性が高くなります。

図表 91 入所者の状態区分；性別

Ａ：本人が地域移行の意思を表明、支援職員も可能と判断

Ｂ：本人が地域移行の意思を表明、支援職員は不可能と判断

Ｃ：本人は地域移行の意思を表明せず、支援職員は可能と判断

Ｄ：本人は地域移行の意思を表明せず、支援職員は不可能と判断

Ｅ：聴取不可能だが、支援職員は地域生活が可能と判断

年齢別で見ると、身体では、若齢層および高齢層でＡ区分の割合が低くなり、Ｄ区分の割合が高くなります。知的では、高齢になるほどＡ区分、Ｃ区分の割合が高くなり、Ｅ区分の割合が低くなります。

図表 92 入所者の状態区分；年齢別

Ａ：本人が地域移行の意思を表明、支援職員も可能と判断

Ｂ：本人が地域移行の意思を表明、支援職員は不可能と判断

Ｃ：本人は地域移行の意思を表明せず、支援職員は可能と判断

Ｄ：本人は地域移行の意思を表明せず、支援職員は不可能と判断

Ｅ：聴取不可能だが、支援職員は地域生活が可能と判断

入所期間別で見ると、身体、知的とも、入所期間が長くなるとＡ区分の割合は低くなる傾向です。ただし、知的については、年齢別（前ページ）では高齢になるほどＡ区分の割合が高くなっていることから、年齢と入所期間は単純な相関関係にはないことがうかがえます（10ページの図表12参照）。

図表 93 入所者の状態区分；入所期間別

Ａ：本人が地域移行の意思を表明、支援職員も可能と判断

Ｂ：本人が地域移行の意思を表明、支援職員は不可能と判断

Ｃ：本人は地域移行の意思を表明せず、支援職員は可能と判断

Ｄ：本人は地域移行の意思を表明せず、支援職員は不可能と判断

Ｅ：聴取不可能だが、支援職員は地域生活が可能と判断

手帳所持状況別で見ると、身体、知的とも、複数手帳所持等でＡ区分、Ｃ区分の割合が低く、D区分の割合が高くなります。また、身体では複数手帳所持等でＥ区分の割合が高くなっています。

図表 94 入所者の状態区分；手帳所持状況別

※旧身体施設入所者で、療育手帳のみ所持者（N=8）は、「身体」の集計では「複数所持等」に区分しています。（なお、旧知的施設入所者で身体障害者手帳のみ所持者はいません。）

Ａ：本人が地域移行の意思を表明、支援職員も可能と判断

Ｂ：本人が地域移行の意思を表明、支援職員は不可能と判断

Ｃ：本人は地域移行の意思を表明せず、支援職員は可能と判断

Ｄ：本人は地域移行の意思を表明せず、支援職員は不可能と判断

Ｅ：聴取不可能だが、支援職員は地域生活が可能と判断

障害支援区分別で見ると、特に知的では、区分が重くなるほどＡ区分、Ｃ区分の割合が低くなり、Ｄ区分、Ｅ区分の割合が高くなる傾向が強くなっています。

図表 95 入所者の状態区分；障害支援区分別

Ａ：本人が地域移行の意思を表明、支援職員も可能と判断

Ｂ：本人が地域移行の意思を表明、支援職員は不可能と判断

Ｃ：本人は地域移行の意思を表明せず、支援職員は可能と判断

Ｄ：本人は地域移行の意思を表明せず、支援職員は不可能と判断

Ｅ：聴取不可能だが、支援職員は地域生活が可能と判断

## 精神科病院入院者の状態区分

精神科病院入院者について、本人の「将来生活したい場所」の意向と、入院者の状態群（12ページ参照）により、入院者の状態を以下のように区分しました。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 問7　本人からの聴取状況 | 聴取可 | | | 聴取  不可 |
| 問8　将来生活したい場所（本人の意向）  問5　状態群（能力障害・精神症状による整理） | 病院以外での生活が良い | 病院での生活が良い | わからない |
| 見守り、必要時の相談があれば地域生活が可能（１群）  いつでも直ちに支援できる24時間ケアがあれば地域生活が可能（２群・３群）  ２群・３群に加え、介護支援必要度の高いサービスがあれば、地域移行が可能（４群） | Ａ | Ｃ | | Ｅ |
| 継続して入院治療を要する状態（５群） | Ｂ | Ｄ | | |

この区分によると、以下のようになります（区分不能分を除いた集計）。

入院者全体では、Ａ区分が18%（156人）、Ｄ区分が37%（314人）となっています。

また、Ｅ区分は3%（23人）です。

|  |  |
| --- | --- |
| Ａ（本人が地域移行の意思を表明、状態群でも地域生活可能）  Ｂ（本人が地域移行の意思を表明、状態群では入院治療が必要）  Ｃ（本人は地域移行の意思を表明せず、状態群では地域生活可能）  Ｄ（本人は地域移行の意思を表明せず、状態群でも入院治療が必要）  Ｅ（聴取不可能だが、状態群では地域生活可能）  計 | ：　18.3%（N=156）  ：　31.3%（N=266）  ：　10.8%（N=92）  ：　36.9%（N=314）  ：　 2.7%（N=23）  ：　100%（N=851） |

図表 96 市町別人数

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 市町名 | Ａ | Ｂ | Ｃ | Ｄ | Ｅ | 計 |
| 津市 | 14 | 27 | 14 | 28 | 3 | 86 |
| 四日市市 | 16 | 43 | 9 | 53 | 1 | 122 |
| 伊勢市 | 12 | 19 | 9 | 27 | 4 | 71 |
| 松阪市 | 18 | 28 | 13 | 23 | 3 | 85 |
| 桑名市 | 9 | 27 | 3 | 28 | 2 | 69 |
| 鈴鹿市 | 9 | 22 | 7 | 23 | 1 | 62 |
| 名張市 | 8 | 6 | 2 | 9 | 0 | 25 |
| 尾鷲市 | 5 | 5 | 3 | 5 | 0 | 18 |
| 亀山市 | 3 | 3 | 1 | 6 | 0 | 13 |
| 鳥羽市 | 2 | 6 | 1 | 5 | 1 | 15 |
| 熊野市 | 3 | 3 | 2 | 4 | 0 | 12 |
| いなべ市 | 4 | 3 | 3 | 13 | 0 | 23 |
| 志摩市 | 6 | 19 | 1 | 11 | 0 | 37 |
| 伊賀市 | 8 | 5 | 2 | 16 | 3 | 34 |
| 木曽岬町 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| 東員町 | 0 | 4 | 1 | 3 | 0 | 8 |
| 菰野町 | 0 | 1 | 0 | 5 | 0 | 6 |
| 朝日町 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 川越町 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| 多気町 | 1 | 2 | 2 | 4 | 0 | 9 |
| 明和町 | 3 | 1 | 1 | 3 | 0 | 8 |
| 大台町 | 2 | 0 | 0 | 3 | 1 | 6 |
| 玉城町 | 1 | 4 | 0 | 2 | 0 | 7 |
| 度会町 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 |
| 大紀町 | 8 | 2 | 1 | 4 | 1 | 16 |
| 南伊勢町 | 4 | 6 | 1 | 4 | 1 | 16 |
| 紀北町 | 0 | 3 | 4 | 6 | 1 | 14 |
| 御浜町 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 紀宝町 | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 8 |
| 県外 | 11 | 17 | 8 | 23 | 1 | 60 |

性別で見ると、女性の方が、Ａ区分の割合がやや低く、D区分の割合がやや高くなっています。

図表 97 入院者の状態区分；性別

年齢別で見ると、高齢になるほど、Ａ区分、Ｂ区分の割合が低くなる傾向が見られます。

図表 98 入院者の状態区分；年齢別

Ａ：本人が地域移行の意思を表明、状態群でも地域生活可能

Ｂ：本人が地域移行の意思を表明、状態群では入院治療が必要

Ｃ：本人は地域移行の意思を表明せず、状態群では地域生活可能

Ｄ：本人は地域移行の意思を表明せず、状態群でも入院治療が必要

Ｅ：聴取不可能だが、状態群では地域生活可能

入院期間別で見ると、入院期間が長いほど、Ａ区分、Ｂ区分の割合が低くなり、Ｃ区分、Ｄ区分の割合が高くなっています。

図表 99 入院者の状態区分；入院期間別

手帳所持状況別では、精神障害者保健福祉手帳のみ所持者で、Ａ区分、Ｂ区分の割合が高くなり、Ｄ区分の割合が低くなっています。

図表 100 入院者の状態区分；手帳所持状況別

Ａ：本人が地域移行の意思を表明、状態群でも地域生活可能

Ｂ：本人が地域移行の意思を表明、状態群では入院治療が必要

Ｃ：本人は地域移行の意思を表明せず、状態群では地域生活可能

Ｄ：本人は地域移行の意思を表明せず、状態群でも入院治療が必要

Ｅ：聴取不可能だが、状態群では地域生活可能

# 障害者支援施設入所待機者意向調査の結果（調査票様式2）

## 対象者の属性

### 入所待機者の性別［問1］

性別は、「男」が7割弱、「女」が3割強となっています。手帳所持状況別で見ると、療育手帳のみ所持者で「男」の割合が高くなっています。

図表 101 入所待機者の性別

### 入所待機者の年齢［問2］

年齢は、50歳未満が3/4を占めています。手帳所持状況別で見ると、療育手帳のみ所持者、複数手帳所持者では50歳未満が８割超ですが、身体障害者手帳のみ所持者では逆に50歳以上が6割を超えています。

図表 102 入所待機者の年齢

### 入所待機者の居住地［問3］

居住地（支給決定・出身等の市町）について、障害保健福祉圏域別で見ると、四日市圏域、鈴鹿・亀山圏域、伊勢志摩圏域などが高い割合となっています。

図表 103 入所待機者の居住圏域

図表 104 入所待機者の居住市町

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 市町名 | % | 人数 | 市町名 | % | 人数 | 市町名 | % | 人数 | 市町名 | % | 人数 |
| 津市 | 13.6 | 30 | 亀山市 | 1.4 | 3 | 菰野町 | 2.7 | 6 | 大紀町 | 1.8 | 4 |
| 四日市市 | 17.3 | 38 | 鳥羽市 | 1.8 | 4 | 朝日町 | 0.5 | 1 | 南伊勢町 | 1.4 | 3 |
| 伊勢市 | 8.2 | 18 | 熊野市 | 0.0 | 0 | 川越町 | 0.0 | 0 | 紀北町 | 1.8 | 4 |
| 松阪市 | 5.9 | 13 | いなべ市 | 2.3 | 5 | 多気町 | 0.5 | 1 | 御浜町 | 0.5 | 1 |
| 桑名市 | 8.6 | 19 | 志摩市 | 2.3 | 5 | 明和町 | 0.5 | 1 | 紀宝町 | 0.0 | 0 |
| 鈴鹿市 | 15.9 | 35 | 伊賀市 | 5.0 | 11 | 大台町 | 0.5 | 1 | 県外 | 0.5 | 1 |
| 名張市 | 3.2 | 7 | 木曽岬町 | 0.0 | 0 | 玉城町 | 0.9 | 2 | 無回答 | 0.5 | 1 |
| 尾鷲市 | 2.7 | 6 | 東員町 | 0.0 | 0 | 度会町 | 0.0 | 0 |  | [N=220] | |

### 入所待機者の障害者手帳の等級［問4］

障害者手帳の等級については、「知的A1」が半数近くとなっており、また、「知的A2」「身体1級」なども比較的高い割合となっています。

図表 105 入所待機者の障害者手帳の等級[N=220]（複数回答）

障害者手帳の所持状況で見ると、「療育のみ」が半数、次いで「身体+療育」が2割となっています。

図表 106 入所待機者の障害者手帳の所持状況[N=220]

### 入所待機者の障害支援区分［問5］

障害支援区分については、「区分6」が約3割で割合が最も高く、次いで「区分5」「区分4」の順となっています。

図表 107 入所待機者の障害支援区分

年齢別で見ると、高齢になるほど「区分６」の割合が低くなっています。

図表 108 入所待機者の障害支援区分；年齢別

### 入所待機者の現在の住まい［問6］

入所待機者の現在の住まいは、「自宅」が7割以上を占めます。次いで「成人入所施設」「病院」「児童入所施設」の順となっていますが、「自宅」以外はいずれも1割未満です。

手帳所持状況別で見ると、身体手帳のみ所持者では「自宅」に次いで「アパート・公営住宅」、療育手帳のみ所持者では「自宅」に次いで「児童入所施設」、複数手帳所持者では「自宅」に次いで「成人入所施設」の割合が高く、それぞれ約1割となっています。

図表 109 入所待機者の現在の住まい

## 対象者本人の意向

### アンケート回答方法［問7］

アンケート回答方法は、「聴き取り不可能のため、回答できない」が半数以上を占め、「家族等が聴き取りのうえ記入」は約4割、「本人記入」はわずかです。

手帳所持状況別で見ると、身体手帳のみ所持者では「本人記入」が約1割、「聴き取り記入」が6割超で、あわせて8割弱が回答可能となっていますが、療育手帳のみ所持者、複数手帳所持者では「本人記入」はごくわずかであり、「聴き取り不可能のため、回答できない」が５～６割を占めています。

図表 110 アンケート回答方法

性別で見ると、女性の方が回答可能の割合が高くなっています。

図表 111 アンケート回答方法；性別

年齢別で見ると、高齢になるほど回答可能の割合が高くなっています。

図表 112 アンケート回答方法；年齢別

障害支援区分別で見ると、区分が重くなるほど回答可能の割合は低くなります。また、区分１～３・未認定でも回答可能の割合が低くなっています。

図表 113 アンケート回答方法；障害支援区分別

### 入所待機者となっていることの認知［問8］

「本人記入」「聴き取り記入」の人に、入所待機者となっていることを知っているかどうかを聞いたところ、「知っている」が約7割を占める一方、「知らなかった」が約2割となっています。

図表 114 入所待機者となっていることの認知

### 現時点での障害者支援施設への入所希望［問9］

「本人記入」「聴き取り記入」の人に、現時点での障害者支援施設への入所希望を聞いたところ、「入所を希望」がほぼ半数を占めます。「状況等に変化があった場合､入所を希望」は約4割です。複数手帳所持者では「入所を希望」の割合が高くなっています。

図表 115 現時点での障害者支援施設への入所希望

性別で見ると、女性で「入所を希望」の割合が高くなっています。

図表 116 現時点での障害者支援施設への入所希望；性別

年齢別で見ると、30代、40代で「入所を希望」の割合が高くなっています。

図表 117 現時点での障害者支援施設への入所希望；年齢別

障害支援区分別では、区分1～3・未認定と区分5で「入所を希望」の割合が高くなっています。

図表 118 現時点での障害者支援施設への入所希望；障害支援区分別

### 将来生活したい場所［問10］

「本人記入」「聴き取り記入」の人に、将来生活したい場所について聞いたところ、「入所施設での生活が良い」が半数以上ですが、「今いるところでの生活が良い」「別の場所での生活が良い（入所施設以外）」という人もあわせて約３割となっています。

手帳所持状況別で見ると、身体手帳のみ所持者では「今いるところ」「別の場所（入所施設以外）」が約5割を占め、療育手帳のみ所持者、複数手帳所持者では「入所施設」が約6割を占めています。

図表 119 将来生活したい場所

性別で見ると、女性の方が「入所施設での生活が良い」の割合が高くなっています。

図表 120 将来生活したい場所；性別

年齢別で見ると、30代、40代では「入所施設」が６割超となる一方、20代以下および50代以上では、「今いるところ」「別の場所（入所施設以外）」の割合が４割近くとなっています。

図表 121 将来生活したい場所；年齢別

障害支援区分別で見ると、区分が重くなるほど「今いるところ」の割合が高くなります。

図表 122 将来生活したい場所；障害支援区分別

### 「別の場所（入所施設以外）」の具体的な場所［問11］

将来生活したい場所として「別の場所での生活が良い（入所施設以外）」と回答した人に、その具体的な場所を聞いたところ、「グループホーム」が6割、「自宅」が2割となっています。

図表 123 「別の場所（入所施設以外）」の具体的な場所[N=5]

### ｢入所施設での生活が良い｣と回答した理由［問12］

将来生活したい場所として「入所施設での生活が良い」と回答した人に、理由を聞いたところ、「入所施設だと安心だから」が7割以上と高い割合です。次いで「自活する家事能力に自信がないから」「入所施設以外では介護を十分に受けられないから」「家族が入所を希望しているから」などの回答が多くなっています。

手帳所持状況別で見ると、療育手帳のみ所持者では「家族が入所を希望しているから」「他に生活する場所がないから」などの回答が多くなっています。

図表 124 ｢入所施設での生活が良い｣と回答した理由（複数回答）

### ｢わからない｣と回答した理由［問13］

将来生活したい場所として「わからない」と回答した人に、理由を聞いたところ、「将来の自分や家族の状況がわからない」が全体の3/4を占めます。

図表 125 ｢わからない｣と回答した理由[N=12]

### 生活するにあたり心配なこと［問14］

「本人記入」「聴き取り記入」の人に、生活するにあたり心配なことを聞いたところ、「家事」「介護」「薬・体調管理等」などが6～7割と高い割合です。これらの項目については、複数手帳所持者で特に割合が高くなっています。

図表 126 生活するにあたり心配なこと（複数回答）

将来生活したい場所の質問（89ページの問10）で、「今いるところでの生活が良い」または「別の場所での生活が良い（入所施設以外）」と回答した人を「地域希望」、「入所施設での生活が良い」または「わからない」と回答した人を「施設希望・不明」と区分し、本問の回答状況を見たところ、いずれも、おおむね同様の傾向となっています。

（※問10で「今いるところでの生活が良い」と回答した人は全て、「現在の住まい」は入所施設・病院以外であった）

図表 127 生活するにあたり心配なこと（複数回答）；本人の望む生活場所別

### 受けられる手助け（サービス）について知りたいか［問15］

「本人記入」「聴き取り記入」の人に、受けられる手助け(サービス)について知りたいかどうかを聞いたところ、「知りたい」が約6割、「知りたくない」は1割弱です。

図表 128 受けられる手助け(サービス)について知りたいか

障害支援区分別で見ると、区分6で「知りたい」の割合が高くなっています。

図表 129 受けられる手助け(サービス)について知りたいか；障害支援区分別

本人の望む生活場所別で見ると、地域希望者で「知りたい」の割合が高くなっています。

図表 130 受けられる手助け(サービス)について知りたいか；本人の望む生活場所別

### 入所待機者の一番言いたいこと［問16］

一番言いたいことについて、自由記載での回答を求めたところ、39件の回答がありました。意見内容としては、施設に入所したい、施設を増やしてほしいといった、入所希望に関する意見が11件と最も多くなっています。また、グループホームなどを増やしてほしい、障がい者の働ける場所を増やしてほしい、話し相手がほしいといった、サービス基盤等の充実に関する意見も9件ありました。その他、将来、親に頼れなくなったときの不安などを訴える意見（7件）、このまま地域で生活したい、家族で暮らしていきたいという意見（6件）などが回答されています。

図表 131 自由意見の内容

|  |  |
| --- | --- |
| 意見分類 | 件数 |
| 入所希望に関する意見 | 11 |
| サービス基盤等の充実に関する意見 | 9 |
| 将来の生活の不安などを訴える意見 | 7 |
| 地域での生活や親との暮らしを続けたいという意見 | 6 |
| その他 | 6 |
| 合計 | 39 |

■自由回答（抜粋）

◇入所希望、今後の不安など

|  |
| --- |
| 早く入所したい。義父との折り合いが悪い為。 |
| 親も認知症で施設で暮らしている。自分もまた、施設に入り暮らしていきたい。 |
| 親が高齢な為、出来れば地域の入所施設へ入りたい。 |
| 父との2人暮らしです。父が居なくなったらどうなるのかとても心配です。自分自身で生活はできません。父はがんと高血圧で通院治療中です。 |
| 現在は母と2人でなんとか生活できているが母の体も自由がきかなくなってきている為、今後の事がとても心配である。 |
| 施設への入所を希望していますが、なかなか順番がこずに月1回のショートステイをしています。ショートの回数を月に1回ではなく、もっと利用できるよう増やしてほしいです。 |
| 現在、私と母の2人暮らしですが、70歳になり（母が）身体もあまり丈夫ではなく、毎日が不安です。ショートステイを毎日利用させて頂いている施設に友達がいっぱい出来て私も毎月入所者の皆さんに会うのが楽しみに待ちながら作業所に通所しています。最初は、入所はあまり気が進まなかったのですが、2年くらい前から「私ここに居たい」となりました。でも、施設が現在空きがない為、入所は難しい状態です。私の弟達も時々様子を見てもらえる施設は今ショートステイに行っている場所が最適かと心待ちしています。自分（私）の元気なうちに早く入所させて頂きたいと心から願っています。今、46歳です。 |
| 両親が高齢なため（父母80歳以上）毎日が不安ですが現在はどうにか健在なので2人力を合わせて介護できていますが片親になれば無理な状態です。とくに数回てんかん発作があるため本人１人での生活はとても不可能です。発作による事故防止のため通常車椅子を使用しているが、それでも力及ばず度々怪我をしています。 |
| ただただどうしようと思うだけ。今は、障害の面倒は見れるが施設へ入れるのもかわいそうだし、親より1日早く死んでくれたらと思うがそれは判っている無理だと。やはり、最終的には施設でしょうね。そこで思います。入所施設の職員の給料を世間のどこよりもアップし、居場所の良い職場にしてほしい。金と心とどちらで動くか生きている間に見届け、安心して入所できたら親は世を去っても良いと思う。 |
| 本人は知的障害で何も分かりません。回答は父親が記入するしかないのです。1人子で兄弟はおりません。親は86歳と83歳でもうすぐ自分だけになる時が近いのです。この様な状態の中に居る自分ですがわかるはずありません。親亡き後は他人様のご厄介になり生きさせてもらうより道がないと思い平成18年より○○へまた、昨年より△△のはからいがあり、□□へ月1回外泊の体験をして来ましたが、そこで入所をお願いしてもその余裕はないとのことです。最近になり体調の変化があり車椅子を使用です。役場と△△のはからいで○○へショートステイのお願いに参りました。いまだ実現しておりません。どんな時にでも私の心にあるものは子供だけ残る日が近づいて来ることでございます。何卒お願い致します。 |

◇地域生活などについて

|  |
| --- |
| 今は母と2人暮らしだが、これから先母がだんだん年を取って行くとその先の事が心配です。やはり私も障害者だけど、できるだけ自分の家で暮らせたらいいのになあと思う。 |
| 地域で今の生活とほぼ変わらない暮らしがしたい。ケアホーム（グループホーム）で。今はないので困っている。両親も年を取っていくばかり。今、作業所にいる仲間達と将来も楽しく生きてゆきたい。ただ、この町（○○町）にはぼくの将来住む家はない。でも僕は、それを誰にどう訴えたらいいかも分からない。 |
| 両親が健康でずっと現在と同じ支援をしてくれるなら今のままが一番よいがそれは無理と思う。現在、利用している作業所と定期的に利用しているショートステイの場所が遠く、両親が元気なうちは馴れている両方を利用して在宅でなんとか生活が出来ているが両親も歳を重ねささえる事が困難になれば在宅中心の生活は難しいと思う。 |
| 本当はショートステイに行きたくない。父母が病気などで一緒にいられなくなった時に困るから練習している。将来○○に入所したい。ずっと家で生活したいけど。 |
| ①緊急時にショートステイを利用したいが、他の人と重なり利用できない時があるので近くに施設を増やしてほしい。②ケアホームがないのでケアホームを作ってほしい。 |
| 親子で入所できるホームみたいなものがあれば安心だと思う。 |

◇その他要望など

|  |
| --- |
| 話し相手が欲しい。 |
| 障害者にも働けるところを増やしてほしい。 |
| いつまでも父さんや母さんが元気でいてほしい。 |
| 台風の時に早く逃げたい。 |
| 重度障害であるのに年齢で介護保険が適応されずにエアーマットは実費でリースした経緯がある。必要な物はサービスが受けられるようにしてほしい。 |
| ＜良い事＞歯科受診障害者専用の利用ができるので定期的に受診も出来予約もできるので介護の者は大変助かるし大事にならないので嬉しい。＜悪い点＞日常生活の中で外の科を受診するのが大変（検査、受診）2～3時間待ってやっと受診（3分）それすら対応にたいへんな子です。病気や手術になると出来ないです。怖さを知っているのもあって。 |
| ①現状、質問に対しては答えてくれるが、それ以外のことは何も教えてくれない。問題が起こってからはじめて詳細を説明するのではなく、はじめから深くまで説明してほしい。こちらは分からないことだらけなのだから。（市役所関係）②障害年金について、子供が高校卒業したら4万減った。私は年齢がまだ若いので、介護保険は使えず、病院のおむつ代について自費で払っている。今の障害年金では生活が厳しい。 |

※家族等の意見と思われるものも掲載しています。

## 家族等の意向

### 家族等の回答者の年代・続柄［問17］

家族等のアンケート回答者の年代は、60代が約3割、50代と70代がそれぞれ約2割となっています。60代以上が6割近くを占めます。

身体手帳のみ所持者の家族等では、40代以下および80代以上の割合が比較的高く、療育手帳のみ所持者、複数手帳所持者の家族等では、50代～70代の割合が高くなっています。

図表 132 家族等回答者の年代

待機者本人の年齢別で見ると、本人の年齢が上がると、回答者の年代も高くなる傾向です。

図表 133 家族等回答者の年代；本人の年齢別

障害支援区分別で見ると、区分が重くなるほど50代以下の割合が高くなる傾向です。また、50代以下は、区分１～３・未認定でも割合が比較的高くなっています。

図表 134 家族等回答者の年代；障害支援区分別

本人の望む生活場所別で見ると、「聴取不可」では50代以下が5割弱を占め、「施設希望・不明」「地域希望」では60代以上が7割近くを占めています。「地域希望」では40代以下の割合も比較的高くなっています。

図表 135 家族等回答者の年代；本人の望む生活場所別

家族等のアンケート回答者の本人との続柄については、母親が半数以上を占めます。父親は2割、兄弟姉妹は1割弱となっています。

図表 136 家族等回答者の続柄

障害支援区分別で見ると、区分が重くなるほど、母親が回答する割合が高くなっています。

図表 137 家族等回答者の続柄；障害支援区分別

本人の望む生活場所別で見ると、「地域希望」では父親の割合が比較的高くなる一方、「施設希望・不明」「聴取不可」では母親の割合が高くなっています。

図表 138 家族等回答者の続柄；本人の望む生活場所別

### 同居者［問18］

本人との同居者については、母親が約7割、父親は半数強、兄弟姉妹は約3割という状況です。手帳所持状況別で見ると、次のとおりです。

＜身体手帳のみ所持者＞母親50%、父親24%、子18%、兄弟姉妹15%、配偶者12% 等

＜療育手帳のみ所持者＞母親80%、父親67%、兄弟姉妹38%、祖父母12%　等

＜複数手帳所持者＞母親82%、父親52%、兄弟姉妹41%、その他13%　等

図表 139 同居者（複数回答）

同居者の構成から世帯を類型化したところ、本人以外が親のみの世帯（「両親」「ひとり親」）が約4割、親と兄弟姉妹の世帯（「両親と兄弟姉妹」「ひとり親と兄弟姉妹」）が約3割という構成となっています。手帳所持状況別で見ると、次のとおりです。

＜身体手帳のみ所持者＞　親のみの世帯29%、親と兄弟姉妹の世帯21%　等

＜療育手帳のみ所持者＞　親のみの世帯45%、親と兄弟姉妹の世帯30%　等

＜複数手帳所持者＞　親のみの世帯46%、親と兄弟姉妹の世帯36%　等

図表 140 世帯類型

本人の年齢別で見ると、本人が50歳以上だと「ひとり親」の割合が高くなっています。

図表 141 世帯類型；本人の年齢別

障害支援区分別で見ると、区分６と区分1～３・未認定で、親のみの世帯が比較的少なくなっています。

図表 142 世帯類型；障害支援区分別

本人の望む生活場所別で見ると、「施設希望・不明」では、親のみの世帯が多くなっており、「地域希望」「聴取不可」では、兄弟姉妹を含む世帯が多くなっています。

図表 143 世帯類型；本人の望む生活場所別

### 現時点での家族等の障害者支援施設への入所希望［問19］

現時点での家族等の障害者支援施設への入所希望は、「入所を希望」が5割強、「状況等に変化があった場合､入所を希望」が４割弱となっています。手帳所持状況別に見ると、身体手帳のみ所持者で「入所を希望」の割合が低くなっています。

図表 144 現時点での家族等の入所希望

本人の性別で見ると、次のとおりです。

図表 145 現時点での家族等の入所希望；本人の性別

本人の年齢別で見ると、年齢が若くなるほど「入所を希望」する家族等の割合が高くなっています。

図表 146 現時点での家族等の入所希望；本人の年齢別

障害支援区分別で見ると、区分が重くなるほど「入所を希望」の割合が高くなっています。また、区分１～３・未認定でも「入所を希望」の割合がやや高くなっています。

図表 147 現時点での家族等の入所希望；障害支援区分別

本人の望む生活場所別で見ると、本人が「地域希望」の場合、「状況等に変化があった場合､入所を希望」する家族等は６割超です。本人が「施設希望・不明」「聴取不可」だと、逆に「入所を希望」する家族等が約6割となっています。

図表 148 現時点での家族等の入所希望；本人の望む生活場所別

家族等回答者の年代別で見ると、50代以下で「入所を希望」する家族等の割合が高くなっています。

図表 149 現時点での家族等の入所希望；家族年代別

世帯別で見ると、次のとおりです。

図表 150 現時点での家族等の入所希望；世帯別

### 家族等が施設入所を希望する理由［問20］

「入所を希望」「状況等に変化があった場合､入所を希望」と回答した家族等に、施設入所を希望する理由を聞いたところ、「将来､家族が不在となった場合に備えて」が約７割と最も高く、次いで「家族の高齢化による介護力の低下」「本人の障がいが重いため､地域での生活継続が困難」などとなっています。なお、「その他」では、「母子家庭のため、母が仕事だと留守番ができない」「何度も警察のお世話になり困り果てた」「医師から勧められた」などの回答もありました。

図表 151 家族等が施設入所を希望する理由（複数回答）

本人の望む生活場所別で見ると、本人が「地域希望」だと「家族の高齢化による介護力の低下」をあげる家族等が多くなり、本人が「聴取不可」だと「本人の障がいが重いため､地域での生活継続が困難」をあげる家族等が多くなります。「将来､家族が不在となった場合に備えて」については、本人意向に関わらず、ほぼ同様の回答割合となっています。

図表 152 家族等が施設入所を希望する理由（複数回答）；本人の望む生活場所別

### 地域で暮らすための条件［問21］

本人が｢地域で暮らしたい｣と希望した場合の必要な条件としては、「家事」「介護」「薬・体調管理等」の割合が高くなっています。また、無回答の割合も高く、「条件を5つ以内で選ぶことは困難」という意見も多く見られました。手帳所持状況別で見ると次のとおりです。

＜身体手帳のみ所持者＞　①介護68%、②家事56%、③薬・体調管理等50%、

④夜間支援29%、⑤収入27%

＜療育手帳のみ所持者＞　①家事48%、②薬・体調管理等43%、③介護40%、

④金銭管理31%、⑤日中活動の場27%

＜複数手帳所持者＞　①介護54%、②家事46%、③薬・体調管理等45%、

④夜間支援27%、⑤金銭管理23％

図表 153 地域で暮らすための条件[N=220]（複数回答）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| (%) | 全体  [N=220] | 身体のみ  [N=34] | 療育のみ  [N=110] | 複数手帳  [N=56] |
| 料理･掃除･洗濯などの家事 | ①　47.7 | ②　55.9 | ①　48.2 | ②　46.4 |
| 食事･入浴･トイレなどの介護 | ②　47.3 | ①　67.6 | ③　40.0 | ①　53.6 |
| 経済基盤の確保（収入） | 15.9 | ⑤　26.5 | 11.8 | 17.9 |
| 金銭管理 | ④　24.5 | 17.6 | ④　30.9 | ⑤　23.2 |
| 仕事 | 5.0 | 2.9 | 5.5 | 5.4 |
| 日中活動の場 | ⑤　23.2 | 11.8 | ⑤　27.3 | 21.4 |
| 夜間の支援 | 22.7 | ④　29.4 | 20.9 | ④　26.8 |
| 家族の支援 | 15.9 | 14.7 | 15.5 | 17.9 |
| 近所づきあい | 2.7 | 0.0 | 2.7 | 1.8 |
| 相談相手 | 4.1 | 2.9 | 4.5 | 3.6 |
| 薬の管理･体調管理（通院含む） | ③　43.2 | ③　50.0 | ②　42.7 | ③　44.6 |
| 余暇活動 | 5.0 | 0.0 | 7.3 | 3.6 |
| 外出支援 | 16.4 | 8.8 | 18.2 | 14.3 |
| 災害･緊急時の対応 | 14.5 | 11.8 | 15.5 | 14.3 |
| 住まいの確保（グループホーム） | 20.5 | 14.7 | 24.5 | 17.9 |
| 住まいの確保（アパート･公営住宅） | 2.3 | 0.0 | 3.6 | 1.8 |
| 権利擁護システム（成年後見制度） | 5.5 | 2.9 | 7.3 | 5.4 |
| 地域住民の理解 | 5.9 | 0.0 | 9.1 | 3.6 |
| 公的保証人制度 | 2.3 | 0.0 | 3.6 | 0.0 |
| 本人の認識や理解 | 10.5 | 2.9 | 11.8 | 10.7 |
| その他 | 9.1 | 0.0 | 10.0 | 10.7 |
| 無回答 | 26.4 | 26.5 | 23.6 | 26.8 |

（※丸数字は上位5位）

障害支援区分別で見ると、以下のとおりとなっています。

|  |  |
| --- | --- |
| ＜区分１～３・未認定＞ | ①薬・体調管理等43%、②家事40%、③介護37%、  ④ＧＨ34%、⑤金銭管理31% |
| ＜区分４＞ | ①家事60%、②介護50%、③薬・体調管理等47%、  ④金銭管理40%、⑤外出支援33%、ＧＨ33% |
| ＜区分5＞ | ①家事58%、②介護53%、③薬・体調管理等50%、  ④金銭管理36%、⑤日中活動の場28% |
| ＜区分６＞ | ①介護49%、②家事46%、③薬・体調管理等39%、  ④夜間支援29%、⑤日中活動の場23%、家族支援23% |

「家事」「介護」「薬・体調管理等」は、区分に関わらず、上位となっています。また、区分が軽いと「ＧＨ」「金銭管理」などが比較的上位となり、区分が重いと「日中活動の場」「夜間支援」「家族支援」などが比較的上位になっています。

図表 154 地域で暮らすための条件（複数回答）；障害支援区分別

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| (%) | 全体  [N=220] | 区分1～3・未認定  [N=35] | 区分4  [N=30] | 区分5  [N=36] | 区分6  [N=70] |
| 料理･掃除･洗濯などの家事 | ①　47.7 | ②　40.0 | ①　60.0 | ①　58.3 | ②　45.7 |
| 食事･入浴･トイレなどの介護 | ②　47.3 | ③　37.1 | ②　50.0 | ②　52.8 | ①　48.6 |
| 経済基盤の確保（収入） | 15.9 | 20.0 | 16.7 | 16.7 | 11.4 |
| 金銭管理 | ④　24.5 | ⑤　31.4 | ④　40.0 | ④　36.1 | 15.7 |
| 仕事 | 5.0 | 11.4 | 3.3 | 2.8 | 4.3 |
| 日中活動の場 | ⑤　23.2 | 25.7 | 20.0 | ⑤　27.8 | ⑤　22.9 |
| 夜間の支援 | 22.7 | 17.1 | 23.3 | 22.2 | ④　28.6 |
| 家族の支援 | 15.9 | 17.1 | 16.7 | 5.6 | ⑤　22.9 |
| 近所づきあい | 2.7 | 8.6 | 3.3 | 0.0 | 0.0 |
| 相談相手 | 4.1 | 8.6 | 6.7 | 0.0 | 4.3 |
| 薬の管理･体調管理（通院含む） | ③　43.2 | ①　42.9 | ③　46.7 | ③　50.0 | ③　38.6 |
| 余暇活動 | 5.0 | 8.6 | 13.3 | 0.0 | 2.9 |
| 外出支援 | 16.4 | 17.1 | ⑤　33.3 | 11.1 | 11.4 |
| 災害･緊急時の対応 | 14.5 | 20.0 | 16.7 | 13.9 | 7.1 |
| 住まいの確保（グループホーム） | 20.5 | ④　34.3 | ⑤　33.3 | 19.4 | 11.4 |
| 住まいの確保（アパート･公営住宅） | 2.3 | 0.0 | 6.7 | 2.8 | 1.4 |
| 権利擁護システム（成年後見制度） | 5.5 | 8.6 | 6.7 | 2.8 | 4.3 |
| 地域住民の理解 | 5.9 | 14.3 | 3.3 | 2.8 | 4.3 |
| 公的保証人制度 | 2.3 | 5.7 | 6.7 | 0.0 | 0.0 |
| 本人の認識や理解 | 10.5 | 17.1 | 13.3 | 2.8 | 8.6 |
| その他 | 9.1 | 2.9 | 13.3 | 8.3 | 15.7 |
| 無回答 | 26.4 | 31.4 | 13.3 | 25.0 | 27.1 |

（※丸数字は上位5位）

本人の望む生活場所別で見ると、以下のとおりとなっています。

|  |  |
| --- | --- |
| ＜地域希望＞ | ①家事65%、②介護58%、③薬・体調管理等50%、  ④金銭管理39%、⑤夜間支援31% |
| ＜施設希望・不明＞ | ①家事44%、②介護40%、③薬・体調管理等36%、  ④金銭管理24%、⑤収入18%、ＧＨ18% |
| ＜聴取不可＞ | ①介護51%、②家事49%、③薬・体調管理等46%、  ④日中活動の場35%、⑤夜間支援28% |

「家事」「介護」「薬・体調管理等」は、本人意向に関わらず、上位となっています。

本人が「聴取可」（「地域希望」「施設希望・不明」）だと、「収入」「金銭管理」などが比較的上位となり、本人が「聴取不可」だと、「日中活動の場」などが比較的上位になっています。

図表 155 地域で暮らすための条件（複数回答）；本人の望む生活場所別

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| (%) | 全体  [N=220] | 地域希望  [N=26] | 施設希望・不明  [N=62] | 聴取不可  [N=115] |
| 料理･掃除･洗濯などの家事 | ①　47.7 | ①　65.4 | ①　43.5 | ②　48.7 |
| 食事･入浴･トイレなどの介護 | ②　47.3 | ②　57.7 | ②　40.3 | ①　51.3 |
| 経済基盤の確保（収入） | 15.9 | 26.9 | ⑤　17.7 | 13.0 |
| 金銭管理 | ④　24.5 | ④　38.5 | ④　24.2 | 23.5 |
| 仕事 | 5.0 | 3.8 | 4.8 | 5.2 |
| 日中活動の場 | ⑤　23.2 | 11.5 | 9.7 | ④　34.8 |
| 夜間の支援 | 22.7 | ⑤　30.8 | 12.9 | ⑤　27.8 |
| 家族の支援 | 15.9 | 11.5 | 8.1 | 22.6 |
| 近所づきあい | 2.7 | 0.0 | 0.0 | 4.3 |
| 相談相手 | 4.1 | 3.8 | 1.6 | 5.2 |
| 薬の管理･体調管理（通院含む） | ③　43.2 | ③　50.0 | ③　35.5 | ③　46.1 |
| 余暇活動 | 5.0 | 0.0 | 0.0 | 8.7 |
| 外出支援 | 16.4 | 19.2 | 9.7 | 19.1 |
| 災害･緊急時の対応 | 14.5 | 11.5 | 9.7 | 17.4 |
| 住まいの確保（グループホーム） | 20.5 | 23.1 | ⑤　17.7 | 22.6 |
| 住まいの確保（アパート･公営住宅） | 2.3 | 0.0 | 3.2 | 2.6 |
| 権利擁護システム（成年後見制度） | 5.5 | 7.7 | 3.2 | 7.0 |
| 地域住民の理解 | 5.9 | 0.0 | 0.0 | 10.4 |
| 公的保証人制度 | 2.3 | 3.8 | 1.6 | 2.6 |
| 本人の認識や理解 | 10.5 | 7.7 | 8.1 | 13.0 |
| その他 | 9.1 | 0.0 | 11.3 | 10.4 |
| 無回答 | 26.4 | 15.4 | 35.5 | 20.9 |

（※丸数字は上位5位）

### 本人の将来について［問22］

本人の将来については、「入所施設での生活を希望する」がほぼ7割を占めています。

一方、「地域で安心・安全な暮らしが保障されるならば、アパートやＧＨ等／自宅生活を希望」「本人が自分自身で暮らせる力がついたら、地域での暮らしを希望」をあわせると、2割弱の家族等が、条件が整えば地域での生活を希望しています。

手帳所持状況別で見ると、次のとおりです。

＜身体手帳のみ所持者＞　入所施設を希望50%、条件付きで地域生活を希望24%

＜療育手帳のみ所持者＞　入所施設を希望75%、条件付きで地域生活を希望14%

＜複数手帳所持者＞　入所施設を希望71%、条件付きで地域生活を希望16%

図表 156 本人の将来について

本人の性別で見ると、男性の方が、条件付きで地域生活を希望する家族等の割合が高くなっています。

図表 157 本人の将来について；本人の性別

本人の年齢別で見ると、本人が「29歳以下」および「50歳以上」で、条件付きで地域生活を希望する家族等の割合が比較的高くなっています。

図表 158 本人の将来について；本人の年齢別

障害支援区分別で見ると、次のとおりです。

図表 159 本人の将来について；障害支援区分別

本人の望む生活場所別で見ると、本人が「地域希望」の場合、条件が整えば地域での生活を希望する家族等は4割強、入所施設を希望する家族等は3割強となり、条件付きでの地域生活希望が多くなっています。一方、本人が「施設希望・不明」「聴取不可」の場合、入所施設での生活を希望する家族等が7割超となっています。

図表 160 本人の将来について；本人の望む生活場所別

家族等回答者の年代別で見ると、60代以上だと入所施設を希望する家族等が約８割を占めます。

図表 161 本人の将来について；家族等回答者の年代別

世帯別で見ると、親のみの世帯（「両親」「ひとり親」）では入所施設を希望する家族等の割合が高くなっています。

図表 162 本人の将来について；世帯別

### 自由意見

自由意見については、103件の回答がありました。意見内容としては、早く入所させてほしい、介護者に何かあったときに入所を希望する、入所先を早く見つけて安心させてほしいといった、入所希望に関する意見が34件と最も多くなっています。また、ショートステイ、デイサービス、ホームヘルプなどのサービスの充実、グループホーム等の整備、重度障がい者でも地域で生活できるように基盤を充実してほしいといった、サービス基盤等の充実に関する意見も26件ありました。その他、入所施設の必要性や整備を訴える意見（18件）、将来の不安や重度障がい者をかかえての介護負担を訴える意見（17件）なども多くなっています。

図表 163 自由意見の内容

|  |  |
| --- | --- |
| 意見分類 | 件数 |
| 入所希望に関する意見 | 34 |
| サービス基盤等の充実に関する意見 | 26 |
| 入所施設の必要性や整備を訴える意見 | 18 |
| 将来の不安や介護の大変さなどを訴える意見 | 17 |
| その他 | 8 |
| 合計 | 103 |

■自由意見（抜粋）

◇家族の負担について

|  |
| --- |
| 男性障害者の母です。重い障害を持ち言葉はなく多動的でよく動きますが、身体的にも足の外反、側わんなどのハンディもあります。精神的にも不安定だったり自傷、睡眠障害が出たりでこちらも長く今もなお、○○の先生にかかっています。片方でショートステイ、日中一時支援、ヘルパー利用、生活介護通所、自立生活体験室などで多くの助けをお借りして日々忙しく動いています。本人は次男ですが長男はアスペルガー症候群でこちらも在宅で大変扱いにくく苦労しながら日々を過ごしています。私（母）の生涯はすべてこの息子達にささげて来たと言っても過言ではないと思います。いろいろありがたい出会いや嬉しい出会いもあり2人ともよい支援者の方々に恵まれてきたとは思います。しかし、私の人生、せめて50歳以降は第2の人生として少し自分を大切に生きたかったのです。○○の先生にも勧められて入所申込をしたのが、もう6年くらい前になるのか？と思います。私はもう55歳になってしまいました。40代の頃は車の運転ももっと平気でした。○○、△△、□□の定期検診、通所地への遅刻、早退で送迎したり日中一時支援で●●、▲▲、■■への送迎で今も年間20,000km以上走らねばなりません。本人は多動的で、家でも施設でも眠ってしまうまではマンツーマン方式で付かねばならない。危険察知もできません。大変な部分ばかりを書きましたが、先生も言われますように「彼には彼なりの適応能力がある」と思える息子です。おだやかで、どこへ行くのも嫌がらず忙しい日々をしなやかに生きています。ただ、ここまで休まず本当に自分でも元気なうちに本人の様子を外からながめていろいろ意見も言ったりして、幸せに過ごすところを見て安心したいのです。いきなり、プツンと離れるより余力があるうちに本人が最良の暮らしを与え、また修正が必要なら見直し、入所をしても、こまめに訪問をし、見守りたいと思う母なのです。 |
| 今まで2回入所の話がありましたが、家族の反対で流れてしまいました。これから余程の事がない限りまわってこないと思います。父親などは、母親がみるのが当然と思っているみたいです。私自身も今まで子供の為と自分の事より最優先してきましたがこの先どうなるのかすごく不安です。今、平日は何とか通所できる所がありますが時間的な事、経済的な事で通所のあとヘルパーを頼もうかと思っていますが、これも父親に反対されました。答えはやはり「母親が見ろ」「家の中に入られるのは」と。障害を持っている子供がいる家は、少しでも状況を町や県の方に知ってもらっている方が私はいいと思うし何もかも母親が世話しなくてはというのもおかしいと思います。障害を持っている母親は何もかも我慢して障害の子を生んだと負い目を背負って生きていかなければいけないのでしょうか？ |
| 感情コントロールが不能になると本人もこちらもみさかいなく力対力の攻防となってしまいます。毎日のことに疲れてくるとこの子を道連れにと思うことも少なくないです。月1回のショートステイは本人にとって心地いいものらしく帰宅するたび親として情けなくなってしまいます。家庭が一番ではなくなってしまっているということに反省する母であります。 |
| 徘徊が治らない。ちょっと目を離すとふらっと出ていきます。探すのは大変。日々疲れます。 |
| 母親が病気で介護放棄しています。弟夫婦でめんどうみているが、なにかあった時のことを考えると心配です。子供たちにまで負担をかけることまではしたくないと考えます。 |
| 障害児や障害者のいる家庭では健常者には想像できないであろう不安や苦痛があります。話のできない子の健康は人一倍気を使い一日が過ぎると今日も何とか無事に過ぎたと安ど感があります。 |

◇入所希望、入所待機について

|  |
| --- |
| 入所を希望しているが、施設の中でのリハビリや活動で積極的にしてくれたり入浴も週に1～2回ではなく回数の多い施設を希望している。個室にはいったらほったらかしではなく声かけをしている施設を希望している。 |
| 入所していても施設内だけの生活でなく、作業所等地域での生活もしながら入所できることを希望。施設は、安全、安心とメリットはありますが外部での体験、地域での交流等全くできないわけではありませんが職員の人の人数等できることに限りある為、本人の生活の幅が狭くなってしまうことが悩みです。経営の問題等あることも承知していますが、本人にとってという部分を最優先に考えていただけること希望致します。 |
| 施設を増やして、入りやすいようにしてほしい。 |
| 父親である私が元気な間は今の生活を続けたいし除々に外泊の体験をして入所施設の生活を希望したい。但し、本人の暮らせる力がついたら気の合う仲間と協同生活が出来たらいいなあと思っています。（地域での暮らしは希望しない。障害者への理解がまったくなく、犬・猫のような扱いを受けかなしい思いをしています。一部の夫婦ですが） |
| 将来入所施設で生活するであろうことは説明すれば理解すると思うが、それを知ったことで悩むと思うので今はまだ話していないです。 |
| 本人は嫌がっているみたいですが、親が元気な時に決めて安心させたいと思っています。 |
| 本人は、今の生活がずっと続くと思っているので両親が亡くなった時せめても、いつも利用している（ＳＳ）入所施設へ入所出来る事を望んでいます。 |
| 入所を希望していますが、なかなか入所できません。その間にだんだん心配することが多くなり親の手におえなくなっています。親自身が身体障害1級をもっていますので、いつどの様になるか彼の世話をすることがだんだんできなくなっています。子供が障害を持って生まれて来たことにとても気になりあまやかして育ててきたため自立ができず私から捨てられるという不安がとても高くて困っています。母子家庭で他に身内もおらず助けてくれる人もいません。どうすれば良いのか毎日不安の日々です。 |
| 入所施設で他の方との生活が本人の障害により困難であり、入所受け入れ頂く施設を探すことが厳しい状況にあります。介護者もおらず、今後の本人、家族の生活に大変不安を感じます。 |
| 本人も55歳になり、親は78歳です。支援施設はいっぱい順番待ちで今日まで来ました。なので、支援施設はもうあきらめました。私（母親）がやれるだけ2人でがんばって生きて行こうと思いますが、私が何も出来ないようになった時には、2人で入れる老人ホームをお願いしたいと考えています。 |
| なかなか入所が決まらなくて困っています。障害の重い人が入所が決まりません。変だと思います。 |
| 施設入所申請をしてから5年以上経過しますが待機者が多いことや入所順位等により入所がなかなかできません。いつになったら入所できるか情報もなく不安でいっぱいです。 |
| 入所待機期間を待つのが長すぎるので困ります（パニックがあるため） |

◇重度障がいについて

|  |
| --- |
| 来年4月、20歳になったので児童障害者施設を出なければなりません。成人障害者施設は待機待ちです。障害が重いので地域もとても無理です。家での生活になりますが、とても厳しいです。命がけで生活する覚悟はしましたが助けてほしいです。 |
| 両親に何かあった時の不安が大きい。重度の身体、知的障害の娘なのでたとえ施設入所をしても安心した生活が送れるか、又、将来後見人についても頼める親族がいない。（娘の障害が重度すぎる） |
| 現在、入所中（1年更新）毎年退所をよぎなくされるのではないかと不安です。退所になった場合作業所などを利用して自立を目指せる事ができない重度障害です。両親亡き後妹1人に面倒をみてほしいと頼んではいますが、妹も自分の事で精いっぱいの様子。できる事なら親と共に死んでくれるか親より先に死んでほしいと願うばかりです。先日も近所の方に「障害者がいてはずかしいでしょう」と言われました。地元で暮らすむつかしさを感じています。 |
| ①息子は身体障害1級と自閉症を重複しているので、自宅やグループホームでの生活は無理だと思います。それに他に兄弟がなく1人っ子なので、入所施設での生活を希望します。②何度か県のアンケートに答えていますが、アンケートが、とって終わりになっているように思います。当事者、家族の声次期「みえ障害者共生社会づくりプラン」に取り入れて頂きたいと思いますので、宜しくお願いします。 |
| 重度の障害（パニック・強いこだわり、自傷、他害）があれば入院施設しかないのが現状です。ヘルパーなども断られることが多く大変なのです。 |
| 一日でも長く自宅からデイサービス、ショートステイ、その他サービスを利用しながら生活したいと切に願っています。しかし、最重度の障害があり健康でも心配がつきないので両親がなき（亡き）後は入所施設しか今のところありません。 |
| 今後、国としては入所施設の整備を進めない方針でいると聞いています。かといって地域グループホームでの整備も進んでいるとは思えません。特に知的に障害が重く他害行為やその他問題行動がある人は地域で生きていくことは不可能と考えます。両親が健在で子どもの世話をできるうちはまだ何とか自宅で生活できますが、夫を急に亡くし母親１人だけでこの先、家で子供を見ていくことに不安と限界を感じています。早急に入所できる施設を見つけて施設入所へ移行できることを希望します。 |
| 本人の障害の程度から見て親なきあと施設での生活を望んでいます。しかしながら、施設を今後作らないという国の方針であるのなら、重度の障害者（グループホームでの生活は困難）は、どうすればよいのかとても心配になります。三重県としてのビジョンを打ち出してほしいと考えています。（県が単独で入所施設への補助を強化していただきたい。）（また、グループホームでも生活できるようグループホームへの補助（特に人材）を強化して頂きたい） |
| 障害者自立支援法に代表されますように、ここ近年、障害者を施設から地域（自宅等）へが合言葉になっています。このこと自体を否定するものではありませんが、私の子供を含め、私の周りの仲間は最重度の肢体不自由者で意思の疎通も言語もない者ばかりです。全て親（保護者）が全面介護と代弁をしています。「地域で」「自立を」は全く他人ごとです。子供たちは最後は施設にお世話になるしか方法がありません。このような最重度（全面介助・意思疎通不可）の障害者の絶対数は多くはないですが、世間の皆さんが思うほど少なくないのです。大勢いるのです。私達は支援法に逆行していろいろな施設を充実して欲しいと市・県・国に要望しています。行政の福祉担当で最前線で頑張っておられる皆さまに是非お願いしたいのは、「障害者」がややもすると、下半身障害で車椅子を使用した「就労」や「結婚」「スポーツ振興」等を声を大にして訴える方の方向に向かっていないだろうかという点です。どんな施策も突き詰めると最下位の立場で見つめると、そこからおのずと方向や社会の問題点が見えてくると思います。今後も是非、障害者（肢体不自由）問題でも、最重度の何も出来ない（意思もない、言語もない、全介助）障害者の事をいつも片隅に気にかけて頂きたいとお願い致します。 |

◇グループホーム、ショートステイ、その他支援など

|  |
| --- |
| ○○作業所、日中一時支援とあり役場の福祉課の方も皆、親切で親身に考えて下さり本当によくして頂いており感謝しております。ただ、将来の事を思うと心配で不安でいっぱいになります。地域にケアホーム（グループホーム）がないのです。もちろん入所施設もありません。出来れば親も年を取ってからでも少しお手伝い（部屋の掃除等）してあげたいですし、もっと年を取れば顔だけでも見に行きたいと願っております。是非ともケアホームができるようご助言願えませんでしょうか。 |
| 現在は自宅から通所施設に通っていますが親の高齢化に伴い、介護や支援が難しくなることは自明です。今の施設の中、または近くに充分な支援が得られるグループホームかケアホーム（少人数単位）への入所を希望します。（入所は以前10年位の経験があり、あまり好んでいない為） |
| 今回のアンケートはほぼ3年待機状態が続いている所へ送られてきました。今さらという思いが非常に強いです。現在入所されている方々の中ではグループホームをもっと作るべきではないでしょうか？（同敷地内でもＯＫにすべきです。）ちなみに愛知県では区分6の方でもグループホームにいる所がありここは同敷地内にグループホームはありませんが、入所施設の指導員が出入りしグループホームの職員と協力して障害者の支援を行っています。こういう場所を見学して頂いて三重県ももっと障害福祉に力を入れて頂きたいです。 |
| 本人は最重度の知的障害者で自分の名前も書くことができません。また、生活のリズムも整っておらず昼夜逆転に近い様な日もあります。施設がなかなか、入所できない場合、地域で生活する事になるかと思いますが、その様な時には問21については○は5つでは済まないと思います。これまでは、ずっと自宅で生活し学校へ通っておりましたので本人には施設ではなく、地域でグループホーム等を利用することができればなじみやすいのかなと思っています。 |
| 重い知的障害者が（特に土日）ショートステイできる施設が少ないです。春夏冬休み等は学生優先なので平日も取りにくくまた、安心してお願いできる施設も少ないように思います。ショートステイの受け入れさえもっと充実すれば本人も家族も安心して生活でき、入所を考える事態が少なくなります。学生と成人のショートステイを別々にすることが望ましいと思います。 |
| 仮に入所施設に入ると週5日程度、短期入所なら月7日程度と利用条件が極端です。私（家族）の希望としては、週3～4日（例えば月～水）入所施設に入ることができれば仕事の方や子育ての方にも力が注げますので理想です。（入所施設に入れるのは本人に対してかわいそうだし短期入所では家族の介護負担が大きいのでその中間があればうれしいです） |
| 現在ショートステイの日数を10日間認められているもののフル活用はできない状態です。ショートステイ日数を増加させていただくと同時にフル活用をできる状態にして頂きたい。 |
| 土日は預けられるけど長い休み（ゴールデンウィーク、盆正月）などの時に急に預けたい場合に預けられる所があると助かります。 |
| 利用者が多く、デイサービスの利用日も増えない、ショートも進まない。困っています。 |
| ヘルパーを利用していますが、利用したい時間に利用できない。（早朝、夕方以降、土日祭日など）ヘルパーの時間に制限がある。 |
| 夜の吸痰をやってくれる所がない。 |
| 鈴鹿病院、三重病院の他にも医療体制が充実した病院があるとよいと思います。Ｄｒの人数も多いとよいのですが、足りないようです。 |
| 両親と一緒に地域で快適に過ごさせてあげたいと願っています。主人と息子の2人を1人で介護するのは家族の介護力の低下など毎年すこしずつ大変になってきます。地域での家事、身体、通院、外出などの介護と家族支援があれば、地域での生活が可能になってくるのだと考えています。 |
| 地域で暮らすために必要な条件、問21の中で5つまでとありますが、それだけの問題ではないと思います。地域で暮らしていくために一生涯に渡り本人や家族を支える体制が不可欠と思います。特に問題行動などと言われる方達への理解のなさはまだまだだと思います。 |
| 認知症の母との生活は限界にきています。ただ、本人に施設入所について説明することや理解することも困難なため今に至っています。家は持ち家ですので、できれば母なき後もそのまま家で生活させてあげたいですがかなりの支援が必要です。 |
| 現在、○○作業所に通所していますが将来をどうするか日々悩んでいます。1ｹ月に1度ショートステイを利用して入所施設でスムーズに親と生活できなくなった時に移行できるよう練習をかさねています。地域での生活を根本的に希望していますが、本人の障害の状態などを考えて安心、安全な暮らしができていけると思えるような何もありません。△△地区の相当数の障害の方が将来どんな生活ができていけるのか「地域での生活」とうたわれる前に具体的な計画など示して欲しい。親は高齢化しています。声だけでも顔だけでも見せて下さい。安心します。 |
| 妹や弟が近くにいない。私たちの事を考えると将来は、今通所している先生方や友達のなれている所がいいのではないかと思います。私、68歳（母）できるだけ息子と暮らしたいと思います。本人が、自分の事日常生活が独りでできないので私が元気なうちは、いろいろお世話をしたいと思います。反面、施設になれるように早く預けたらいいのか？今はできる所まで世話をしたいと思っております。 |
| 台風や地震の時に早く助けて欲しい。 |
| 通所の施設も少なく選ぶこともできず、将来の不安ばかりで障害の子供を持った親は将来の安心の為があれば、親も心配なく子育てもできると思いますが施設も少なく入所の高齢者も老人施設にも移すことが少ない現実。介護保険があるので障害の方も高齢になれば、普通の老人とほとんど変わりがない介護で生活できる人達もいるのでもう少し前向きに考えていかないと障害者はこの先どうなるのか、毎日が不安です。 |
| 県や国はもっと現状を見て頂きたい（施設に入れない為に仕方なく現在は精神病院に入ってもらっています） |
| 娘の長年精神科入退院による家族とのトラブル、そして身体障害者となって、病院、訓練施設等にお世話になりましたが、どこも短期に至っています。主人も病気で入退院を繰り返しです。とても、娘を家で介護する精神的余裕もありません。無責任な親と思われるでしょうが、私達も高齢になりやはり娘を安心して生活できる施設を行政のお力で入所を一日も早くお願い致します。 |
| 現在4週に1度、精神病院に通院投薬を受けています。時々精神的にパニック症状を起こし近所に向かって暴言を吐いたりします。入院を希望するが地域生活が基本とのことで入院も認められていません。近所の方々に迷惑をかけ心苦しい思いで一杯です。 |

## 入所待機者の状態区分

本人および家族等の意向について、①将来の生活について ②現時点での入所希望 の2点から状態区分を整理しました。

### 将来の生活について

本人の「将来生活したい場所」の意向と、家族等の「本人の将来について」の意向により、入所待機者の状態を以下のように区分しました。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 問7　アンケート回答状況 | 回答可・聴取可 | | | | 聴取不可 |
| 問10　将来生活したい場所（本人の意向）  問22　本人の将来について（家族等の意向） | 今いるところでの生活が良い | 別の場所での生活が良い（入所施設以外） | 入所施設での生活が良い | わからない |
| 地域で安心･安全な暮らしが保障されるならば、アパートやグループホーム等での生活を希望する | Ａ | | Ｃ | | Ｅ |
| 地域で安心･安全な暮らしが保障されるならば、自宅での生活を希望する |
| 本人が、自分自身で暮らせる力がついたら（介助等サービスの利用も含む）、地域での暮らしを希望する |
| 入所施設での生活を希望する | Ｂ | | Ｄ | | |
| わからない |

　※問10で「今いるところでの生活が良い」と回答したケースは全て、「現在の住まい」は入所施設・病院以外であった。

この区分によると、以下のようになります（区分不能分を除いた集計）。

Ｄ区分が8割近くを占め、Ａ区分は1割未満です。Ｅ区分も約1割となっています。

また、本人と家族の意向が異なる状態区分（Ｂ区分、C区分）が占める割合は1割未満と低くなっています。

|  |  |
| --- | --- |
| Ａ（本人、家族等いずれも地域生活を志向）  Ｂ（本人は地域生活、家族等は施設入所（不明含む）を志向）  Ｃ（本人は施設入所（不明含む）、家族等は地域生活を志向）  Ｄ（本人、家族等いずれも施設入所（聴取不可・不明含む）を志向）  Ｅ（本人は聴取不可、家族等は地域生活を志向）  　 計 | ：　 6.1%（N=11）  ：　 5.0%（N=9）  ：　 1.7%（N=3）  ：　77.8%（N=140）  ：　 9.4%（N=17）  ：　100%（N=180） |

図表 164 市町別人数

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 市町名 | Ａ | Ｂ | Ｃ | Ｄ | Ｅ | 計 |
| 津市 | 1 | 0 | 1 | 22 | 3 | 27 |
| 四日市市 | 2 | 2 | 0 | 27 | 2 | 33 |
| 伊勢市 | 1 | 1 | 0 | 14 | 0 | 16 |
| 松阪市 | 1 | 1 | 1 | 6 | 2 | 11 |
| 桑名市 | 1 | 2 | 0 | 11 | 1 | 15 |
| 鈴鹿市 | 1 | 2 | 1 | 22 | 3 | 29 |
| 名張市 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 4 |
| 尾鷲市 | 1 | 0 | 0 | 4 | 1 | 6 |
| 亀山市 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 鳥羽市 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 3 |
| 熊野市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| いなべ市 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 4 |
| 志摩市 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 4 |
| 伊賀市 | 3 | 0 | 0 | 5 | 1 | 9 |
| 木曽岬町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 東員町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 菰野町 | 0 | 0 | 0 | 6 | 0 | 6 |
| 朝日町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 川越町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 多気町 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 明和町 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 大台町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 玉城町 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 度会町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 大紀町 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 南伊勢町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 紀北町 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 3 |
| 御浜町 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 紀宝町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 県外 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |

本人の性別で見ると、女性でＡ区分、Ｄ区分の割合が比較的高くなり、Ｅ区分の割合が比較的低くなっています。

図表 165 入所待機者の状態区分；本人の性別

本人の年齢別で見ると、50歳以上ではＡ区分、Ｂ区分の割合が比較的高くなります。また、29歳以下でもＡ～Ｃ区分の割合が比較的高くなっています。

図表 166 入所待機者の状態区分；本人の年齢別

Ａ：本人、家族等いずれも地域生活を志向

Ｂ：本人は地域生活、家族等は施設入所（不明含む）を志向

Ｃ：本人は施設入所（不明含む）、家族等は地域生活を志向

Ｄ：本人、家族等いずれも施設入所（聴取不可・不明含む）を志向

Ｅ：本人は聴取不可、家族等は地域生活を志向

手帳所持状況別で見ると、身体手帳のみ所持者ではＡ区分、Ｂ区分の割合が高くなっています。

図表 167 入所待機者の状態区分；手帳所持状況別

障害支援区分別で見ると、区分1～3・未認定ではＡ区分の割合が比較的高くなります。また、区分5ではＥ区分の割合が高くなっています。

図表 168 入所待機者の状態区分；障害支援区分別

Ａ：本人、家族等いずれも地域生活を志向

Ｂ：本人は地域生活、家族等は施設入所（不明含む）を志向

Ｃ：本人は施設入所（不明含む）、家族等は地域生活を志向

Ｄ：本人、家族等いずれも施設入所（聴取不可・不明含む）を志向

Ｅ：本人は聴取不可、家族等は地域生活を志向

現在の住まい別で見ると、自宅以外の場合はＤ区分の割合が高くなります。

図表 169 入所待機者の状態区分；現在の住まい別

家族等回答者の年代別で見ると、40代以下でＡ区分の割合が比較的高くなります。また、50代ではＥ区分の割合が高くなっています。

図表 170 入所待機者の状態区分；家族等回答者の年代別

Ａ：本人、家族等いずれも地域生活を志向

Ｂ：本人は地域生活、家族等は施設入所（不明含む）を志向

Ｃ：本人は施設入所（不明含む）、家族等は地域生活を志向

Ｄ：本人、家族等いずれも施設入所（聴取不可・不明含む）を志向

Ｅ：本人は聴取不可、家族等は地域生活を志向

世帯別で見ると、兄弟姉妹のいる世帯でＡ区分の割合が高くなる傾向です。

図表 171 入所待機者の状態区分；世帯別

Ａ：本人、家族等いずれも地域生活を志向

Ｂ：本人は地域生活、家族等は施設入所（不明含む）を志向

Ｃ：本人は施設入所（不明含む）、家族等は地域生活を志向

Ｄ：本人、家族等いずれも施設入所（聴取不可・不明含む）を志向

Ｅ：本人は聴取不可、家族等は地域生活を志向

### 現時点での入所希望

本人の「現時点での入所希望」と、家族等の「現時点での入所希望」により、入所待機者の状態を以下のように区分しました。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 問7　アンケート回答状況 | 回答可・聴取可 | | | 聴取不可 |
| 問9　現時点での入所希望（本人の意向）  問19　現時点での入所希望（家族等の意向） | 入所を希望しない | 自分の身体状況や、家族の支援状況等に変化があった場合、入所を希望 | 入所を希望 |
| 入所を希望しない | Ａ’ | | Ｃ’ | Ｅ’ |
| 本人の身体状況や、家族の支援状況等に変化があった場合、入所を希望 |
| 入所を希望 | Ｂ’ | | Ｄ’ | |

この区分によると、以下のようになります（区分不能分を除いた集計）。

Ｄ’区分が約6割、Ａ’区分が2割弱を占める一方、Ｅ’区分も約2割となっています。

また、本人と家族の意向が異なる状態区分（B’区分、C’区分）が占める割合はごくわずかとなっています。

|  |  |
| --- | --- |
| Ａ’（本人、家族等いずれも現時点の入所希望なし）  Ｂ’（本人は現時点の入所希望なし、家族等は入所希望あり）  Ｃ’（本人は現時点の入所希望あり、家族等は入所希望なし）  Ｄ’（本人、家族等いずれも現時点の入所希望あり（聴取不可を含む））  Ｅ’（本人は聴取不可、家族等は現時点の入所希望なし）  　 計 | ：　17.1%（N=32）  ：　 0.5%（N=1）  ：　 1.1%（N=2）  ：　59.4%（N=111）  ：　21.9%（N=41）  ：　100%（N=187） |

図表 172 市町別人数

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 市町名 | Ａ’ | Ｂ’ | Ｃ’ | Ｄ’ | Ｅ’ | 計 |
| 津市 | 4 | 0 | 0 | 20 | 4 | 28 |
| 四日市市 | 4 | 1 | 0 | 21 | 8 | 34 |
| 伊勢市 | 3 | 0 | 0 | 9 | 4 | 16 |
| 松阪市 | 5 | 0 | 0 | 5 | 1 | 11 |
| 桑名市 | 3 | 0 | 0 | 9 | 2 | 14 |
| 鈴鹿市 | 6 | 0 | 0 | 18 | 6 | 30 |
| 名張市 | 0 | 0 | 0 | 3 | 2 | 5 |
| 尾鷲市 | 0 | 0 | 1 | 4 | 1 | 6 |
| 亀山市 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 鳥羽市 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 3 |
| 熊野市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| いなべ市 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 4 |
| 志摩市 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 4 |
| 伊賀市 | 4 | 0 | 1 | 2 | 4 | 11 |
| 木曽岬町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 東員町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 菰野町 | 1 | 0 | 0 | 4 | 1 | 6 |
| 朝日町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 川越町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 多気町 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 明和町 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 大台町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 玉城町 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 度会町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 大紀町 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 南伊勢町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 紀北町 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 3 |
| 御浜町 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 紀宝町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 県外 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |

本人の性別で見ると、女性でＡ’区分の割合が比較的高くなっています。

図表 173 入所待機者の状態区分（現時点）；本人の性別

本人の年齢別で見ると、年齢が若いほどＤ’区分の割合が高くなり、高齢になるほどＡ’区分の割合が高くなります。

図表 174 入所待機者の状態区分（現時点）；本人の年齢別

Ａ’：本人、家族等いずれも現時点の入所希望なし

Ｂ’：本人は現時点の入所希望なし、家族等は入所希望あり

Ｃ’：本人は現時点の入所希望あり、家族等は入所希望なし

Ｄ’：本人、家族等いずれも現時点の入所希望あり（聴取不可を含む）

Ｅ’：本人は聴取不可、家族等は現時点の入所希望なし

手帳所持状況別で見ると、身体手帳のみ所持者でＡ’区分の割合が高くなっています。

図表 175 入所待機者の状態区分（現時点）；手帳所持状況別

障害支援区分別で見ると、区分4でＡ’区分の割合が比較的高くなっています。

図表 176 入所待機者の状態区分（現時点）；障害支援区分別

Ａ’：本人、家族等いずれも現時点の入所希望なし

Ｂ’：本人は現時点の入所希望なし、家族等は入所希望あり

Ｃ’：本人は現時点の入所希望あり、家族等は入所希望なし

Ｄ’：本人、家族等いずれも現時点の入所希望あり（聴取不可を含む）

Ｅ’：本人は聴取不可、家族等は現時点の入所希望なし

現在の住まい別で見ると、自宅以外の場合はＤ’区分の割合が高くなります。

図表 177 入所待機者の状態区分（現時点）；現在の住まい別

家族等回答者の年代別で見ると、50代でＡ’区分の割合が低くなっています。

図表 178 入所待機者の状態区分（現時点）；家族等回答者の年代別

Ａ’：本人、家族等いずれも現時点の入所希望なし

Ｂ’：本人は現時点の入所希望なし、家族等は入所希望あり

Ｃ’：本人は現時点の入所希望あり、家族等は入所希望なし

Ｄ’：本人、家族等いずれも現時点の入所希望あり（聴取不可を含む）

Ｅ’：本人は聴取不可、家族等は現時点の入所希望なし

世帯別で見ると、「両親」世帯ではＡ’区分の割合が比較的高く、「ひとり親」世帯ではＤ’区分の割合が比較的高くなっています。

図表 179 入所待機者の状態区分（現時点）；世帯別

Ａ’：本人、家族等いずれも現時点の入所希望なし

Ｂ’：本人は現時点の入所希望なし、家族等は入所希望あり

Ｃ’：本人は現時点の入所希望あり、家族等は入所希望なし

Ｄ’：本人、家族等いずれも現時点の入所希望あり（聴取不可を含む）

Ｅ’：本人は聴取不可、家族等は現時点の入所希望なし

# 障害者支援施設入所者家族意向調査の結果（調査票様式4）

### 施設区分

入所施設の区分については、旧知的障害者施設が約7割、旧身体障害者施設が約3割となっています。

図表 180 施設区分[N=1,250]

### 回答者の年代・続柄［問1］

回答した入所者家族の年代は、60代と70代がほぼ3割ずつを占め、次いで50代が約2割となっています。60代以上が7割近くを占めます。

図表 181 回答者の年代

回答者の施設入所者との続柄は、兄弟姉妹が最も多く4割弱、次いで母親が約3割、父親が1割強となっています。旧身体施設では、兄弟姉妹の割合が高くなっています。

図表 182 回答者の続柄

### 本人の出身世帯の家族構成［問2］

本人の出身世帯の家族構成を聞いたところ、母親と兄弟姉妹がそれぞれ半数以上、父親は4割弱となっています。なお、「その他」では、「身寄りなし」という回答も見られました。

図表 183 本人の出身世帯の家族構成（複数回答）

家族構成から世帯を類型化したところ、親のみの世帯（「両親」「ひとり親」）、親と兄弟姉妹の世帯（「両親と兄弟姉妹」「ひとり親と兄弟姉妹」）、兄弟姉妹のみの世帯がそれぞれ1/4ずつという構成です。旧身体施設では、兄弟姉妹のみの世帯割合が高くなっています。

図表 184 世帯類型

### ｢地域移行支援｣｢地域定着支援｣サービスの認知［問3］

「地域移行支援｣｢地域定着支援｣のサービスについては、「知らない」が約６割、「知っている」が約4割となっています。

図表 185 ｢地域移行支援｣｢地域定着支援｣の認知

### 地域で暮らすための条件［問4］

入所者本人が｢地域で暮らしたい｣と希望した場合の条件について聞いたところ、「介護」「家事」「薬・体調管理等」などが高い割合になっています。なお、「その他」では、「条件を５つ以内で選ぶことは困難」「条件が全てそろっても地域生活は困難」といった意見も見られました。

図表 186 地域で暮らすための条件（複数回答）

本人の将来についての質問（次ページの問５）において、入所施設を希望する家族と、条件付きで地域生活を希望する家族とに区分し、本問の回答状況を見たところ、地域生活を希望する家族では、「日中活動の場」「グループホーム」「外出支援」「家族支援」などが条件として多くあがっています。

図表 187 地域で暮らすための条件（複数回答）；家族の望む本人将来別

### 本人の将来について［問5］

本人の将来については、「今の入所施設での生活を希望する」がほとんどを占めています。

図表 188 本人の将来について

「今の入所施設／別の入所施設での生活を希望」という回答を「入所施設希望」、「地域で安心･安全な暮らしが保障されるならば、アパートやＧＨ等／自宅生活を希望」または「本人自身で暮らせる力がついたら、地域での暮らしを希望」という回答を「地域生活希望」と区分すると、「入所施設希望」がほぼ9割、「地域生活希望」は約4％となります（「わからない」「その他」は無回答に加算）。

図表 189 本人の将来についての希望の区分

本人の将来について、回答した入所者家族の年代別で見ると、「地域生活希望」の割合は50代でやや高くなり、出身世帯別で見ると、「その他の世帯」で「地域生活希望」の割合がやや高くなっています。

図表 190 本人の将来について；回答者年代別

図表 191 本人の将来について；出身世帯別

### 自由意見

自由意見については、379件の回答がありました。意見内容としては、現在入所している施設にこれからも入所し続けたい、施設に満足している、感謝しているという意見が171件と最も多くなっています。一方、職員の増員やケア体制の充実など施設に対する要望も57件ありました。また、入所者が地域移行・地域生活をすることは難しい、不可能であるという意見（33件）、入所施設が必要、充実すべきという意見（30件）なども多くなっています。

図表 192 自由意見の内容

|  |  |
| --- | --- |
| 意見分類 | 件数 |
| 入所継続の希望、施設への満足、感謝に関する意見 | 171 |
| 施設への要望に関する意見 | 57 |
| 地域移行・地域生活の難しさ、不可能性を訴える意見 | 33 |
| 入所施設の必要性を訴える意見 | 30 |
| 地域生活における支援サービスや制度の充実に関する意見 | 29 |
| 将来の不安や生活の苦しさなどを訴える意見 | 28 |
| 行政に対する意見 | 16 |
| その他 | 15 |
| 合計 | 379 |

■自由意見（抜粋）

◇高齢化、病気時への対応

|  |
| --- |
| 本人が高齢になった時の老人ホームへの移行。本人が病気になった時の病院への移行、そして治った後の帰る場所（戻る場所）がスムーズに連係されていることを望みます。（最重度のため全ての支援が必要になってきます） |
| 最近、誤嚥性肺炎をおこし入院させて頂きましたが、後々何かとお世話をかけています。体調が安定するまで病院にとは勝手な願いでしょうか？重い障害児者でも安心して回復が出来るように見守って頂ける病院はと願うのは無理なお願いと思いつつつぶやいてしまいました。 |
| 長期入院をしなくてはならない時、例えばてんかんのクスリのコントロール等納得できるまで施設の席を確保しておいてほしい。 |
| 今、入所している所も介護が必要な方も多くなりお風呂も一ヶ所で男女交代で指導員の方もたいへんそうです。お風呂くらいゆっくり入らせてやってほしいです。（冬は一日おき、夏はシャワーだけ） |
| 利用者の高齢化にともなって介護サービスの機能低下防止（理学療法）等の支援の充実を切に希望します。 |
| 今は自分の身の回りの事は出来ますが今後、介護が必要になった時には今の施設から出ていかなければならないと思います。介護施設に現在の金額で入所できるか心配です。 |

◇入所継続の希望など

|  |
| --- |
| 本人はグループホームなども入りたそうですが、近所の方の理解も必要になりますし実際生活するのでは違うと思うのです。私だって近くにそういう人々が生活していれば火の管理や、あと悪さをしないかと思うと思います。まして近くに障害者を持っていない人にとっては尚更だと思うのです。行政の方でもっと施設作りをして入れない人々がいないようお願いします。 |
| 本人は帰りたがっていましたが、自分がまったく働けないし家族は姉の私だけですが年を取り過ぎています（77歳）のでとてもめんどうは見られないので今ではあきらめている様です。 |
| グループホームも経験しましたが、体調を崩し向いていない事が分かりました。現在、父親がなくなり母親も高齢で、入退院を繰り返しております。現在の入所施設で本人は気に入っていますのでこのままお願い出来れば有り難いです。 |
| 本人（入所者）の事を中心に考える理由も分からなくはないが、周りにいる人の生活、家族を考えると本人の事ばかり考えられない。そして、過去にも経験がありますがキレイ事ばかりで現実を見れない、感じられない人がアドバイス、意見をいう人もおり、家族が安心出来る施設の暮らしが一番だと思う。 |
| これだけの問いかけで家族（本人）の生の声を知ることができるのか、何に生かすのか理解できません。本人以上に家族が不安に思っていることは障害者（重度の）本人の将来で、親の高齢で支援ができなくなった時には、本人はどうなるのか、入所施設は定員満席、グループホームの重度の障害者ははじかれる（現実です）「机上の空論」ではなく、現場、現実を熟知して障害者福祉にも力を入れて頂きたい。個人的には運よく、入所施設にお世話になっておりますが、それでも本人が病気になったらとか70歳位になったらどうなるのかと心配は絶えません。現在入所施設にもグループホームにも入れない、親も高齢で、、、と将来の不安を抱いている知人、友人も多数いる方々の為にも配慮していただきたい、お願い致します。 |
| 4歳の時に脳炎にかかり、全ての記憶と脳の機能を失ってしまったので、言葉も話せず何も理解できないわが子に対し、将来の希望としては今の施設でおだやかに暮らしてもらいたい。これが私の変わらない気持ちです。 |
| 子供の頃より、本人にどんな力をつけてやれば、より心豊かで楽しく生きやすい生活がおくれるかということを目指していろんな体験をして夢をみてきましたが本人の気持ちの安定が、なかなか難しく現在やっと落ち着きをみせるようになってきています。本人の望むところは分かりませんが、今の生活ペースを受け入れているように思えます。 |
| 重度の障害者であり、何事にも支援、見守りが必要であり、家族も年を重ねる事に本人へできる支援もできなくなってきている。本人の年金でいろいろな支援を24時間で受けようと思えば無理であり、このまま今の生活を希望している。（本人に他害、こだわりあり。物壊しあり。） |
| 障害の程度によっては地域で生活するのが理想という方もいるでしょうが、障害が重く支える家族の少人数化、高齢化を考えると入所施設は圧倒的に不足しています。我が家は幸いにも入所できました。綱わたり状態の生活をしながら待機している人が多くいる事に配慮をお願いします。 |
| 本人にとても強いこだわりがあり、新しい所での生活に慣れるのは大変だと思います。少し遠いですが今の施設で安定して暮らすのが幸せだと思っています。 |
| 知的障害者の場合、自宅に家族と共に過ごすことはかなりむづかしい。施設に入所しながら週末は家族と自宅で過ごすようになってかなり情緒が落ち着いたと感じています。近所からの苦情を気にしながら生活していくのは非常に不安です。 |
| 知的障害はなかなか自分で生活をしていくのは、難しいように思う。本人を知る人がだんだん少なくなり若い人に理解してもらうには困難なことが多い。 |
| 知的障害者が地域で暮らすことの大変さをもっとわかってほしいです。 |
| 問4はどれひとつ欠けても本人が地域で暮らしていくことは不可能です。（○は最大5つ迄）という条件をつけるのはどう考えてもおかしいです。 |
| 障害者（知的・精神等）を地域へという動きになっているようですが、地域で生活していけるレベルの障害者は、現在家（地域）で生活しているのではないでしょうか。家での対応がむずかしいから施設入所しているのが現状だと思います。入所していた軽度の人は、グループホームや通勤寮など移動していっています。そして今、中度～重度の人、問題行動のある人が残っていますが年々増えていく、最重度の人、高齢で体力が落ちて紙オムツの人などが入所されてきます。そうなると、オムツ交換が必要な人とこれまでの入所者で残った人と一緒に指導員さんもみなくてはならなくなり、どうしても残った人に目がとどかなくなると思います。重労働になっていくと思います。残った人達は、あたたかいサポート（会話とか）が特に必要な人達でイライラがつのると問題行動がおきやすく家族もくたびれ果てるでしょう。どの種類の障害者も軽度～重度と様々です。そして、若い時～老いた時と1人の時でも幅があります。多くのパターンがあるけれど、それをある程度は分類することも必要なのではありませんか。入所の残った若い人～中年と老いて体力のなくなっているオムツの人は分けた方がよりよくなると思います。私は、自分の子の障害を認めたくない思いがあり小さい時に障害があるとある程度分かっていながらいつかとか、なんとかとの思いで、ギリギリ線を設けて認めるのを後まわしにしてきました。早期より、その子にあった道を歩き、その時々に必要なことをしていっていたらと、色んなお母さん達の輪に入り孤独にならずにいたらと悔やまれます。 |
| 障害者を一括りで扱うことはやめてほしい。特に知的障害者は障害の程度はいろいろです。自分の思っていることを明確に意思表示できない者が多数いることをしっかり認識してほしい。 |
| 自宅で生活している障害者でも、保護者が高齢化してくると将来のことが不安になり施設への入所を希望するようになってきます。希望した時、すぐに施設に入れるように入所施設の増設をお願いします。施設職員が、優しく安定した気持ちで入所者に接することができるよう職員の給与面や待遇面への支援を公的に行ってほしい。 |
| 我々親は70代後半と80代半ばで本人がいくら地域で暮らしたいと言われても30年以上の介護の結果、2人共体調が悪く受け取ることは出来ません。重度の娘を施設にお願いしたのは、もうぎりぎりの年齢まで介護し、やっと施設にお願いしたので家で介護できることはなく、戻すことも考えていません。 |
| 保護者が高齢化している為、出来れば施設が近いところにあれば助かります。 |
| 施設と家と月半分づつ行ったり来たりしております。私達もまだ、送り迎えは出来ますので家族の生活を充分にしてやりたいと今は思っております。私達もまだまだ高齢になりますから本当は近くにいい施設があれば考えたいと思いますが、今はありません。知的障害者は切り捨てに近いと思っています。 |
| 保護者の高齢に伴う体力、気力の衰え、最近特に体力の低下が気になります。これから面会、及び園の行事等の参加も出来なくなる時があるかと思う。色々と考えていると施設でこのまま預かって頂けるのか、いつも不安になる。 |
| 後期高齢者になって体がいう事をきかない事が多くなってきました。施設に入っていますが、これからは1週間に1回帰宅は無理になってくると思います。将来が不安です。 |
| 両親ともに高齢化しており親亡き後の本人への経済的援助の確保が不透明になる為大変心配している。 |

◇入所施設への要望など

|  |
| --- |
| 現状では、他の施設に移りたくても場所がない。どちらかというと家族、本人の思い、意向を聞くというより施設側の意向にそって生活している。職員自身の障害者に対しての意識改革が必要だと思う。面会へ行くととても不快な思いをする。その中にもプロ意識の高い人もいるのでそれが救いです。 |
| 面会に行きますと、手、腕、足につめのようなひっかき傷があります。介護の人つめを丸く切ってほしいです。 |
| 離れて暮らすという事は、いくつもの不安があり、「身内と同じ思いを持って接して頂ける所」であれば離れていても本人を応援していけるのが家族、親だと思います。「障害者」「健常者」のくくりではなく、人として思いやりを持った職員の方が育って下さる事を願っています。職員の方の定着と育成とが利用者全ての安定、安心、幸せにつながると思います。人として、家族以上に離れたところでも幸せに暮らせる事を願っています。 |
| 胃ろうなんですが、何か口から食べさせてもらいたいのですが誤飲をするといけないとの事で施設の看護師さんがダメだとおっしゃるのでもう何年も口から食べていない事がつらいです。これでいいのかと思い続けています。 |
| 自宅での介護は年々無理にはなってきている。つらい決断ですが入所施設での生活を希望します。したがって、施設の透明性と充実を望みます。なにもうったえられない子がどのように1日を過ごしているのか、それを考えると胸がいたくなります。スタッフの方によくして頂いていると信じています。ニュースなどで悪いことを聞くとつらいです。 |
| 現在、兄は精神安定剤を投与されており服用しています。人に危害を加えることはなく、自傷のみ（服をやぶる、体を傷つける）なのに飲ませなければいけないのか疑問です。もう何年も飲まされているので体調が心配です。飲ませなくてもよい方法があれば教えてほしいです。 |
| まつり等、人の目がある時には容姿、特に顔、ひげそり、つめきりを希望致します。 |
| 部屋の方を見させて頂きましたが、ほこりが溜まっていて健康に悪いのでそうじの方をお願いしたいと思います。 |
| 入居者の貯金はすべて施設管理です。多額なので少し心配です。毎月必要な経費もあるので、預けておくことに不満はありませんが、施設に預けておくのは100万位でもいいのでは？と思います。 |
| 手や足のツメ切り、耳掃除などの対処は未だにできていません。申し送りしてもすぐ人がころころ変わる。 |
| 今、入所している所ではリハビリなどが受けられない。できるなら、週1回ペースでのリハビリや訓練ができればいいのですが。 |
| 職員はよく会話をして下され食事時も1人1人をよく見てくれており感謝しています。しかし、散歩や運動の時間は予定表にはのっているがあくまでも予定で実行回数は少ない。理由は職員不足との事。入所者の足が弱く実際年齢より20歳位老けている。散歩は、大変面倒だそうです。それならば、時間を決め寮内に音楽でも流して歩かせてはと考えます。当方は、お願いする立場で嫌われて追い出されては困りますので唯々お願い申しあげるだけです。 |
| 人手があればもう少しちゃんとお世話がしてもらえるのにと思う場面がよくあります。長い期間、非常勤勤務をしている方はその実技と意欲で正社員にして差し上げたらと思いますが。続けてくれるだけで有り難いし貴重！ |
| 地域での生活をさせる気は全くありません。行政の無理解、福祉サービス事業所の人材の質の低さがひどくありすぎです。もっと接遇研修真剣に取り組む事を願います。安心、安全を望んでいますので今の施設での生活を望んでいます。親が求めるのは障害者に寄り添う優しい気持ちでの支援です。 |
| 自分でできない衣服の調節、言葉で伝えられない気持ちなどの手助けをお願いします。 |
| 週に2、3回は会いに行っています。主任さんは顔を見ても挨拶もされなくなりました。（迷惑そうな顔をされる事も多々あります）介護士さん達は良くしてくれる人、それなりの人、色々な方がいらっしゃいます。食事の時間は介助して下さる方が少ないように思ったりします。 |

◇後見人について、後見人の意見

|  |
| --- |
| 保護者の高齢化により法人成年後見人制度を充実してほしい。（第3者による成年後見人制度は安心できないから） |
| 今、親が成年後見人になっています。更新の契約の時に父親亡き後、後見人を決める時に姉妹の事情で次にやってもらえそうもないからどうしたらよいか悩んでいます。 |
| 本人は自宅へ帰りたいと希望されているが、親族である兄及びその家族が受け入れを拒否している。また、本人が地域の中で生活できるだけの訓練を受入れられるか等問題が非常に多く難しいと感じている。施設はよく対応してくれていると感謝しているが、多数の入所者に個別に対応できるだけの人材がいない。本人の希望にそうような細やかな対応はできにくいであろうと感じている。後見人としても本人の望みに応えることができず無力感を感じている。 |
| 知的障害のある方の第3者後見人をしています。（今回のアンケートの対象となるか分かりませんが）地域づくりを考える為には制度も大切ですが「暮らし」というものを真摯に考える必要があると思います。決められた生活を強いられてきた方々を支える為には自己決定、自己実現をサポートする立場の支援者育成がとても大切だと思います。成年後見人として活動してみてそのあたりを切実に感じました。特に日本は個人に対する権利擁護が遅れていると思います。成年後見制度の普及について官民一体となって進められる計画を切に望みます。 |

◇地域生活、その他支援について

|  |
| --- |
| 今は現状維持ですが、将来は見通しはつきません。地域近くにケアホーム等条件が整えば親も年齢も重ねますので出来ればうれしく思います。障害が似た人が住める場所を作って下さい。子供が安心して暮らせるホームを是非お願い致します。 |
| 本人の年齢が高くなるほど入所のような集団生活は精神的につらくなるのではと思います。少人数で家庭的なゆったりとした生活が送れたらと思います。 |
| ＧＨでの生活を希望しているが、かなり支援が困難だろうとは思っている。自立支援になってから日中活動の部分に問題があると思っている。生活介護という名のほったらかしに近いものがある。それまでは、日課として色々と工夫されて施設内をただうろつくということはなかった。処遇困難者なのだから仕方がないとは情けないの一語につきると思っている。 |
| 可能ならグループホームで生活させたいが、今の能力では無理と思う。ゆえに入所施設での生活の方が安心していられるが、もう少し職員を増やし日常生活のケア、余暇活動の充実がはかれることを望みます。 |
| 地域での生活は望ましいと考えるが、地域での受入（地域側の理解、生活支援等）保護者亡き後のことを考えると難しいと判断しています。やむなく現在の施設しかないと考えています。 |
| 知的障害者用の老人ホームがあればよいと思う。 |
| 障害者本人の将来も心配ですが、親も80歳近くになり老々介護の生活を送っていますが、月に2回の面会もやっととなりました。出来れば親子で暮らせる老人ホームみたいなものがあれば安心して過ごせるのではと考えています。 |
| 入所施設は必要で入所施設が核となって地域移行や地域定着ができると考えます。 |
| 地域の中で暮らせる施策は大変よいことだと思いますが一方で入所施設を必要とする障害者も多くいることも確かです。よりよい社会の中で安心安全な暮らしができるよう入所施設も同様に同時に地域の中に根付ける様な施設も考えて頂ければ有り難いと思います。 |
| Ａ、Ｂとか白、黒と単純な選別対処ではなく各々の実情に対応した多機能、多様な対応の出来る制度支援を考えるべき。 |
| 障害者総合支援法が出来、ずいぶんと障害者の環境は整備されてきたが知的重度や自閉等にはまだまだ域は到達していない。地域住民の理解も以前と変わりなく、支援ではなく排除する傾向にある。学校での教育も急務、相談支援従事者研修も急務であろうが障害者本人の「さけび」を聞いてあげる人を養成することこそ大事である。 |
| 地域で暮らす、それが当たり前になってほしい。施設からやはり出て地域で暮らしていけるようになってもらいたい。それが当たり前だから。重度訪問介護の拡充をお願いしたい。 |
| 自宅近くに障害者のための施設サービス（デイ・ヘルパーなど）がない。精神・知的サービスを受け入れる事業所が少ない。または、受けても理解がないため、トラブルになりがちなのもよく聞きます。 |
| 自分で意思を明確にできない息子が、仮に地域で暮らすとなれば事故や徘徊（認知症とは別です。単に外へ出て帰れなくなる恐れが多分にあります）の外に詐欺に会わないよう法律的に人権をなくす手続きをする必要があります。 |
| 親子共、年金も高くなり県内でどこでも良いから気分転換できる低料金の賃貸で貸して頂けるアパートなり、あるといいなと思っています。施設が2週間使く休みがあり、大変な思いをしてますのでちょっと気分が変えられる所を用意して下さると有り難いなと思っています。 |
| 相談相手になってくださる方がいらっしゃればと思っています。電話や会って話ができる人がいればいいのにと、、、いつも思っています。ひとりで今とても不安で孤独です。 |
| いろいろと子供の先行は考えれば考える程分からなくなってくることはありますが、良い相談相手（信頼できる）側にいてくれたらなんとかなるのでは |
| 行政福祉課の職員が、地域経験がなく担当する事になるのは相方にとって不幸以外の何物でもない。担当の人は次の課へ行けば終われるがこの子達に終りはない。 |

# 施設・病院の自由意見

### 障害者支援施設

|  |
| --- |
| 年齢が65歳を過ぎている方は、そのまま障害のサービスを施設を出た後も利用できるのでしょうか。地域移行を進めていくのであれば、グループホームであったり、ヘルパーさんの数がかなり不足しているのではないでしょうか。 |
| 質問の内容を理解されていると判断できる方がとても少なく、ほとんど聴き取り不可能となりました。保護者の方からは、将来の暮らしのアンケートとあるが、内容が偏っていると感じるといくつか意見をいただきました。職員の記入部分は、各担当者の意見を反映させているので、「生活支援員」となっています。 |
| 障害のある方がどんな暮らしをしたいかと問う際にどうしてもどんなサービスを使いたいか（24時間の支援が必要だから入所施設とか介護がいるから居宅介護、行動障害があるから行動援護など）といった形になっていることが非常に残念に思う。本来、どんな暮らしをしたいかどんな場所で住みたいかを聞いてそれに必要な支援を合わせることが目指すべき姿だと思う。ただ、現状はあるものの中で選択を迫られるわけであり、理想を語るだけでなく目の前にある課題に向き合おうという思いで今回のアンケートが行われたものだと考えています。 今回のアンケートを行う中で感じたことは、重度の障害のある人にとっては、体験できる環境を整えることが何より大切だと感じました。パンフレットを作ろうが、説明会や見学会を行おうが、そのことだけで選択を求めることは合理的配慮に欠けているとすら感じます。ぜひグループホームの体験利用や入所施設に籍を置きながらも地域生活を体験できるようなしくみづくりをお願いします。そうすることで利用者さんの本当の選択が得られるように思います。また、強度行動障害など激しい行動障害のある方は人的に十分な支援が必要でありさらに周囲からの刺激が少ない小規模な空間が必要です。敷地内グループホームを認めることで小規模であり、人的バックアップのとれる体制が実現できるのではないかと考えます。強度行動障害のある方が安心して暮らせる環境と支援する側も安心して支援できる環境を整えていただきたいと思います。 |
| 「問17　ご本人は、地域でのサービス利用や支援環境が整うならば、地域移行（退所）は可能でしょうか？」の設問の意図がわからない。金銭面を含めてすべての支援環境が整っているなら、施設もＧＨも必要ない。地域移行が大きな目標に掲げられつつも、現実的にはそのための制度、政策的な未熟さや限界が認められる現段階で、障害の重い人たちの地域での暮らしへのニーズに応えていくためにグループホーム設置の特例的扱いが必要だと強く感じている。 施設入所中の知的障害のある人たちの地域移行を進めるならば、三重県における「入所施設及び日中活動事業所の敷地内、隣接地におけるグループホームの設置を許可しない」とする扱いについて以下の条件を持って敷地内あるいは隣接地での設置を許可するなどの緩和策を講じていただきたい。 ①障害の重い方、身体的介助を必要とする方、疾病等で日常的、または定期的に医療的ケアや栄養管理、食事管理を必要とする方でグループホーム入居を望む方。②上記の方の利用についてはサービス等利用計画の中にその内容が十分に検討され位置づけられていること。③緊急時事態に備え、十分なバックアップ体制が整えられていること。④グループホーム入居者の日常生活において自由度が確保され、十分地域住民との交流が図れる生活が保障されること。⑤設置にあたっては、無造作な拡大や施設化を防ぎ、地域移行の趣旨に反しないよう数的制限を設けること。 |
| 基本的に、どのような障害者の方でも地域移行は可能と思います。しかし、地域資源の不足と情報の連携不足を感じます。今回のアンケートでは、そうした課題が自分なりに把握できてよかったと思います。ほとんどの利用者は家族との生活を思ってみえますが、さまざまな理由で施設生活をしています。 |
| 今回、利用者への聴き取りには大変な労力が必要でした。家族への送付についても、説明会の時点では利用料の請求書の発送が終わっていましたので、施設より郵送しています。利用者は平均60歳で3分の1の方が介護保険対象となっています。地域生活をすることは厳しいと思います。家族からは、いまさら何のためにこんなことをするのか？利用者本人が情緒不安定になるのでアンケートはしないでほしい等の相談もありました。 |
| 家族とご本人様との意思の違いが大きい。戻りたいと思っている地域、住みたいと思う地域に具体性がない。入所利用を開始した際のキーパーソンが他界し、世代交代してしまうと、家族・親族が否定的になってしまう。もしもの際の確認が取れない。これ以上、次の世代に迷惑をかけられないといわれてしまう。単身の方が増え、今後のことが施設に一任されてしまう。市町に相談しても、同様なことが多い。 ※高齢・障がいの重度化に伴い、施設内ではまかないきれない事例が多くなった際、市町、県の具体的な支援・協力を得られる体制を考えてほしい。 ※現状の相談支援事業所の位置づけが不明確。（相談支援事業と、市委託の総合相談支援センターとの違いが不明。） ※支給量や区分の判断（聴き取り）等、市町により考えが違い、事業所としての判断・理解・対応に困ることあり。同じく、同様なことをご家族からも聞かされます。 ※地域移行後、障がいの重度化、疾病などによりその場で暮らせなくなった場合の保障がない、不安があるとの家族の意見あり。施設側としての安心の材料を提供できかねる。具体的な政策・保障を示してほしい。 |
| 今回改めて入所利用者さんに意向調査をさせてもらい、それぞれの思いを聞けたことはとてもよかった。地域での生活を望む方が意外と少なく、施設での生活を望んでいるということは、地域生活に関する情報が少ないことと、エンパワメント支援の不足もあるのであろうと感じた。利用者さんによっては、条件が整えば地域生活が可能であろうと思われる方も数名みえるが、本人の意思に加え、家族の理解が大きなハードルとなっていると思う。加えて、現在車いすの方が生活できるグループホームや、重度訪問介護などのサービスを実施している事業所が少ないなどのサービス面、そもそもサービスを利用するにあたっての負担金の面で障害年金のみの収入ではやっていけないという事実もある。制度とサービスの充実が何より大切であり、それがあっての地域移行だと思う。 |
| 利用者、家族ともに高齢となり、今後も施設での生活を希望する家族は多く、地域移行は難しい。 |
| ここに記入してはいけないことかもしれませんが、保護者のほとんどの方は、一生ここで生活してほしいと思っており、地域移行が難しいケースが多いです。職員の意識の中にも現状維持で変化を望んでいない考えが根強いです。個々の利用者の幸せをより願い、地域での暮らし、自由な暮らしへの後押しができる職場になるようにしていきたいと思っています。 |
| ご本人への聴き取りについて：非常に難しかった。選択肢が多いため、選びきれない方や、わからなくなってしまう方も多くみえた。（こちらの尋ね方、聴き取りの仕方が影響している部分もあるかもしれないが。）誘導にならないようこちらも十分注意して行ったが、自由表記の部分は記入できない（答えられない）方が多かった。入所施設ということもあり、多くの方が、現在の生活環境以外知らない、わからないという状態である。特に長期にわたって利用されている方はその傾向が顕著であった。 その他：支援者側がご本人にとっては入所施設ではなく地域での生活が望ましいのではないかと提示しても家族から反対されるケースがほとんどである。理由としては、一旦退所してしまったら、もし地域で失敗した場合、再入所できないのではないかという懸念等が考えられる。また、高齢になってきた利用者についても、介護保険サービス利用の方がご本人にとってはよいと思われても、除外施設であるため利用はできず、また、老人ホーム（特養等）への移行もなかなか進まない現状がある。入所施設を利用しなくても地域で安心して生活できる社会資源の充実が大きな課題ではないかと思われる。 |
| 今回の取組みにより、施設入所利用者様の声を改めて聴ける機会となりました。第4期障害福祉計画に則り、地域移行希望者の支援を、今までの経過を含め、より充実を図っていきたいと考えております。しかし、在宅⇔施設入所の中間にあたる支援の充足なくして、実現が困難という壁が目の前にあるように感じております。施設入所支援としての役割から、協力体制を拡げていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。 |
| 身体障害者のグループホームが地域にない状況のもとで、今回の意向調査にあたって、利用者や家族の方からのお話では、せっかく入所できたのに、なぜ、今、意向調査を行うのか？ひょっとして出されてしまうのではないか？施設側はアプローチの仕方に気をつかって行ったつもりだが、不安や混乱がみられた。 調査の結果、フィードバックしてもらえるのか？調査結果を地域移行についての参考資料としていただけるのか？自分のところだけでなく、他の施設の傾向も知りたい。 |
| 保護者会から、このアンケートについてたいへん批判的な意見や質問があり（アンケートの目的、保護者アンケートの内容等）、結果、48名の方しか家族アンケートの返却がありませんでした。 |
| 施設入所の方々に意向調査票に基づき質問させていただきましたが、質問の意図を理解してもらうことがなかなか難しく、同じような回答にしか導くことができませんでした。入所者は「支援をしてもらっている」中で生活しているので、「心配なことを選ぶ」といってもピンと来ていない様子でした。現実にならないと理解が難しいと思います。また、特に説明が難しく理解してもらえなかったのが、「サービスについて知りたいですか？」の質問に対しては、上記と同じように、サービスをしてもらうのが当たり前の環境の中で生活しているので、回答に困っている様子でした。 |
| 聴き取りが難しく、正確に気持ちが聞き取れていません。特に、サービス情報を知りたいか、知りたくないかなど、理解していないのに答えているケースが多くありました。「わからない」は「知りなくない」に入れたケースもありました。 |
| 施設利用者さんに関して、ある程度能力が高い方については日頃から本人の希望にも左右されるが、地域移行が可能ではと考えていた。今回の意向調査で、利用者さんそれぞれの考え方を直接聞いて、地域移行が本当に可能な方というのは一握りではあるが、いろいろと可能性を探るといった意味では意義があると思う。当施設にとっても支援するうえで地域移行を本人・家族等が望む場合、またその可能性を持つ方については地域移行に向けた支援も取り入れていかなければと感じる。地域の体制づくりは、この地域では十分なものではないが、将来的には課題を解決して利用者さんが本当に望む生活ができる体制が確立されることを願わずにはいられない。 |
| 「鳴り物入り」で始めた感は否めませんが、利用者に対する姿勢、目線を検証するよい機会となりました。できれば、時間をかけて、毎年やりたいです。（個別支援計画、計画相談でやっているべきことなのですが・・・） ※サビ管からの話：利用者の真意を聞くことの難しさを感じた。はじめてのことでかまえる利用者が多かった。長時間になると疲れて誘導尋問になったのでは？面接担当にも事前に打ち合わせを行ったが、受けとめ方がバラバラでうまく聞き取れなかったのでは？ |
| 入所者の一番言いたいことの中に、障害福祉サービスが増えたらよい、今いる施設の近くで生活できるところがあれば暮らしてみたい、施設の敷地内にいろんなものができてほしい等の要望があった。当施設の入所者も高齢化が進んでおり、地域移行をするにも現在の施設から離れたところでは入所者も不安な面がうかがわれる。ぜひ、敷地内に1棟（定員7名）でもよいので、グループホームの建設を前向きに検討いただきたいと願う。 |
| 入所中の利用者の思いを改めて知ることができる機会になったのでよかったと思います。 |
| 発語が少なく重度の知的障害のある方の意向をうかがっていくことはすごく難しく感じました。少ない発語がある方で「地域とは？」何かをイメージしていただくことが非常に難しかったです。長い入所期間の方が多く、グループホームのイメージを持ってもらうことや、ひとりで住むことのイメージを持ってもらうのが大変でした。難しかったけど良い経験ができたと思いました。ありがとうございました。 |
| 入所利用者の中にも地域移行の意向を持つ方がいました。受け入れてくれるグループホームを探し、見つかった時点で見学、数回の体験利用をふまえました。またその都度、本人や家族との話し合いを重ねてきました。数回の話し合いの中で、家族側の承諾も得た結果、グループホームに地域移行する方向で支援していくことが決まりました。実際の地域移行をする調節の段階でグループホーム側の法人からの要望がありました。「万が一、本人の精神状態が悪化する場合を考えて、移行後の一か月間は戻り先を用意してほしい」「保障に関しては文書で確約がほしい」とのことでした。「実際の地域移行後に問題が発生した際に、以前利用していたところからの協力が得られなかったことが最近発生したからである」とグループホーム側の法人の方は経緯を説明されていました。当施設としては万が一の受け入れ先は家族の方に負担がかからない方向で調節する必要がありました。おそらく、この時点で受け入れ先を自宅にする等し、家族の方に負担のかかるリスクが発生すれば、その時点で家族の方からは地域移行自体に反対される可能性があります。そこで家族以外の受け入れ先として精神病院に協力をしていただける証明をいただきました。また緊急時の当方入所施設のショートステイの利用も提案しました。これらの提案を汲んでいただき、このケースの本人はグループホーム側の法人の審査を通過し地域移行することが決定しました。 精神病院や入所施設のバックアップがなければこのケースの地域移行は叶いませんでした。また、セーフティネットの一つであるショートステイを移行後の本人が万が一利用することとなり、その利用が長期的に続くこととなれば、限りあるショートステイのベッドの1つが使用され続けられることとなります。これは現在地域に住みながらショートステイを利用されている方の可能な使用頻度の減少になります。地域在住の障害者が使用できるショートステイというサービスの枠が減少することにもなります。現在、ショートステイのサービスは連日満室が続く中で、地域に住む方からの緊急性の高い利用要望も多いのが現状です。それらの要望にすべて応えることができていない現状もある中で、地域移行の保障としてそれを提案することは当施設としてもリスクを負うこととなりましたし、現在サービスを利用していただいている地域の方にもリスクが発生する事態となりました。本人の気持ちが反映される形での地域移行はこれからも必要となってくるのは当然の流れですが、それを保障していく形でも、これからの障害者の地域生活を支えていく意味では地域資源としての入所施設は必要不可欠であるのが今感じ取ることのできる現状であります。 |
| 意向調査を行いましたが、利用者様と調査項目以外でも多くの話をすることができ、私共にとって有意義な時間となりました。ときに、調査項目の内容から発展して「今の福祉のあり方に怒りを覚える方」、しかし、怒りを覚えたとして、「どうしようもないから施設に入ったのに・・・」と「あきらめの表情を見せる方」・・・。その反面、「お世話になっているよ。ありがたく思っている。ここは契約による利用でしょ？契約して利用しているのだから、このまま利用したい。それはダメなの？」と「当施設に対しての満足を述べてくださる方」もおられました。 なお、身体に障がいを持ち、車いすを利用している方がほとんどですので、「ハード＋身体介護、それを鑑みての日中活動の場」を提供することが必須であり、これを生活の礎としつつ、「健康面や外出面、非常時へのフォロー」ができたのならば、「地域での生活が可能となりうる」と考えます。とはいえ、利用者様各々の思いや考えは（当たり前ですが）千差万別ですので、「より個々の気持ちや状況に配慮した支援が必要である」とも考えます。ですので、利用者様の地域移行を考えた場合、「アウトラインはレディメイド的、しかし、コアな支援はオーダー的に」なろうかと思います。ただ、「ご本人様、そしてご家族様が同意されるか・・・」これが一番の課題ではなかろうか？と。もし、この課題が解消されるのならば、「地域移行がリアルな福祉の流れになるのでは？」と考えます。「施設にいることが安心」だが、「施設を出たとしても絶対安心」という環境をつくるのがまずは急務ではなかろうかと。 では、この状態をつくるにはどうすれば？それは行政だけでなく、あらゆる社会資源の課題であると考えます。それらが「協力・協働」していくことで、「不安を安心」に変えることができたら・・・。当施設もその一助となりえたらと考えております。 |

### 精神科病院

|  |
| --- |
| アンケートをしていると患者様から「退院させられるの？」「先生に言わない？」と不安そうな声が聞かれた。丁寧に説明をさせていただいたが、話をしてくださるまでに時間がかかった。可能な人については病院職員以外の人が面接をした方が、退院をさせられる等の不安が少ないのではないかと思った。時間をかけて行ったアンケートなので、今後に必ず結びつくようにしていただきたい。長期の方だとなかなか退院についての思いを改めて聞くことが少なくなっていたので、アンケートをすることによって、「そんな風に思っていたんだ」と気づかされたこともあった。よい機会でもありました。ありがとうございました。 |
| 病状により退院困難な方も多く、現状で退院が難しい場合の選択肢がなかった。思いつかないという選択肢にはチェックしづらかった。65歳未満1年以上入院の方に対する地域移行がなかなか進んでいない現状が調査により明らかとなった。 |
| 調査の内容については、障害福祉計画に反映させて、障害福祉サービスを充実してもらいたい。また、調査結果については内容を教えてほしい。調査内容は統一したものであったため、閉鎖病棟に入院中の病状不安定な患者様には聴き取りが難しかった。調査対象者を聴き取り可能な患者様にする等検討が必要だと感じた。実際には利用が難しい資源も含まれており、記入にあたっては判断に迷った。調査を通して、退院に向けた取組を行えていない患者様も多く、入院が長期化することで退院が難しくなることを改めて実感した。普段聞くことができない患者様の思いを聞くことができたことはよかった。 |
| 地域に受け皿が少ないことや、本人の状況に合うサービス、介護と障害サービスのはざまの人の問題などが、退院への希望や、実際の退院に結び付きにくくなっていると思いました。選択できるほどの受け皿及びショートステイ、チャレンジハウスとサービス内容を提供お願いします。病院がメリットとなるようなシステムがあると、退院支援（退院）しやすくなると思います。 |
| 長期入院患者の家族とのかかわりは、退院・地域移行につなぐために持ちたい、続けたいと思っていても、難しい場合が増えている。緊急連絡先の確認等で定期的に病院から連絡をし、その都度、家族の状況など話を聞かせていただいている。そこから次の展開が当院での課題だとみえてきた。今回の調査で、長期入院患者への支援に深めていくべきことがあると気づきがあった。今後に活かしたい。 |
| 書面調査のみでなく、訪問調査される場合には、御協力致します。 |
| 長期入院患者様（特に任意入院の方）の意向を自然な形でうかがうことができるよい機会ではないかと考え、ＰＳＷが受け持ち、看護師とともに実施しました。よい相談の時間につなぐことができました。ありがとうございました。 |

# 考察

本調査において、聴き取り可能（回答可能）な対象者について、本人の「将来生活したい場所」を聞くと、入所者では3割超、入院者では6割超、入所待機者では約3割の人が「地域での生活」を希望する結果となっています。

また、本人や支援職員・家族の意向などに基づいて整理した「状態区分」で見てみると、入所者では「Ａ区分（本人が地域移行の意思を表明、支援職員も可能と判断）」が全体の14%（230人）、入院者では「Ａ区分（本人が地域移行の意思を表明、状態群でも地域生活可能）」が全体の18%（156人）、入所待機者では「Ａ区分（本人、家族等いずれも地域生活を志向）」が全体の6%（11人）となっています。

調査結果をふまえ、地域生活への移行や地域での生活支援に係る取組を進めるための課題と支援の方向性について、下記のとおり整理を行いました。

（１）エンパワメントについて

　調査結果では、「聴取不可（回答不可）」が入所者で5割弱、入院者で約2割、入所待機者で5割超を占めています。また、地域移行が「可能」と判断される入所者は約6割であるにも関わらず、実際に地域移行に向けた何らかの支援が行われているのは約3割にとどまっており、本人へのエンパワメント支援や社会資源の見学・体験などの取組は低い割合となっています。さらには、本人に対する「受けられる手助け（サービス）を知りたいか」という問いに対し、「知りたい」と回答した人は、入所者・入院者で約半数、入所待機者では約６割となっています。

これらの結果については、今回の調査内容や調査方法が要因となっている面（限られた期間、限られた説明資料で聴き取りを実施したこと等）もあると思われます。しかしながら、本人へのエンパワメント支援の取組が低い割合であることから、「聴取不可」の中には、本人の意思を表明する意欲が低下しているケースや、支援職員が聴き取りをあきらめているケースが含まれていることが推察されます。また、「受けられる手助け（サービス）を知りたいか」の問いに対する回答からも、本人の意欲の低下がうかがわれます。本人の自己選択・自己決定に基づく支援を行うためには、本人に対するエンパワメント支援が課題になっていると考えられます。

エンパワメント支援にあたっては、まずは「意思を表明してよい」という安心感のもと、本人の思いや希望、困り感を受け止め、本人の意思に基づいた支援が前提となります。そのうえで、本人の「選択と決定」を下支えするための体験の積み重ねが必要であり、体験を通したエンパワメントが求められます。入所者・入院者に限らず、入所待機者も同様に、体験の積み重ねを通し、自己選択・自己決定の機会を増やしていくことが重要です。

また、本人へのエンパワメント支援は、現場の支援職員だけで成り立つのではなく、実際に施設・病院や親元を離れて自立生活をしている障がい当事者やピアサポーターなどをはじめ、施設・病院の経営者、家族、地域住民、行政職員、相談事業所支援員など、関係者全員の力があってこそ実践できるものです。

障がいのある方に、本人の意向に関わらず、特定の生活様式を強いることは、「障がいがあるから仕方がない」という意識を本人に対して周囲が思い込ませ、あきらめさせていることに繋がります。必ずしも悪意なく、無意識のうちに、そのような状況を作り出しているという現実を私たち全員が自覚して、支援を進めていくことが求められています。

（２）家族支援について

　調査結果からは、地域移行に向けた課題として「家族の同意」が大きな位置を占めることが明らかになりました。また、入所者家族・入所待機者家族とも、高齢化が進んでおり、入所施設への強い意向が示される一方、入所待機者家族では、条件付きで地域生活を希望するとの回答も2割弱見られます。また、親世代から兄弟姉妹などへの世代交代もうかがわれるとともに、家族と本人の意思隔たりが大きい、との自由意見も見られました。

家族の意見からは、両親や母親などが中心となって、長年、本人への支援を抱え込んできた負担感・孤立感がうかがわれます。家族にとって、地域における支援環境やその情報が不十分な中では、「施設への入所」か「家族が本人支援を抱え込んだうえでの自宅での生活」の二者択一しかないと考えるケースもあると思われます。

このようなことから、家族への支援・アプローチが、本人への支援向上にも繋がるという視点に立ち、地域の関係者による「チーム支援」により、本人の地域生活を支えていくことを、家族に対して丁寧に説明することが必要だと思われます。まずは、家族の不安や困難さを聴き取ることから始め、地域生活の可能性を探っていくことが求められます。

また、調査結果では、待機者本人が「地域生活を希望」する場合、家族も「条件付きで地域生活を希望」が多くなっており、本人意向を尊重したいという家族の意向もうかがえます。

社会資源の充実・活用や、真に入所の必要性の高い人への優先的な入所調整などに取り組むことにより、家族の不安感を逓減しながら、地域のネットワークによる本人への支援内容を具体的に示していくことが必要だと考えます。

（３）資源の充実・活用について

地域での生活を可能にするためには、様々な資源の充実や活用が不可欠です。各資源のもつ役割は単純なものではありませんが、便宜上、入所者・入院者の地域移行を進めるための資源と、地域生活の継続・定着に向けた資源とに分けて考えてみます。

地域移行を進めるための資源としては、例えば、一般相談（地域移行支援・地域定着支援）、指定特定相談（計画相談）、「自立生活体験室」、その他体験サービスなどがあげられます。調査回答では、地域生活の体験が重要との声が支援職員からあげられており、一般相談（地域移行支援・地域定着支援）や「自立生活体験室」の活用などにより、地域生活の体験を積み重ねることが大切です。

地域生活の継続・定着に向けた資源としては、例えば、グループホーム、居宅介護、重度訪問介護、短期入所、移動支援などがあげられます。これらのサービスを提供する事業所および職員の量の増加と質の向上、ならびに必要な支給量の提供が求められます。

設問「地域移行支援にかかる課題」では、「現在の地域の障害福祉サービス支援体制では、本人の行動に対応しきれない」という回答が高い割合となっています。これに対しては、「どのように本人を支えればよいのかを支援者が共有し、連携して支える」という視点が重要だと考えます。そのためには、本人のニーズや特性をふまえたうえで、本人の地域生活支援の全体像を描けるコーディネーターが必要だと思われます。あわせて支援者においては、本人の様々な生活課題を解決しながら本人が生活をしていくことこそが地域生活であって、支援者らが安心して送り出せる状態を整えることが地域生活ではない、という視点も再確認する必要があります。

人的資源という観点からは、専門知識やスキルの向上とあわせて、障がい者の尊厳や人権などを規定する基本法規（障害者権利条約や障害者基本法など）についての理解を深めることも重要です。障害者権利条約第19条では、「障害者が、他の者との平等を基礎として、居住地を選択し、及びどこで誰と生活するかを選択する機会を有すること並びに特定の生活施設で生活する義務を負わないこと」が定められています。支援職員には、「本人中心」の価値観をもって本人と向き合い、丁寧に話を聴き取る姿勢が求められます。地域で暮らすかどうかは、支援職員や家族の専決事項ではなく、本人のみに認められた権利であることを忘れてはなりません。

また、入所施設の自由意見では、地域移行後に、障がいの重度化や病気などで生活困難になった時のセーフティネットを求める声があげられています。地域における居住支援機能を担う「地域生活支援拠点」の設置検討なども含め、移行後のセーフティネットをどのように確保していくかも不可欠な取組課題です。その際には、入院や問題行動を「地域生活の失敗」と定義づけするのではなく、様々な個々の課題に対し、具体的にどう解決を図っていくか、という姿勢で取り組むことが重要だと考えます。

（４）重度障がいや高齢化などへの対応

　調査結果では、重度障がい者に係る地域資源の不足や入所希望を訴える声が多く見られました。また、支援職員による「移行不可」の判断の理由としては、「本人が地域生活に適応できない」という回答が多くを占めています。一方、聴き取り可能な入所者・入院者では、「障害支援区分/入院者状態群」が重くなっても「違うところ/病院以外での生活が良い」との回答割合が増加（身体）、あるいはほぼ一定（知的、精神）という傾向が見られます。入所待機者でも、障害支援区分が重くなるほど「今いるところでの生活が良い」という回答割合が高くなっています。

これらの声に対応するため、重度障がい者に対応した社会資源（グループホーム、重度訪問介護など）の充実を図るとともに、本人のエンパワメントを図りながら意向を丁寧にくみ取り、本人が望む生活場所の提供を実現することが求められます。本人の障がいの程度や活動能力で生活様式を制限するのではなく、社会や環境面での課題と捉え、本人の望む生活様式における支援環境を整えていく、という姿勢が必要だと考えます。

本人の年齢層を見ると、入所者では6割近く、入院者では7割近くが50歳以上となっています。さらには、本人から「地域生活で心配なこと」として「薬の管理、体調の管理、病院への通院など」が多く回答されるとともに、家族からは高齢化や医療面についての不安の声があがっています。高齢化や医療ニーズへの対応を一層充実させるためには、介護保険施設や医療機関との連携などについても検討を進める必要があります。

また、入所者・入院者では、高齢層において「障害支援区分/入院者状態群」が比較的軽くなる一方、「今いる施設/病院での生活が良い」の割合が高くなる傾向が読み取れます。入所待機者でも、高齢層で「今いるところでの生活が良い」の割合が高くなっており、年齢により、障がいの程度や希望する生活様式に違いが見られる結果となっています。

このようなことから、例えば、高齢・重度だから一律に施設入所、と考えるのではなく、障がい種別（身体・知的・精神等）、障がいの程度（重度・軽度等）、年齢など、本人の状態に応じ、意思確認やエンパワメントを行いながら支援を進めることも重要だと考えます。

（５）情報提供・情報共有について

　前述したように、「受けられる手助け（サービス）について知りたいか」という設問については、「知りたい」という回答は入所者・入院者では約半数、入所待機者では約6割にとどまっています。一方、本人の自由意見では「地域移行の情報がない」「施設に説明に来てほしい」などの声もありました。

支援職員に対する設問回答を見てみると、「本人に対する地域移行に向けた取組」では、「情報提供」はほとんど行われておらず、「地域移行支援にあたり有効な働きかけ」では、「障害支援区分/入院者状態群」が重くなると「特に思いつかない」の割合が増え、「情報提供」の割合は低くなる傾向となっています。「本人への地域移行支援にかかる課題」では、支援職員が「移行不可」と判断すると「情報の周知・共有」の割合が大きく低下しています。

「エンパワメント」や「体験の積み重ね」と並び、情報提供は支援の重要な一要素です。障がい程度の軽重などに関わらず、情報提供を行うという姿勢を有することが必要だと考えます。そのためには、支援者と本人が情報を共有したうえで、本人の障がい特性に配慮したわかりやすい情報提供が求められます。ピアサポーターをはじめ、地域生活経験者の体験談なども情報提供の方法として有効だと考えられます。

（６）障がいのある方への共感・理解と、権利擁護の促進について

　本人の自由意見では、「外出時の周囲の人の視線が嫌だ」など理解・啓発を求める声や、

「お金（お金の管理）」を心配する声などが見られました。家族の自由意見では、地域住民からの偏見、本人の相談相手を心配する声、将来の家族不在に備えた後見人選定の懸念、詐欺等の被害を心配する声などがあがっています。また、後見人からは、「決められた生活を強いられてきた方々を支えるためには、自己決定・自己実現をサポートする支援者の育成がとても大切」として、成年後見制度の一層の普及を求める意見がありました。

障害者差別解消法の施行に向け、障がいのある方への共感や理解を深め、障がいの有無に関わらず「市民」として、ともに暮らせる社会を実現するとともに、障がい者の地域生活を担保する、各種権利擁護制度の周知・活用などを図る必要があります。

（７）相談支援とネットワークについて

　（１）～（６）の項目に係る支援を進めるためには、地域における相談支援体制やネットワークの構築とその充実が欠かせません。地域生活への移行については、入所施設・精神科病院だけの取組とならないよう、地域の相談支援事業者や市町などと連携しながら、計画相談の取組などを進め、支援ネットワークを構築することが必要です。また、入所待機者についても同様の取組推進が必要です。サービス等利用計画の導入により、地域生活の視点を織り込んだケアマネジメントの実施が求められるようになっており、個別支援計画も含めた両計画の質の向上に取り組むことが必要不可欠だと考えます。

相談支援の質の向上とネットワーク化を図るためには、「基幹相談支援センター」の設置検討を進めるとともに、地域の自立支援協議会や精神障がい者地域移行・定着推進協議会などを活用して、地域生活支援に係る目的と情報を関係者が共有し、社会資源の調整・開発を行っていくことが重要です。地域の関係職員による「チーム支援」の位置づけを明確化し、自立支援協議会や精神障がい者地域移行・定着推進協議会などにおいて、課題解決に向けたＰＤＣＡサイクルを実施していくことが求められます。